

藤井寺 高
ふじ つか

93

創立20周年記念誌 平成5年

大阪府立 藤井寺高等学校

創立二十周年 記念誌



校歌

作詞・作曲 森井久文

一 春霞むす河内国原

みはるかす御陵の森は

万年の歴史を称ふ

聖なる文化の都市に

輝ける道拓みんと

進みゆく藤井寺高校

二 大和川の水清きこと

濁世にも染まぬ心と

たくましさ健児の力を

新しき世紀に臨み

育みて世に問ふゆかむ

ここにあり藤井寺高校







教育方針

1. 自他の敬愛と協力によって、民主的平和的な国家及び社会の形成者にふさわしい人格の育成に努める。
2. 真理と正義を愛し、個人の尊厳を重んじる情操豊かな人物の育成に努める。
3. 世界的視野に立ち、科学技術のめまぐるしい変動に対処し、国際性豊かな人物の育成に努める。

目 次

挨拶	
創立20周年を迎えて……………	5
21世紀へ向けて、更なる発展を……………	6
創立20周年を迎えて……………	7
祝辞	
祝辞……………	8
創立二十周年を祝う……………	9
藤高20年の飛躍を祝して……………	9
創立二十周年を祝う……………	10
藤高の益々のご発展をお祈りして……………	10
創立20周年を迎えて……………	11
式典会場の使用契約も終って……………	11
風土と歴史……………	12
沿革……………	14
校章・校歌・制服・「心の石庭」……………	16
20年の変化……………	18
校地校舎……………	20
思い出の学校行事……………	22
合格発表・入学式……………	22
遠足……………	23
新入生宿泊研修……………	24
芸能鑑賞……………	25
野外活動・臨海学習……………	26
スキー教室・長距離走大会・校内球技大会……………	27
藤高フェスティバル体育の部……………	28
藤高フェスティバル文化の部……………	30
修学旅行——スキー研修旅行……………	32
10周年記念式典……………	35
カルタ大会・風揚げ大会・リーダー合宿……………	36
卒業式・答辞……………	37
20年あれこれ……………	38
座談会「藤高の昨日、今日、明日」……………	44
校務分掌……………	54
部活動の記録と状況……………	68
資料……………	74



創立20周年を迎えて

校長 油上良蔵

藤井寺高校が呱呱の声をあげて、今年で20年になります。

はるか見渡せば、生駒、信貴、二上、葛城、金剛の山々。間近には、応神天皇陵をはじめとする数々の古墳の森。また四季の移ろいにたたずまいを変えてゆく大和川の岸边。そして校舎周辺には野鳥のさえずる田園風景などなど。今も変わることなく恵まれた教育環境の中で、藤高生は今日も伸びやかに、そして明るく勉学にクラブ活動にと励んでいます。

20年の間に本校を巣立った卒業生は1万名に達せんとし、今や有為の人材として各界で活躍しています。1学年12クラスで全36クラスを擁する本校の在校生千五百余名も、これら諸先輩に続くべく、日々頑張っています。もとより本校としても、早くから充実した教育活動ときめの細かい進路指導を実践してまいりましたが、その甲斐あって、近年はめざましい成果が上がり、今日かくも隆盛を見るに至りました。このことは、ひとえに歴代校長先生をはじめとする各教職員のご尽力は申すに及ばず、府当局・PTA・育友会・同窓会、そして地域の皆様方の暖かいご指導・ご支援のたまものと心より厚くお礼申し上げます。

20年という歳月を数えて、今、その歴史の重みをかみしめつつ「これまでの藤高」を単に振り返るだけではなく、栄光ある伝統をより確固たらしめる「これからの藤高」にも思いをいたさなければなりません。誠に意義深く大きな節目を迎えたというべきでありましょう。

さて、本校には『心の石庭』と名づけられた美しい中庭があります。初代森田校長先生の発案によって作られたもので、その願いは藤高生一人一人が「広い心」・「暖かい心」・「思いやりの心」を持ってほしいということにあります。いわば本校教育の根本をなすものといえましょう。生徒諸君にはこの精神を忘れずに、古い歴史と人情豊かな土地柄の中、人間性に富んだ人物に育ってほしいと願ってやみません。

その意味で、私は藤高生に、韓非子の言葉を贈ります。すなわち「自ら待みて人を待むことなかれ」と。元来本校には、生徒の自主性を重んずる校風があります。各人が持てる力を信じて、他人をあてにせず、自分の力で努力することが大切です。そのために一人一人が自分の持ち味・個性を生かし、自分の良さを伸ばしてほしいのです。併せて、自分がどんな時代に生まれ、どんな社会に生きているのか、しっかりと認識することも必要です。そうでなければ、自らの歩むべき道も見えず、果たすべき責任もわからないでしょう。どうか藤高生としての高い矜持を胸に秘め、来る21世紀—全人類の平和的共存・地球化時代を担えるようなたくましい若者になって下さい。

そして、この藤井寺高校そのものも、いわば今年成人式を迎えたばかりの若い学校です。20周年を契機に、教職員・生徒が決意も新たに大きな一歩を力強く踏み出さなければなりません。来る21世紀初頭、30歳の誕生日を迎える頃には、文字どおり少壮有為の誉れを不動のものにしたい所存ですので、関係者の皆様方には何卒倍旧のご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

末筆にはなりましたが、記念事業に多大のご協力・ご尽力を賜りました皆様、並びに本誌の編集に携わって下さった方々に満腔の謝意を表します。



21世紀へ向けて、更なる発展を

創立20周年記念事業実行委員長 宮村 喜志男

昭和49年に藤井寺高校が創設され、ここに20周年を迎えますことは誠に意義深いことでもあります。

本校中庭の心の石庭や藤井寺市の市章をもとにした金色の高の字のある校章にこめられた本校の躍進と発展への願いが、歴代の校長先生をはじめ諸先生方、PTA歴代会長並びに実行委員の方々に連綿と受け継がれ、並々ならぬ御努力の御陰をもちまして、現在の実績と評価を勝ち得られましたことは、ただ感嘆の一語に尽きます。

20年の歳月を思うに、第一期生として卒業された皆様は社会の中核として活躍しておられる訳ですが、めまぐるしく変貌する現代社会に於いて、国内外を問わず、私達はその対応に苦慮致しております。物質文明社会と言われ、そのおごりで飽食の世代が増え、一方では、経済優位による開発など地球規模での環境破壊が進んでいます。因みに日本は世界で最も森林の多い国であり、カナダやノルウェーやブラジルをはるかに凌駕しています。国土に対する森林の割合では、他のどんな国も及ばないのです。日本の総面積-37万7815平方キロの優に67%は森林で覆われており、その多くは山の斜面に育つ常緑樹です。約4000万世帯の住む住宅やアパートは国土のわずか2.5%、工場や他の産業用地が占めているのは0.4%にしかすぎないのです。そんな恵まれた国でありながら近年は地球の温暖化、砂漠化、そして酸性雨、放射能、水質汚染等々。高度化された日本の消費社会とその豊かさの中に安住しながら、私達は何となく後ろめたさを感じ、一方で底知れぬ不安感をつのらせ始めているといえるかと思えます。

考えますに、近年、私達は、石と金属、冷たい無生物と無機物の文化によって、木と緑、温かな生命あるもの、有機物の永久に尽きることのない循環系の文化をあまりにも捨てすぎたのではないのでしょうか。物質に対する精神の優位、人が人を愛する不変の心。そうした心が等閑になっているように思うのであります。人間は一人では生きてはいけません。社会の中にあって人と人との信頼関係は相手を理解する、そこから信頼感が生まれると思えます。

さて、昨今、家庭での教育力の低下がいわれて久しい訳です。その原因は、社会の変化や家庭の変化による都市化、核家族化、少子化、学歴社会、受験競争、さらには家庭崩壊、教育不在などにあると思えます。

親子関係というのは、別に意識をしなくとも常に思いやりのある人間関係であると思えますし、当然そんな中から親子の対話、融和が生まれてくると思えます。家庭の庭は花の咲きみだれる庭だけではなく、心のあたたかい庭であってほしいものです。

本校創設期と現状とでは社会環境が激変していると思えますが、社会のニーズに対応した人間形成とは「学校教育法」などに記されてある「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、個性の確立に努める」人間を形成することに変わりないと思えます。20周年を節目として、学校、家庭、地域社会が三位一体となり藤井寺高校の益々の発展と充実がなされることを願ってやみません。

最後に、20周年にあたり御尽力賜りました校長先生をはじめ諸先生方、各委員の皆様、各関係方面の皆様様に厚く御礼申し上げます。



創立20周年を迎えて

PTA会長 松村正勝

大阪府立藤井寺高等学校、創立20周年を迎えられ心からお礼申し上げます。本校を開校以来、今日のように発展させてこられた歴代校長先生始め、諸先生方、PTA先輩諸氏、並びに卒業生の皆様方の並々ならぬ努力に対し深く敬意を表す次第です。開校以来20年、我が国の経済成長と共に成長の一途を辿って来られました。この原動力となったのは言うまでもなく、私生活をも顧みぬ教育熱心な教師陣と、それをとりまく素直な生徒達の密着な結びつきにあると思います。この師弟一体となった教育方針、又クラブ活動も熱心で常に校内に明るさを絶やさない校風が、現在の発展著しい藤井寺高校を築いて来たものと言えるでしょう。

しかし現代社会の急激な変化の中でバブル経済とその崩壊、一方高校教育では多様な生徒に対応するため量より質、個性に応じた教育が求められています。これからの教育は、これまでの反省と21世紀を展望して、生徒一人ひとりが、社会の変化に自ら対応出来る、心豊かな人間の育成を図ることが強く要求され、大きく変化していく時期に来ています。

そんな社会に対応していく上で、基本とも言えることで最近特に、若者を中心に話し言葉の乱れを強く感じる場合があります。今、若者と呼ばれる世代の中では、「ヤバイ」「マジ」「ウッソー」など意味不明の言葉が日常化しています。又そうかと思えば「グローバル」「コンセプト」「アメニティー」など逆の意味で理解に苦しむカタカナ言葉のはんらん等、現代社会の中で用いられる言葉は情報化、国際化の波を受けて激しく変わりつつあります。これらを「乱れとみるか揺れとみるか」生きている言葉づかいの難しさを痛感します。「わかりやすく、的確で、美しく、豊かな言葉」をめざし国語を愛護する精神を養うことを基本にこれからの日本語の在り方を考えるべきではないでしょうか。

この点を踏まえて言えば、日本語が社会の変化に伴って変わっていくのを認める一方で、日本文化の伝承という役割を軽視してはなりません。それが日本語をより豊かなものにしていこうと思われま。社会の変化に対応して登場する外来語や和製英語のカタカナ言葉は、日本人の「新しもの好き」の表れで、実態は同じものでも新鮮なイメージを与えるがこうした言葉は「便利な言葉」として受け入れればよいのではないのでしょうか。これらの言葉は新しい日本語として定着し、美しい言葉として自浄作用するのか、あるいはすぐに消滅してしまうのか、それは使う側の、つまり私達日本人の美意識による問題であります。

又その一方で日本文化の伝承という役割を大切にすべき意味からも、古くから使用されている言葉は決して軽視し排除すべきではありません。今後日本社会がいかなる発展を遂げようとも丁寧語や敬語、そして方言も私達の大切な財産として学校教育、家庭、社会で根強く残していくべきであります。

「言葉は生きもの」で不易流行があり、時と共に変化します。それと同時にその土地の風土に根ざした言葉のニュアンスやリズムを持っています。言葉はこのめざましく変わる現代社会と同じくして時と共に変化していきます。

いかに取捨選択していくか、意味のわからない言葉に振り回されるのではなく私達が言葉を使いこなしていくことがこれからの日本語にとって最も大切なことではないのでしょうか。そしてこの日本語の在り方は21世紀の中心世代となる今の若者達だけに限らず国民一人ひとりが真剣に考えるべきだと思います。

末筆になりましたが藤井寺高校の今後益々の発展を祈念いたしますと共に20周年記念事業にご尽力、ご協力戴きました関係各位、学校当局、またPTA関係各位に心より感謝申し上げます。



祝 辞

藤井寺市長 堀 端 宏

藤井寺市津堂在の大阪府立藤井寺高等学校長油上良蔵校長先生が、わざわざ市長室へ私を訪問され、「藤井寺高校開校20周年を迎えます。是非一文をお願いします。」とご丁寧なおたのみであった。「特に市長さんは当時府議会議員として大変ご苦勞されたとお聞きしておりますのでその思い出などでも結構ですが」と言われて、厚かましくもお引受けしました次第です。

まずは、開校20周年、心からお喜び申し上げます。その20年の歴史は大変なご努力と汗の結晶での成果であり、地域で高く評価されている今の藤高があると私は思っています。諸先生方、おめでとうございます。

私には建設開校を通じて特別の感慨が、この20年の年月を隔ててもなお、それが昨日のように思い出されます。

藤高要覧の沿革には、昭和48年6月1日着工とあります。その時にも、私にとってはやっと着工にこぎつけた、という思いがありました。それは、この学校用地の買収が難航し、一時は美原高校用地買収の方へ中心が移った程でした。それが美原高校用地から廃寺跡が発掘され建設が遅れることになったことが幸いして、又用地買収が継続されることになり、買収完了後の文化財発掘で、美原高校同様になりかねない模様も再々ありましたが、何とか着工ということになったのです。

ところが、この昭和48年は当時の高度経済成長の第一次最盛期になっており、今日でいうバブル最盛期のまっただ中であつたのでした。その年11月第1次オイルショックとなり、店頭から突然石油、灯油が消え、建設セメントが消えるという激変時となりました。地元市民やPTAの皆さんには、昭和49年4月1日には絶対開校しますと府会議員として言明してきただけに工期のおくれは大変でした。今でこそ当時の経済状況、特に石油原産国OPEC（石油輸出国機構）と先進国メジャー、シェル、モービル等との大喧嘩が原因だったことは誰もがご存知のことですが、当時は私も何が原因なのかわからないまま、現状を説明して理解を求めたのですが、当時のPTAの方々にはご理解いただけず「セメントがないなら早く何処かで見つけてこい」とつつかれたものでした。その昭和48年（1973）は10月頃に紙不足が発生し、家庭チリ紙トイレットペーパーの買い溜めが発生して、とくに京阪神一円は大変な生活不安状況であつたに続いてのオイルショックであり、今昭和史全記録を見ましても「石油売り惜しみ」「七輪売れ出す」「東京のゴミが減る」「田中内閣経済緊急事態宣言」「原油2倍値上げ」の文字が相ついでいます。

その背景のなかで、何とか建設が進み、無事入学試験も済み、開校の運びとなりましたが、しかし体育館での入学式は出来ないで、藤井寺市民総合会館の大ホールでの入学式となり、「お約束は果たしてもらえませんでしたね」と入学新一年の保護者に言われたのを、昨日のように思い出します。そして新一年生は先生方と共に自分の教室への机や椅子運びなどもやって、第一歩をスタートしたのでした。

最初から大変な難産のスタートでしたが、それだけに藤井寺高校への期待は常に私の心のなかであり、入学式・卒業式のご案内を受ければ、藤井寺市長の今も喜んで出席させてもらっている次第です。

20周年の祝辞としては、ややくりごとの感無きにしもあらずではありますが、20年誌の記録のなかに、建設当時の事情など残してもらえればと思ひ述べさせていただきました。

この20周年を期として、益々藤高の歴史の栄光が輝きますよう、心からご期待申し上げます。

自分で希望を捨てない限り、希望は自分を見捨てない



創立二十周年を祝う

初代校長 森田 敏夫

初代校長として藤井寺高等学校へ着任いたしましたのは昭和四十九年一月一日の藤井寺高等学校開設と同時でした。

教員生活最後の三年三ヶ月でしたので学校発展の為に全力を尽くしました。

当時を思いおこしますと第一次オイルショックのさなかでもあり経費節減のため植樹をやめ特に中庭は芝生にして四ヶ所に小石を集めて心の字にしたのは私の自信作です。

二十年の間に遂げられた御発展をたのもしくまたうれしく思っています。

二十一世紀にむけてますますの御発展を祈ります。



藤高20年の飛躍を祝して

三代校長 山田 忠雄

創立20周年を心からお祝い申し上げます。

多くの人材を社会に送り出し大きな飛躍を遂げられていること誠に喜ばしいことと存じます。

私が藤井寺高校に赴任いたしましたのが、昭和55年3月初め高校入試の入学願書受付の最中でありました。二代校長土井先生の研修旅行付添での御不幸な出来事のあったあとのことです。先生のご冥福を祈ります。

而しながら、日頃から藤井寺高校の教職員の皆様方には和をもった雰囲気の下に、一致団結して諸行事を行い、又学校教育を非常によい方向で進められたことが思いうかびます。

今日の学習指導に教育活動に進んでゆき目的達成につながり大きな飛躍と多くの優秀な卒業生を送り出したことであります。

又、藤井寺高校は城山古墳を始めとする多くの文化財とみどりの農地を眺める田園風景の中に建設された立派な学校であります。立地条件から自転車通学の諸君が多く駅前置場、校内置場などで全職員の皆様方に大変御苦労をおかけしたことも思いうかびます。

さて、学校の歴史も20年という歳月を経て、巢立たれた皆さんは、それぞれの地で活躍されていることを聞くにつけ思う事は、在校生の皆さんにはこの節目を大切に、藤井寺高校の教育方針「敬愛と協力の精神」でもって進み学習に意欲をもって学力、体力を身につけ進んでいかれることを願うものです。

お互いに切磋琢磨してきずかれた立派な校風を一層伸ばしていくことと、21世紀に向けて大きく飛躍前進すること、そして藤井寺高校の一層の充実と発展を祈念申し上げましてお祝いと致します。



創立二十周年を祝う

四代校長 市橋 平三郎

私達の藤井寺高等学校が、今や地域社会にしっかりと根を張り、かくも立派に成長されて、ここに創立二十周年を迎えられたことは何にも増して嬉しい限りであります。光陰矢の如しと申しますが、新興の気に燃えて情熱をたぎらせた草創の頃が、まだ昨日のように脳裡に焼きついているのと思うと、感無量なるものを覚えます。と同時になつかしい往時を振り返る時、中庭の果たした役割の大きさを今更の如く痛感するものであります。

中庭は初代森田校長先生が、建設工事の掉尾を飾って、画龍点睛、藤高の進むべき目標と心の拠り所を、ここに示されたものであります。玄関を入るや、思わず刮目させる広々とした、悠々迫らざる緑の天地、そして心の安らぎは、自ずと接する人の雑念を払って大自然の真実に人を誘い、満々と水を湛えた心字池の様は、尽きることなく湧き出る清澄な英知を感じさせます。思えば中庭は、まさに人々の生き方の到達した窮極の境地の象徴であります。

私たちは中庭の自然に、安易な甘えや妥協・ごまかしを許さない厳しきや精一杯生きることの美しさを学び、自力で人生を切り拓いていくたくましさや育成すべく、時に自己の限界に挑戦させて自信と誇りを養い、時に静かに反省を通して自己を見つめさせ、また藤井寺養護学校との交流から人間の尊さを身をもって学習させる等、教育活動の全ては人間性の陶冶の具体的実践に向けたものでした。今、多くの人々の努力によって創業の精神はここに実を結び、藤高は立派に成人されて洋々たる前途に船出せんとしております。これを契機に更に飛躍発展されんことを心より祈念し、お祝いの言葉といたします。



藤高の益々のご発展をお祈りして

五代校長 清水 正樹

我が藤井寺高校が昭和49年に松原高校、長野北高校など11校と共に誕生し、関係の方々のご尽力によって極めて順調な歩みを進めてここに成年の齢に達し、なお一層の発展の途に在りますことは真に慶賀の至りでございます。

私は昭和62年度から4年間お世話になりましたが、丁度、生徒急増期から急減期に転ずる時期にあり、私立高校の新たな経営施策等に対応して、他の府立高校同様学校の進路を明確に打ち出すことが急務であり、私といたしましては、藤高生の実態や保護者及び地域の方々の藤高に寄せる期待等、種々の要素を考えた結果、進路指導の充実が藤高にとって最重要課題であると考え、機会ある度に、将来の目標を設定し、日々緊張感をもって努力することの重要性を訴えて参りました。

幸い、このような教育理念は、多くの教職員の方々にも理解され、全員が心一つにして、生徒一人ひとりに対し、藤高生としての在り方に関する指導を徹底すると共に、基礎学力の充実に向けて熱心な指導が展開され、当然のことながら、このことは、生活指導面にも波及して、生徒諸君に藤高生としての誇りを抱かせる結果になったように思われます。

私は常々、「良い学校とは在学期間における学力及び全人格的要素の伸び率が大きな学校」と考えておりますが、その意味において、藤高は学習指導面・生活指導面等、学校教育における総合的教育力が府立高校の中でも最も優れた学校の一つであると確信しております。

このように、藤高での4年間は、生徒諸君の真面目な努力はもとより、教職員の方々・保護者の皆様方、そして近隣の中学校など地域の皆様方のご支援・ご協力によりまして、私が抱いた教育理念が次々と具現化される喜びの中での歳月であったように思われ、実に幸福な日々を送らせていただいたことを感謝致しております。

最後になりましたが、藤高の今後益々のご発展と関係の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



創立20周年を迎えて

同窓会長 若林和博

藤高が創立されて20年という歳月の中で、数々の試行錯誤とたゆまぬ努力によって、現在のように成長し、また各方面よりの評価と評判を耳にしますと、卒業生の1人としてたいへん喜ばしく思います。

藤高創立の当初には、雨が降れば沼のような運動場と騒音の中の教室、廊下での体育授業、ドロの中庭にポツンと立つ材木に取り付けられた暗夜灯、そして工事進行によって変更される通路、まさに工事現場の中の高校でした。しかし、月日を重ねるごとに体育館が建ち校舎も完成し、運動場も整備され、みごとな高校としての全貌が教職員の方々と共に当時生徒であった我々を大らかに包んでくれました。

学校生活においては、新設校とは思えないほどの数々の行事もあり、環境の不自由さを跳ねのけるほどの活気に溢れるものでした。これらの行事と気質が現在もなお受け継がれていることは嬉しく思えてなりません。

卒業生にとって母校は、かけがえのない時空を越えた交歓の場であり、永久の発展と活躍を共に歓び合える「心のふるさと」でもあります。藤高はそのような母校として我々卒業生に常に歓びを分かち与えてくれていると思います。

この20年間、藤高の発展のために教職員の方々、ならびにPTA役員の方々の多大なる努力と働きを尽されたことに深く感謝の意を表し、益々増える同窓生と共に藤高の伝統を守り育て、母校の発展に助力していきたいと思えます。

■ 記念式典に向けて

式典会場の使用契約も終って

事務長 福田貴穂

平成5年5月18日、大阪厚生年金会館に出向き、式典会場使用契約の手続きを終えまして、本年11月6日（土）の式典会場が正式に決まりました。

こゝに至るまでには、今年4月に転動された前教頭の中川幸雄先生を始め、教職員及び同窓会の有志の方々の大変なご苦労がありました。会場選定の段階で知ったのですが、大阪の様な大都市でもこうした大規模な会館が意外に少ないのです。従って利用する側が希望する日を確保するためには、まず予約するための順番を確保しなければなりません。そこで有志の先生方で「申込み順番確保班」なるものを編成し、予約申込み受付日に備えました。

平成4年10月30日の早朝から3泊4日の日程で作戦開始です。（実は29日深夜から吉田正博先生がすでに現場へ行っておられたのです）2、3人1組で同会館裏の通路へ座り込んだのです。10月下旬にしては暖かい日が続いていたのですが、どうしたとか、30日頃からその年最初の寒波が押し寄せてきて、大変厳しい野営となりました。それでも校長先生や米田先生ご夫妻から、連日暖かいコーヒーや夜食等の差し入れをして頂きほんとうに有難く元気づけられました。こうして延20名の先生方による4泊5日の泊り込み作戦が功を奏し、受け付けの当日には約40組中2番目の順位で希望どおりの日を予約することが出来ました。

振り返ってみますと、2年前の平成3年7月1日、記念事業に関する情報収集のため、油上校長先生に同行し先生の前任校である泉北高校へお邪魔をしたのが始まりで、その年の11月には「20周年記念事業実行委員会」が発足し、翌年3月には実際に計画を実行する「総務委員会」なる校内体制がととのい、記念事業に向けて本格的にスタートしました。

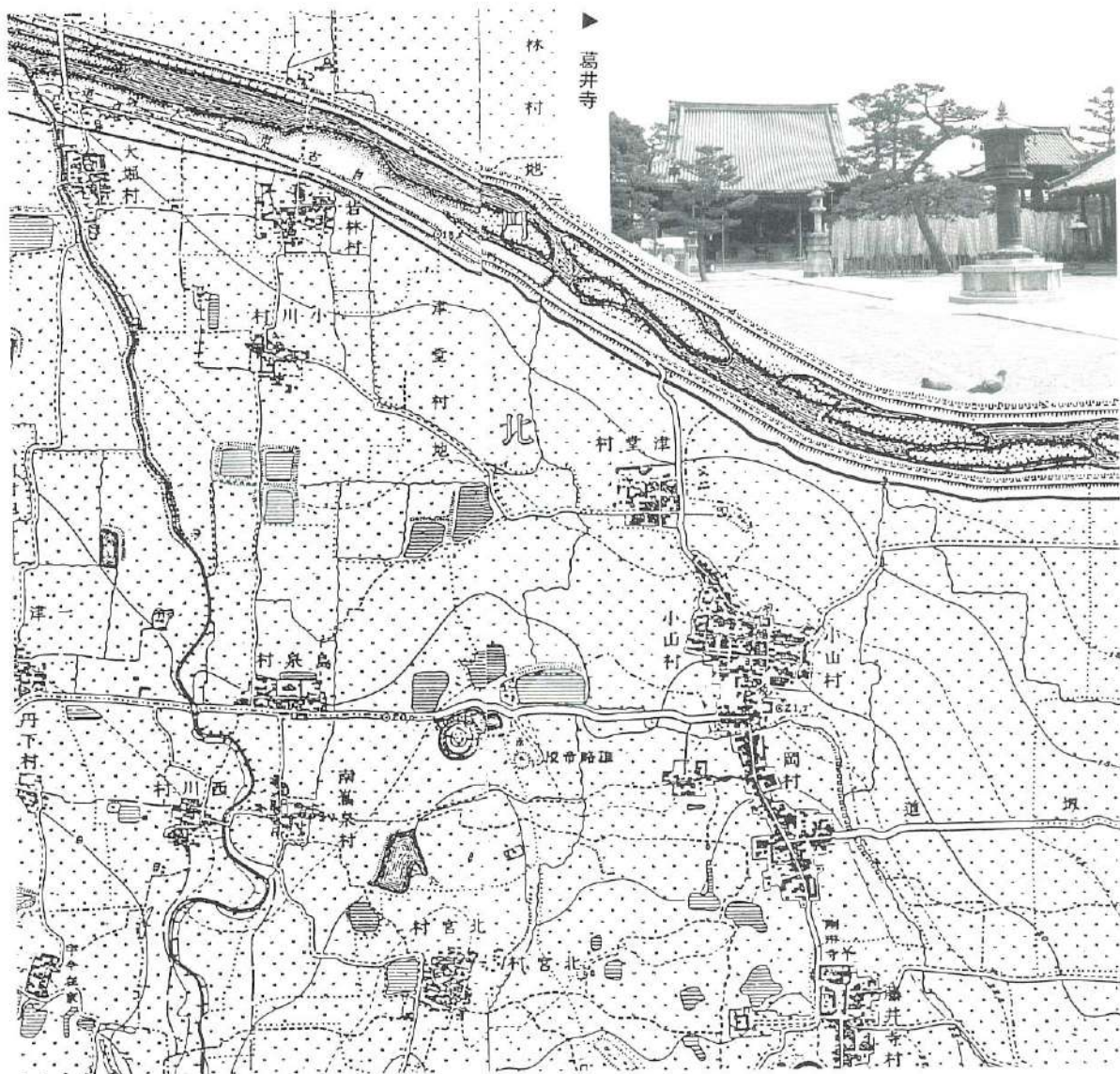
すでに生徒手作りの素晴らしい記念歌も出来上り、また記念誌掲載の座談会も無事終了、「記念事業」の輪郭もだんだんと浮彫りになってまいりました。先生方のご努力のうちに「11月6日」に向け準備は着々と進められています。

本番まであと4ヵ月余り、私も先生方の熱意に負けないよう微力ながら頑張りたいと思っています。

風土と歴史

本校の所在地である藤井寺市は、大阪府の南東部、南河内の一角を占める大阪市の衛星都市の一つである。南は羽曳野市、西は松原市、東は石川、北は大和川に囲まれた地域である。本校は藤井寺市の北西端にあたり松原、羽曳野の3市の境界が集まる所に立地している。藤井寺市は、本校創立の年、1974年の人口が5万7000人、93年の人口が6万6000人のこじんまりとした都市であるが、近鉄藤井寺駅周辺に見られるように、この20年間に著しい変貌を遂げている。本校周辺は、市街化調整区域となっており、田圃の中に大きな校舎が目立っているが、区域の境界一杯まで住宅地が押し寄せつつある。

藤井寺市は、近年では近鉄パッセの本拠地、藤井寺球場の所在地としても知られるが、本市を含む地域一帯は、豊かな歴史的・文化的財に恵まれた地域として知られている。市内の国府遺跡は、新石

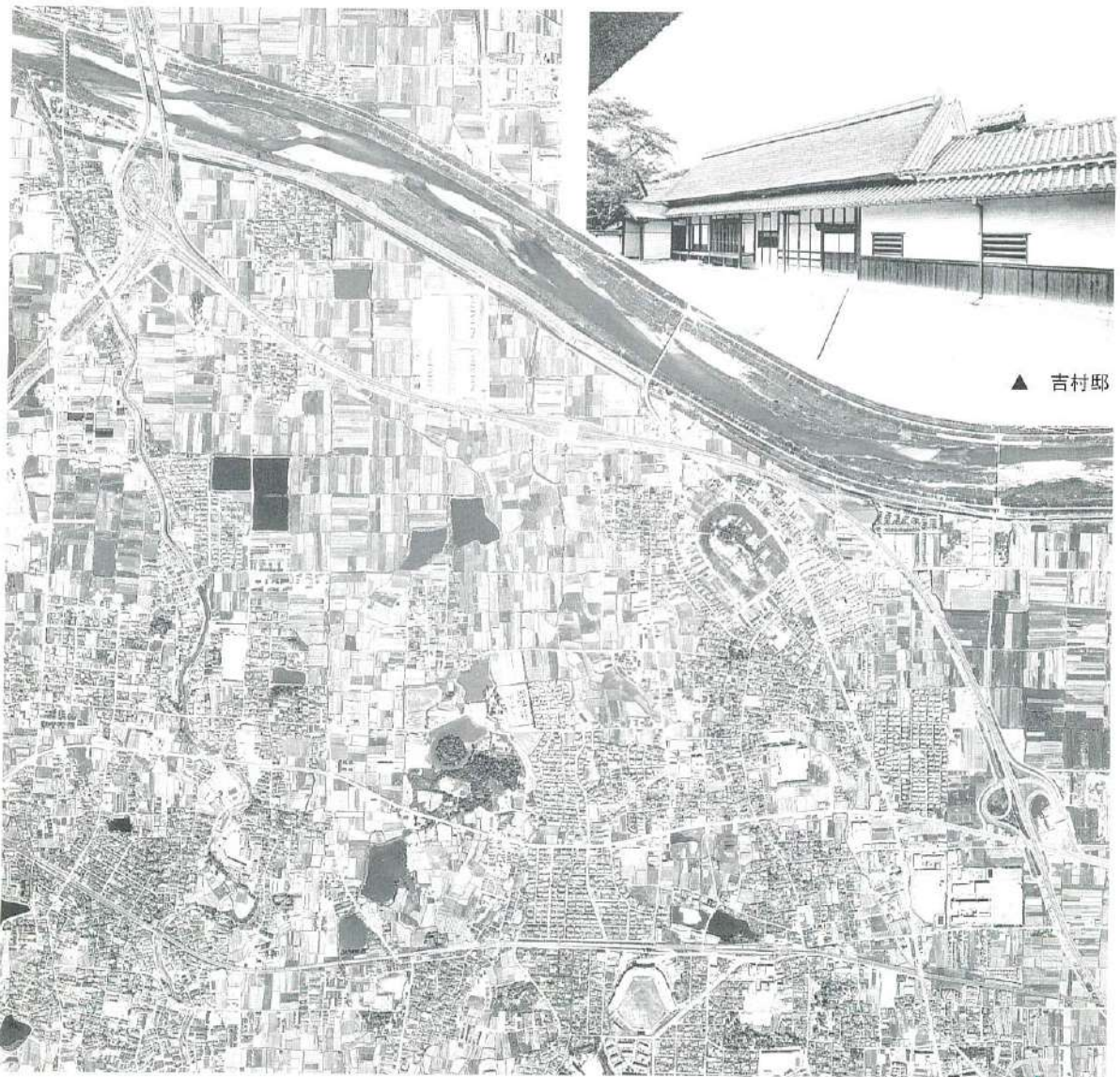


M17~M23 大阪地方版製 2万分の1地形図

器時代以来の複合遺跡で、日本史の教科書に取り上げられる重要な遺跡である。本市の東部から羽曳野市にかけては、古市古墳群とも呼ばれ、応神天皇陵をはじめ、我が国でも有数の巨大前方後円墳の集中する地域であり、本校からも城山古墳、雄略天皇陵などを真近に望むことができる。市域の北部には条理遺構が今も鮮やかに残っており、本校の校地もその一角を占めている。

本市の名のもとである藤（葛）井寺は、古代の藤井氏の氏寺であり、国宝千手観音で知られ、西国五番の霊場としても多くの参拝者を集めている。また、道明寺天満宮は、菅原道真と縁の深い古社である。

本校の南西徒歩10分ばかりの羽曳野市島泉には、代表的な近世民家として知られる吉村邸がある。本校の北を流れる大和川は、江戸時代の宝永元年（1704）、中河内地方を洪水から守るため、柏原から堺にかけ、新たに築かれたものである。



71年 航空写真



1 期工事遠影

沿革

- 1973年 3月24日 大阪府議会で本校の建設予算議決
73年 4月 1日 大阪府教育委員会事務局高等学校等
設立準備室において設立準備事務を
開始
- 73年 6月 1日 第1 期工事着工
73年12月13日 大阪府議会で大阪府立高等学校等設
置条例の改正により本校の設置を決
定
- 74年 1月 1日 大阪府立高等学校等設置条例の一部
改正施行により大阪府立藤井寺高等
学校として発足
- 74年 3月28日 第1 期工事竣工
74年 4月 1日 大阪府高等学校等設置条例により大
阪府立藤井寺高等学校開校
- 74年 4月 8日 第1 回入学式挙
74年 5月31日 第2 期工事着工
74年10月19日 体育館工事着工
75年 2月28日 第2 期工事竣工
75年 6月 4日 第3 期工事着工
75年 6月30日 体育館・プール工事竣工
76年 2月28日 第3 期工事竣工
77年 2月 3日 環境整備工事竣工
78年 4月 1日 自転車置場竣工
81年 3月31日 自転車置場設置（プール北）
83年 3月31日 グランド倉庫新築
84年12月 7日 渡り廊下（普通教室棟～体育館）塗
装・雨漏り補修工事
- 87年 3月31日 体育館屋根防水補修工事
87年10月21日 プール塗装修繕工事
88年 7月30日 図書館冷房機設置
90年 3月31日 体育館東側通路テント工事
保健室冷房機設置
- 91年 1月11日 漏水（理科棟階段部等）補修工事
91年 3月20日 校長室冷房機設置
91年11月15日 ・L L 教室設備更新
家庭科調理室設備更新工事
- 92年 3月31日 ビデオ編集システム設置
92年 8月20日 渡り廊下庇部欠落補修工事
93年 3月31日 理科棟他外壁改修工事



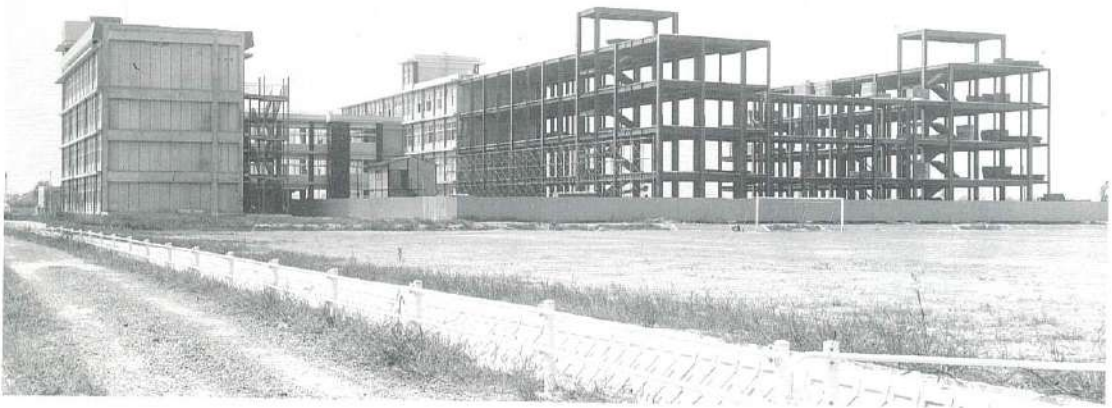
1 期工事基礎



1 期工事鉄骨



1 期工事 南西側より



2期工事鉄骨



2期工事終了



3期工事終了



3期工事完了

〈校章・校歌〉 こうして生まれました 〈制服・中庭〉

校章



藤井寺市の市章をもとに、本校の限りない躍進と発展を象徴する金色の高の字を組み合わせたものである。市章は、玦状耳飾と前方後円墳をデザインしており、古代の遺跡にめぐまれた藤井寺市を表わしている。玦状耳飾は縄文時代の人々が用いた装身具で、藤井寺市の国府遺跡からも出土している。玦とは中国の古代玉器の一種で、中央に孔のある円盤の一部に切り欠きのあるものをいう。藤井寺市から羽曳野市にまたがる古市古墳群は、我国でも有数の大型前方後円墳を多数含み、藤井寺市が古代において重要な地域であったことを示している。

校歌



校歌 作詞作曲 森井久夫

一 春霞 正河内国原
みほるかす御陵の森は
万年の歴史を称ふ
聖なる文化の都市に
輝ける道拓めん
進みゆく藤井寺高校

二 大和川の水清きこと
濁世にも染まぬ心と
たくましく健児の力を
新しき世紀に臨み
育みて世に問ひゆかむ
ここにあり藤井寺高校

開校まもなく、校歌早期制作の声があがり、さっそく全職員・生徒より歌詞を募集した。しかし、校歌としてふさわしい歌詞がなく、結局、音楽方面でも活躍中の国語科の森井久夫教諭に制作を依頼。1975年春「藤井寺高等学校の歌」として誕生。清らかなメロディーと、古き歴史を語る地に本校の発展を願う詩は、職員・生徒に親しまれ長く歌われてきた。創立10周年にあたり「校歌」として制定された。

—作者のことば—



作詩・作曲
森井久夫

この校歌は大和川の堤防で生まれました。近鉄「国分駅」から大和川に沿って約7km西下したところに藤井寺高校があります。私はこの道を、晴雨にかかわらず、自転車のペダルを踏みながら通いました。南には応神天皇陵をはじめ、巨大古墳の森が次々に姿を見せ私の心を引きました。東には二上山、金剛、葛城の山々が悠然とすわり、帰路を楽しませてくれました。また大和川の四季の移り変わりもすばらしいものでした。春のつくしん坊、菜の花の群生、夏の緑と野鳥の歌声、秋の月見草、冬のユリカモメや鴨の飛来、この美しい自然を十分に観賞しながら、私は口笛を吹き、校歌を作りました。万葉集が好きだったので、歌詞は五七調にし、頭に浮かんだ歌詞に勝手なメロディをつけて、あれこれと考えているうちに現在の形のものででき上がりました。したがってこの校歌は頭で作ったのではなく、大和川と御陵を目の前に見ながら自然に浮かんできたものです。

本校では当初制服は未制定で、生徒は暫定的に中学校の制服のまま通学することになった。生徒、保護者の早く制服制定をとの強い要望により、生徒、PTA、教員の代表からなる制服制定委員会により検討がすすめられた。問題となったのは女子の制服である。当時の家庭科の清先生によるデザインをもとに広く意見を取り入れ、ようやく制服が決定された。ネクタイは夏・冬とも学園の平和と発展を表わすカラーであるグリーンに統一した。

6月1日の夏服より、真新しい制服で全員が晴々と登校できることになった。さいわい本校の制服は、生徒、父母、それに一般市民にも好評を博している。

男子は、15期生から夏服のカッターを指定し緑のFの字の刺繍を入れた。16期生から、紺色・ラウンドカラー学生服・ズボンに校章入りのものを設定。また、従来の学年別に校章の色を分けて、制服購入後に装着していた方式を、一色に統一し制服業者が納入前に着けておく方式に変更した。



男子 (冬) 詰め衿学生服(紺)
(ラウンドカラー)

(夏) {カッターシャツ(白)
ズボン(紺)}

女子 (冬) {ブレザー(紺)
ベスト(紺)
プリーツスカート(紺)
シャツブラウス(白)
ネクタイ(深緑)}

(夏) {シャツブラウス(白)
プリーツスカート(紺)
ネクタイ(深緑)}



第三期工事の一環として昭和51年に完成した。初代森田校長の発案によるもので、様式は、八方正面の俯瞰庭園である。

中央部分は、16個の丹波石と白川砂敷の石庭となっており、上方より見ると「心」の字となるように配置されている。石庭部の周囲には高麗芝の部分、校舎との境界部に灌木帯を配している。

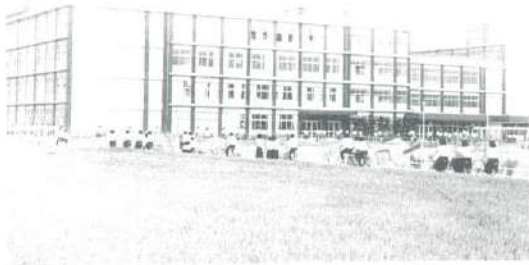
灌木帯の樹種は、ヒラドツツジ、サツキ、ドウダンツツジ、シシガシラ、ジンチョウゲなどである。技師の方々の除草、剪定、消毒といった維持管理の努力のおかげで、季節に応じて、芝生の緑、美しい花々が目を楽しませ、やすらぎをもたらし、また夏のきびしい日ざしを大いにやわらげ、学習環境を高める効果は、極めて大きいものがある。



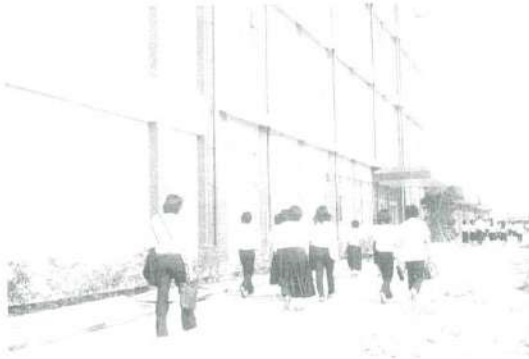
20年の変化

開校当時

現在



通用門登校風景



玄関付近登校風景



中庭

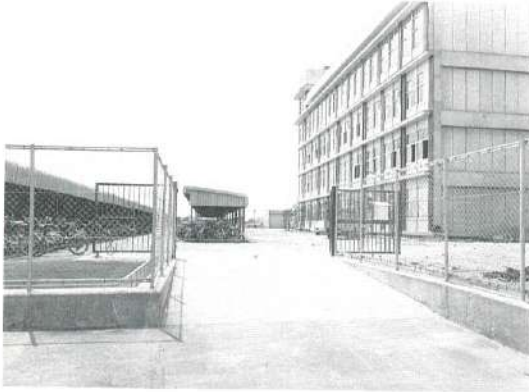


正門自転車置場

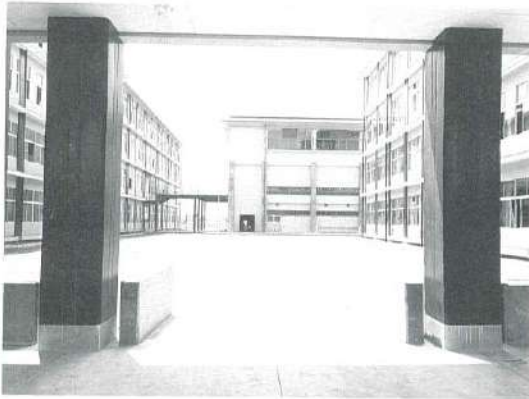
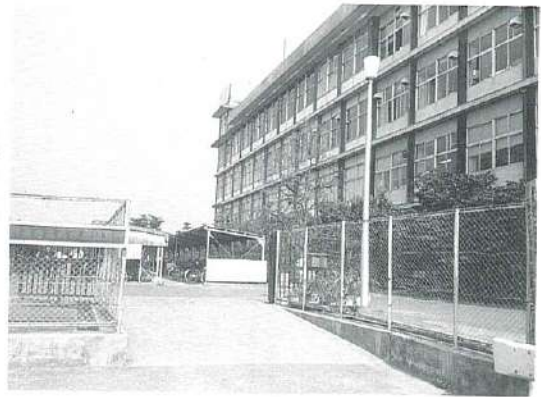




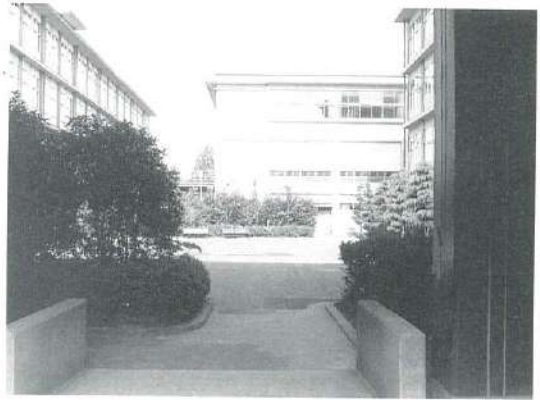
食堂の方々



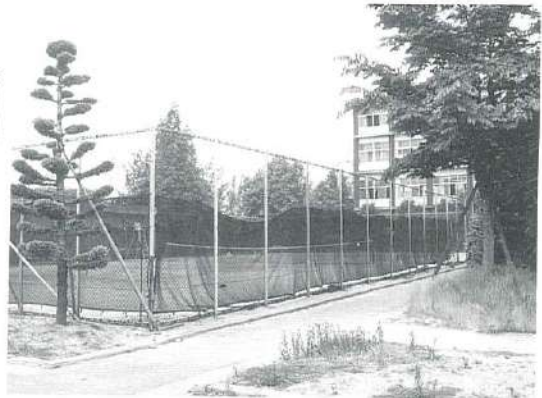
通用門



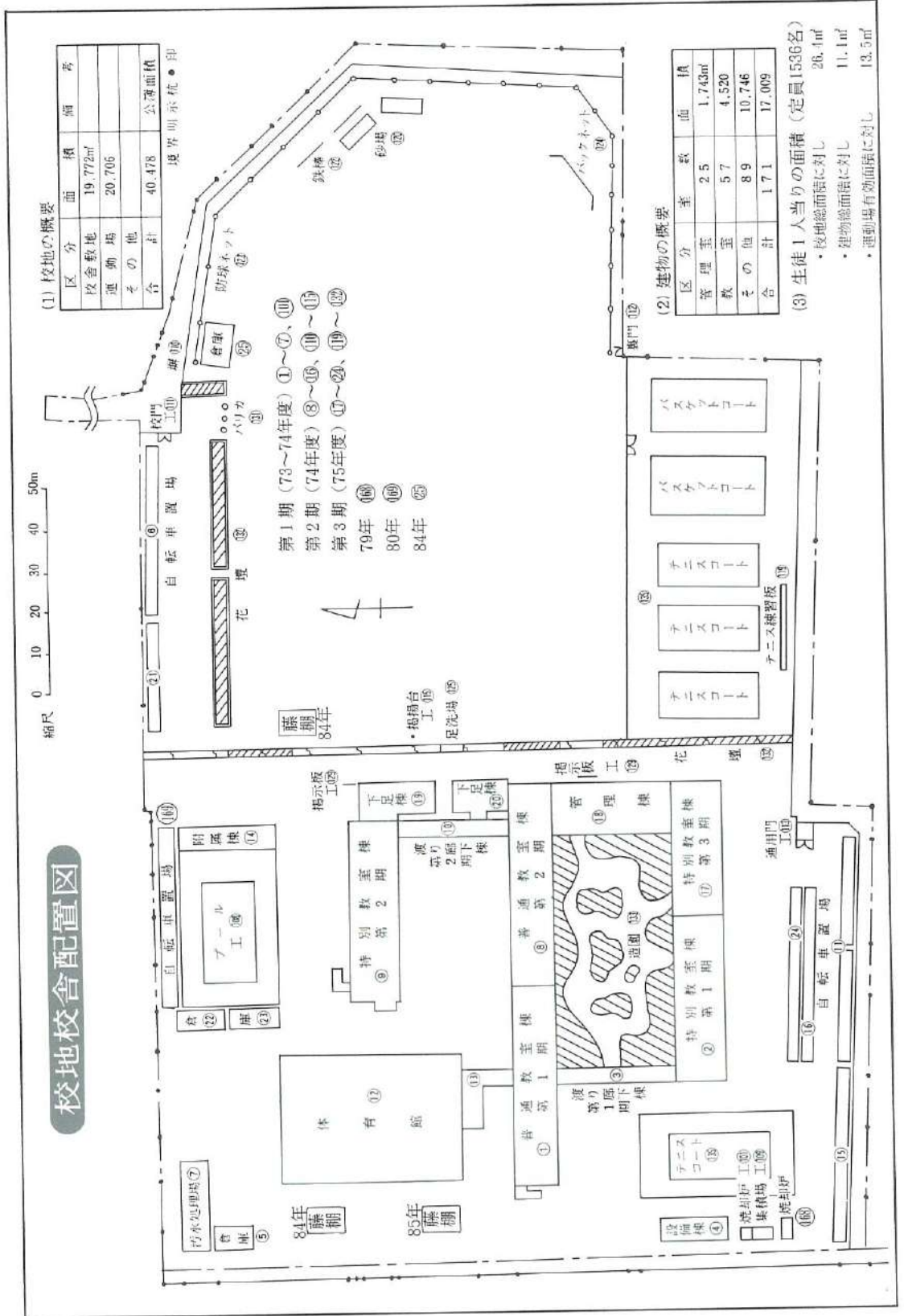
中庭



焼却場横テニスコート付近



校地校舎配置図



(1) 校地の概要

区分	面積	備考
校舎敷地	19,772㎡	
運動場	20,706	
その他		
合計	40,478	境界明示杭・印

(2) 建物の概要

区分	室数	面積	積算
管理室	2.5	1,743㎡	
教室	5.7	4,520	
その他	8.9	10,746	
合計	17.1	17,009	

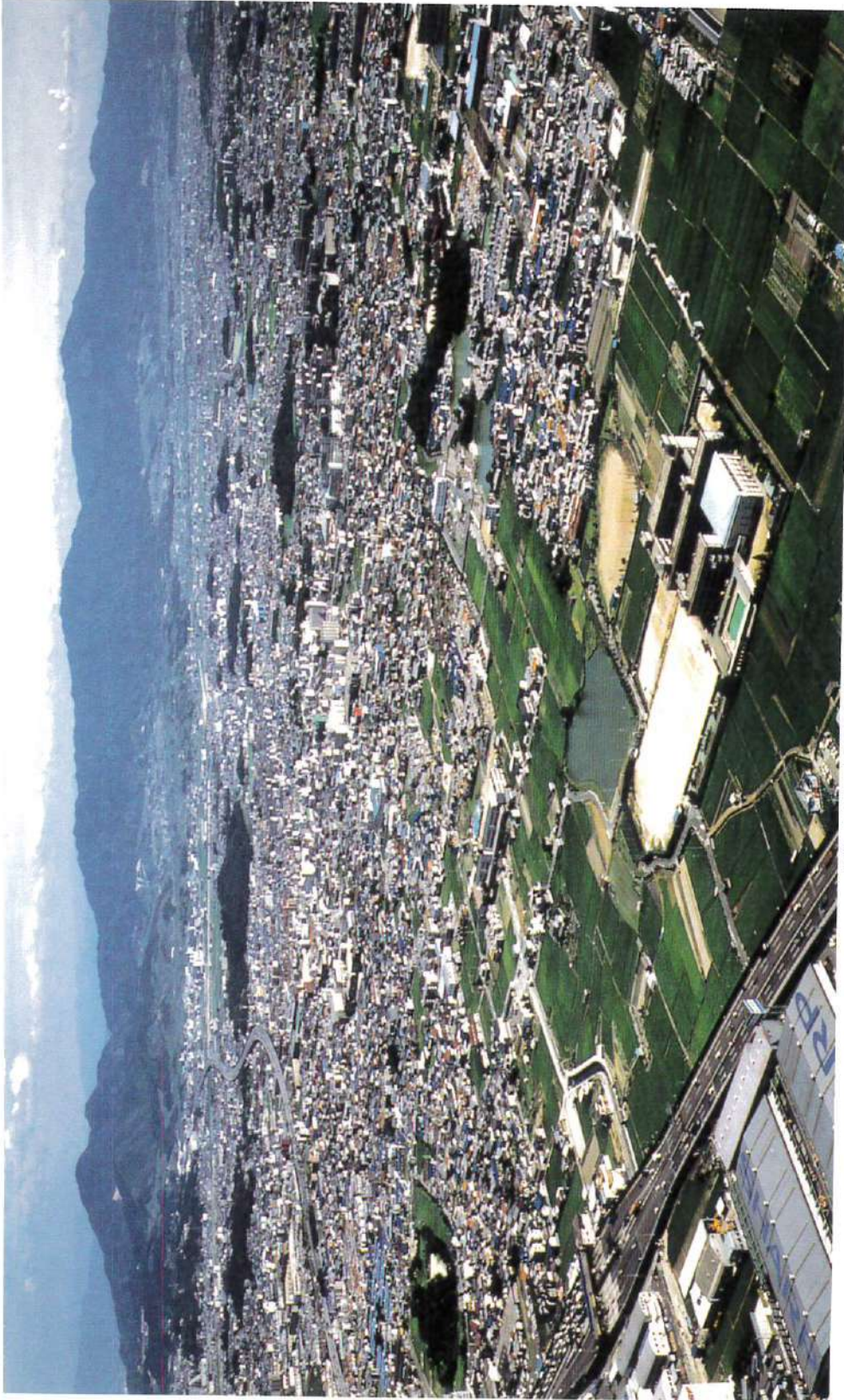
(3) 生徒1人当りの面積 (定員1536名)

- ・校地総面積に対し 26.4㎡
- ・建物総面積に対し 11.1㎡
- ・運動場有効面積に対し 13.5㎡

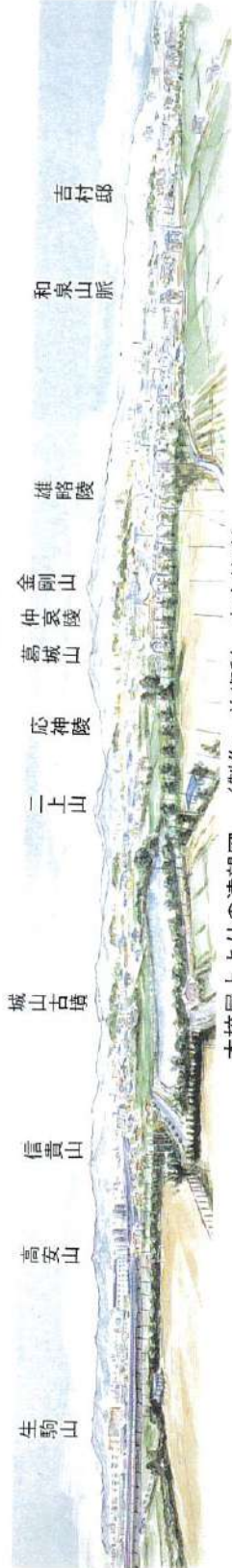
縮尺 0 10 20 30 40 50m

第1期 (73~74年度) ①~⑦、⑩、⑪
 第2期 (74年度) ⑧~⑬、⑭~⑰
 第3期 (75年度) ⑱~⑳、㉑、㉒、㉓
 79年 ㉔
 80年 ㉕
 84年 ㉖

校地校舎配置図



上空より南東方向を望む (93年撮影)



- 生駒山
- 高安山
- 信貴山
- 城山古墳
- 二上山
- 応神陵
- 葛城山
- 仲哀陵
- 金剛山
- 雄略陵
- 和泉山脈
- 吉村郡

本校屋上よりの遠望図 (製作 美術科 寺本教諭)

合格発表

1974年度第1期生の入学学力検査及び合格発表は、藤井寺工業高校を借りて行われた。その後は、本校中庭で行われている。



第1回合格発表 74藤井寺工業にて



20期生合格発表 本校中庭にて

入学式

第1回第2回の入学式は、体育館が完成していなかったため、藤井寺市民会館大ホールで行われた。第3回以降は、本校体育館で実施されている。



第1回入学式 藤井寺市民会館



入学のことば

若草も空もみないきましているこの春、教育のほんとうの機会均等をめざして、大阪府立藤井寺高等学校が新設されました。私たち五四〇名は、新しい校長先生の教育の理想のもとに、若々しい希望と燃えるような期待を抱いてここに集いました。

私たちは、先人が作ったような決められた道を歩いて行くのではなく、私たち自身が身体ごとぶつかり、ひとつとなつて自分たちの手で道を切り開いていきたいのです。藤井寺高校をいわゆる大学受験用の型にはまった学校におさまらせないで、ひとりひとりの個性や能力を生かすことのできる学校にしたいために、私たち五四〇名は、今、この瞬間から藤井寺高校独自の校風の礎を築きあげます。ひとりひとり、フロンティア精神を持って、車がワダチを残すように、健全な校風とすばらしい伝統を後輩のために残さなければならぬのです。新しいということでは色々な障害もできるでしょう。人一倍、汗を流さなくてはならないでしょう。苦難の連続で、三年という月日は早く過ぎ去ってしまうかもしれません。

しかし、私たちは若いのです。誠実こそが生命なのです。急ぐ必要はありません。手さぐりでも確実なものであれば良いのです。

さあ、今こそ、藤井寺高校の歴史の第一ページは始まるのです。大和川の流れは悠久の歴史を語りながら、今日も静かに流れています。この母なる流れに見守られて私たちは、いつまでも変わることはない新鮮さを持った明るい学校を創りたいと願っています。

以上、私たちの喜びと覚悟を述べて入学のことばといたします。

昭和四十九年四月八日

入学生代表 本多節子

遠 足

新学期を迎え、クラスでの教師と生徒、生徒同志の相互理解と親睦を深める為に、春の行事として遠足を行っており、年度によって、学年ごとクラスごとの計画で実施している。76年度から82年度までは、1年生は、宿泊研修を行った。10年目あたりまでは、身体の鍛錬ということもあって、3年間のうち必ず登山が計画されていた。11期生からは、1年生は、クラス作りを主目的に、野外活動（飯盒炊さん）を実施している。11期生の3年の頃から、3年生は各クラスで独自に行き先を決定するようになってきている。

遠足一覧表

学年	1年	2年	3年
93(5)			
92(4)			
91(3)	奈良県立野外活動センター	飛鳥散策	紀ノ川・ワールド牧場・摂津峡等
90(2)	花の万博	飛鳥地域グループ別散策	神戸方面・スポーツバレー京都等
89(元)		金剛山	神戸方面・エクスボランド、スポーツバレー京都等
88(63)		赤目	須磨公園・生駒山・いじのエキスポ等
87(62)		飛鳥・私市・くろん池・曾根高原・青山西季の里・	神戸異人館・ポートピアランド
86(61)		私市・くろん池・曾根高原	万博公園・甲府・大甲山・神戸港・
85(60)		奈良公園とシルクロード博	神戸等々クラス企画
84(59)	奈良県立野外活動センター	曾根高原・奈良公園	吉野・山のへの道
83(58)	琵琶湖文化センター	私市・くろん池	六甲・飛鳥・神戸異人館・大妻・
82(57)	(宿泊研修・鈴鹿)	飛鳥	二色浜・ポートピア等
81(56)	(宿泊研修・鈴鹿)	柳生街道 山の辺の道	赤目・伊宿・青山高原
80(55)	(宿泊研修・鈴鹿)	金剛山	
79(54)	(宿泊研修・串本)	金剛山	
78(53)	(宿泊研修・串本)	金剛山	
77(52)	(宿泊研修・串本)	吉野	京都など
76(51)	春(宿泊研修・串本) 秋(嵐山等)	夕ノ宮	夕ノ宮
75(50)	吉野・私市・くろん池	(雨天中止)	
1974(49)	春(奈良公園 観心寺等) 秋(私市 飛鳥等)		



11期生 1-12 秋の遠足 天野山



11期生1年 奈良県立野外活動センター



14期生 2年 シルクロード博



17期生 1年 花の万博

新入生宿泊研修

第1回(第3期生)は1976年4月に実施。入学間もない新入生が、一刻も早く学校生活への理解を深め、円滑に高校生活をスタートできるように、生徒指導部・学年の協力により2泊3日の日程で実施したものである。

◎主要内容 集団訓練・野外活動・喫煙防止映画・生徒指導部、進路指導部、教務部等からのガイダンス・同和問題・親睦のためのリクリエーション・学校行事の紹介など。
(第3回以降からロングホームルーム・学習指導にも重点をおく)

◎実施場所

76年度(第3期生)~79年度(第6期生)

和歌山県串本町「ホテル浦島」

80年度(第7期生)~82年度(第9期生)

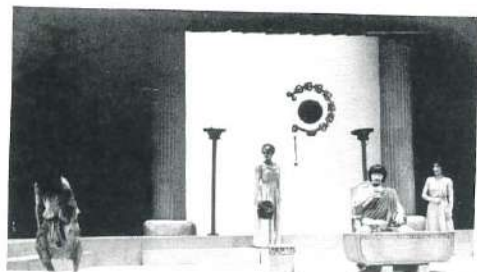
三重県鈴鹿市「鈴鹿サーキットホンダ研修センター」

83年度より、過去7回の反省の上に、一応の目的を達成したため、発展的解消の形で中止となる。その後、13期生からの再開に関して教員アンケートを実施したが、積極的賛成は少なく、復活させる提案は見送られた。



芸能鑑賞

当初より、他の学校が実施している行事は、全部揃えようという、意欲的方針のもとで、初年度には映画鑑賞会が実施され、75年度からは芸能鑑賞として、音楽や古典や演劇や映画などの鑑賞を通じて生徒の文化的資質を高めようと、実施されて来た。83年度からは、古典芸能→演劇→映画の一つのサイクルとして、それぞれの分野から題材や出し物を選び、順番に実施している。



77. 「狐とぶどう」



79. 「大阪城の虎」



86. 歌舞伎教室



92 わらび座

芸能鑑賞一覧表

75(50)	映画鑑賞『チャプリンのキッド』『故郷』 藤井寺市民会館大ホール
76(51)	映画鑑賞『太陽にける橋』 梅田OS劇場
77(52)	演劇鑑賞『狐とぶどう』 京芸 藤井寺市民会館大ホール
78(53)	音楽鑑賞『大阪市音楽団吹奏楽』 藤井寺市民会館大ホール
79(54)	演劇鑑賞『大阪城の虎』 関西芸術座 藤井寺市民会館大ホール
80(55)	演劇鑑賞『熱海殺人事件』 卒塔婆小町 藤井寺市民会館大ホール
	狂言鑑賞『萩大名』『千鳥』 本校体育館
81(56)	歌舞伎教室『悪太郎』 片岡秀太郎他 厚生年金会館大ホール
82(57)	演劇鑑賞『11ぴきのねこ』 京芸 藤井寺市民会館大ホール
83(58)	文楽教室『壺坂観音霊験記』 朝日座
84(59)	演劇鑑賞『赤ひげ』 藤井寺市民会館大ホール
85(60)	映画鑑賞『ビルマの豎琴』 南街劇場
86(61)	歌舞伎鑑賞教室 新版歌祭文『野崎村』一幕 厚生年金会館大ホール
87(62)	演劇鑑賞『坂本龍馬についての一の夜』二幕 劇団青い森 藤井寺市民会館大ホール
88(63)	映画鑑賞『敦煌』 東宝敷島等
89(元)	『上方古典落語』鑑賞 桂春団治等 藤井寺市民会館大ホール
90(2)	ミュージカル鑑賞『星の王子様』 東京演劇集団「風」 藤井寺市民会館大ホール
91(3)	映画鑑賞『愛と哀しみの旅路』 東宝敷島等
92(4)	わらび座公演『いのちのうた』 藤井寺市民会館大ホール

85 「ビルマの豎琴」



野外活動（林間）

厳しい山登りを通じ、大自然に触れ、あわせて身体の鍛練をするという目的で、創立2年目の75年の夏、第1回が白馬山麓で実施された。参加者の中からは1期生の津山篤君のように、南アルプス塩見岳で山小屋の経営者になった者も出ている。84年に人数不足で中止になり以後実施されていない。

75年7月（70名参加）

八方尾根～白馬岳大雪渓～松川での飯盒炊さん

76年7月（80名参加）

新穂高～西穂高独標～中尾峠～上高地

77年7月（80名参加）

志賀高原・菅平～岩菅山～白根山～池めぐり

78年7月（80名参加）

八方尾根・コースは前回と同じ

79年7月（80名参加）

乗鞍岳～上高地～蝶ヶ岳～焼岳

80年7月（80名参加）

新穂高～西穂高独標～鏡平

81年7月（50名参加）

八方尾根・コースは前回と同じ

82年7月（50名参加）

平湯～乗鞍岳～上高地～蝶ヶ岳

83年7月（50名参加）

新穂高・コースは前回と同じ

84年……人数不足で中止



75年 第1回 白馬大雪渓

臨海学習

夏期行事の一環としての「臨海学習」は、設立当初の74年度より福井県高浜町の和田浜海水浴場を中心に実施されて来た。俗化の波を比較的受けておらず、若狭富士を望む風光明媚な当地の美しく澄んだ水は、汚れた海を見慣れた者にとって何よりも魅力である。そんな好条件の中、「生きた水を経験し、集団生活のあり方を学びながら水泳学習をする。」目的を果たすべく、単なる水泳訓練に止どまることなく、魚釣り、貝取り、キャンプファイアー、周辺の散策など多彩なプログラムで海を知り、海との対話が図られ、例年成果を上げて来た。しかし、年を経るにつれ自分達だけで簡単にプールや海水浴に行ける気安さからか参加者が減少し、83年からは中止された。



80年 第6回 新穂高左俣谷



80年 第6回 西穂高独標付近

スキー教室

冬季行事の主役「スキー教室」は、74年度第1回実施以来、各種の生徒参加行事の中でも大変人気の高い行事として、今日に至るまで続けられている。この背景には、創立当初の頃からのスキーブーム、高速自動車道の発達（現在は松本まで高速で行ける）の他、78年度（4期生）より、修学旅行として「スキー研修旅行」が実施されていること等が挙げられる。また、大阪では接し得ない白銀の世界の素晴らしさ、スキーの楽しさが実感として参加者の心をとらえ、それらが1年生にも行事紹介等の中でロコミとして伝えられて来たことも、大きな理由に挙げられるであろう。初期に実施された各スキー場には、それぞれ特色があり、施設面ではよい成果はあった。しかし、ゲレンデの積雪の不安定、実施時期、授業日数等の問題が実施に当たった課題になっていた。そこで、85年からは、確実に積雪が望め、研修旅行実施地でもある、志賀高原横手山に場所を固定し、冬休みの前半に実施されている。



86. 11. 13

長距離走大会

金剛山雪中登山・夜行軍等様々な方法が検討された耐寒訓練として、75年度に学校の運動場を発着とする「校内長距離走大会」が計画・実施された。そして運営上の諸問題（交通等）を解消するため78年度より長居競技場に舞台を移し、現在では男子約10km、女子約6.5kmの距離で実施されている。毎年2月の恒例行事となったこの大会のため、体育の授業での長距離走や、健康チェック等が綿密になされ、記録も徐々に向上している。例年先生方の参加も活発であり、近年のジョギングブームに加えて、83年1月末の大阪女子マラソンに6期生の加藤ゆかりさんが完走したこと等もあり、生徒諸君の関心も高い。



90. 2. 6

校内球技大会

校内球技大会は、1974年12月生徒体育委員会を中心に、第1回としてサッカー・バレーボールが実施されて以来、生徒諸君の楽しみな行事の1つである。年々盛りあがりを見せ、最近はバレーボール・バスケットボール・ソフトボールを中心に実施されている。



86. 11. 13



84. 11. 27

藤高フェスティバル体育の部

第1回の体育大会が開催されたのは創設の年、74年10月1日であった。未整備の運動場で教職員、生徒の一致協力、昼過ぎからの雨で後半を延期せざるを得なかったが、無事終了する事ができた。このときの呼び物は、先生方をモデルにした「着せ替え競走」であった。77年からは「藤高フェスティバル体育の部」として、文化の部と相前後して実施されるようになり、内容的にも団体演技などを柱に充実していった。82年度からは3年生の就職試験の日程との関連、文化の部と日程が接近しているため生徒の力が分散するとの理由で、6月に実施されることになった。この間79年度からは、3年生男子（4期生）による団体演技「エッサッサ」が取り入れられ83年度（8期生）まで体育の部の顔となったし、4・5期生の選択体育の女子がダンスを披露した。また、生徒の自主的な運営を重視した方針のもとに生徒会を中心として、競技種目の工夫や応援団活動充実などが図られた。その結果、大縄跳びや玉入れなどのレクリエーション種目が採用された年もあったし、応援団のアピール看板などが作られるようになった。また、84年から藤井寺養護学校との交流が始まり、共同種目やエール交換などが行われている。また90年からは、入場行進を工夫し、『アップパレード藤高』と銘打って団長の指揮のもとにパフォーマンスを繰り広げ、それまでのただ歩くだけの入場行進を、ワクワクするイベントに様変わりさせた。また、91年からは、それまでの色別の団の呼称を、玄武（黒）白虎（白）朱雀（赤）青龍（青）驂騮（緑）麒麟（黄）と変えて、色と共に動物（マスコットキャラクター？）をセットにして応援の中心に据えている。さらに、開会式に聖火入場・花火打ち上げ等も採用し、92年からは、アピール看板の立体化も進められている。



第8回3年男子による「エッサッサ」



第9回



第11回

第9回藤養との交流



第11回



第10回応援風景



第17回宣誓



第11回



第15回アップレード藤高パフォーマンス



第17回聖火

藤高フェスティバル文化の部

藤井寺高校フェスティバル文化の部の華やかさ、賑やかさは有名である。76年度に生徒会が生徒から名称を募って決定したのが現在の名称である。74・75年度は、文化発表会という名のもとに開催され、初年度はすべて他校並みにという教員・生徒の要望で、藤井寺市民総合会館で開催した。クラスの演劇が大ホールで、文科系クラブ・PTA展示等がホール及び会議室で催された。1学年(540名)だけの発表会であったにもかかわらず、既設校に負けるなという意気込みが見られた。体育館が完成した3年目より、テーマを掲げ、それに沿った内容で取り組んだ。ちなみに最初のテーマは『田舎の青春』だったが、その後数々の名句を生み92年は『奇想天外…やらなあかんで…』であった。2期生の提案で生徒会が協力する盆踊りもスタートした。当初は提案者たちが呼びかけても一般生徒の関心は薄く、20名程度の参加といった状態であり、その後の盛り上がった盆踊りは想像すらできなかった。77年度には背中に『祭』の文字を書いたオーソドックスなデザインの「はっぴ」を数人が着て盆踊りに登場。これがその後のはっぴブームの先駆けとなった。教室での展示、体育館での劇やショー、視聴覚教室での音楽会、また、各種の模擬店といったスタイルが定着するようになった。その後は、生徒会や生徒自身、また、教員による創意工夫が重ねられ、内容に変化が起きている。その傾向の一つとしては、教室や中庭に作られる巨大な模型やモニュメント、さらにそれが発展して、空き缶で作った巨大壁画なども登場した。また、中庭に屋台を出して、お祭り空間的な雰囲気を盛り上げたり、グラウンドに巨大迷路を作ったり、みこしやだんじりを作って練り歩く、はたまた、92年には、ブームに乗ってほとんど本物の土俵を指導を受けて作り上げ、相撲を見せながら焼き鳥を売るとか、理科棟の教室に水車小屋を作り上げ、手打ちそばの実演販売をするなど、ユニークな出し物が登場して来た。体育館での劇は減る方向にあるが、和太鼓の演技や踊りのパフォーマンス等、こちらもユニークな物が登場している。生徒会の本部企画では、全クラスの垂れ幕や、巨大な本部企画の垂れ幕などが工夫され、ここ3年ほどは、校門から植え込みに沿って、各クラスのアピールの為の『張り絵パネル』も作られており、近年の生徒会が目指している「非日常的空間作り」の工夫が重ねられている。その中で、前夜祭・後夜祭の盛り上げの為に、ファイアーストームを実施したり、中庭で盆踊りをしたり、カラオケ大会を工夫したりしたが、時代の流れか、積極的参加者が少ないので、92年から前後夜祭は取りやめられた。また、はっぴも最近は採用クラスが減少している。しかし、最近では、ユニークな企画の中で生徒達は燃えており、一般入場者も4000人を集めるなど、生徒にも、地域にも人気の高い行事として発展している。

第1回文化発表会



分盆おどり
フォーワードダンス



第5回



第5回



第5回



第5回



第12回



第10回



第17回



第18回



第18回



第18回



第19回



第19回

修学旅行—スキー研修旅行

修学旅行をどのような型で実施するかを、開校当初より課題として取り組んだ。1期生から3期生までは、コース別に各地を旅行した。1～2期生は観光と社会見学が主になったが、3期生はHR中心の地域学習を重視した計画をたて実施。名称も「研修旅行」となった。

しかし、修学旅行のあり方を検討した末、1979年3月4期生より新しい試みとして、当時府下でも例の少なかったスキー実習を中心とする研修旅行を実施し、現在に至っている。80年3月、第5期生のスキー研修旅行に同行された土井校長の死去という悲運の出来事は、いまだ記憶に新しい。

その後実施された研修旅行では、御冥福をお祈りするため、現場に花を捧げている。

スキー研修旅行の初期には、教員や府下のスキー指導員資格者が講習を行ったが、81年から、藤島スキースクールに講習を委託している。当初は、本校がパイオニア的存在だったが、その後、スキーの修学旅行を実施する学校が激増し、旅行会社を通じて宿を取る方式の学校は、宿の確保に異常なまでの苦勞をすることになる。しかし、本校は、故土井校長の英断により、直接宿舎と契約して来たので、そのような苦勞もなく、比較的安く、内容も充実したスキー研修を実施してきた。

また、9期生の時には、出発前夜からの大雪で交通網が大混乱となり、到着が次の日の未明になったこともあり、その後、そのような事態に備えてトイレ付のバスを確保した時期もあった。しかし、最近では高速道路網も充実し（94年からは長野の先の須坂まで行けるようになる）、後に入る団体が早く到着するため、15期生から夕食を長野市内でとるようになっている。

16期生からはリフト代金を一括納入方式（乗り放題）にしたため、殆ど全員が横手山頂上まで行けるようになったし、リフトも2人乗りのダブルや3人乗りが設置され、ますます実習が充実している。

1期生

(75. 11. 4～11. 8)
九州の旅(2班逆回り)

A班

- 11/4 新大阪駅—博多—平戸(泊)
- 11/5 平戸市内見学—西海橋—長野市内見学—
—島原(泊)
- 11/6 島原—三角—熊本水前寺公園—
—瀬の本高原(泊)
- 11/7 瀬の本高原—青の洞門—小倉—新大阪駅

B班

- 11/4 新大阪駅—小倉—瀬の本高原(泊)
- 11/5 瀬の本高原—(Aコース) 牧ノ戸峠
—久住—長者原
(Bコース) 別府(地獄巡り)—高崎山
(Cコース) 竹田城跡
—臼杵石仏—風連鐘乳洞
- 11/6 瀬の本高原—草千里—阿蘇—
—熊本水前寺公園—三角—島原(泊)
- 11/7 島原—長崎市内見学—西海橋—平戸(泊)
- 11/8 平戸市—博多—新大阪駅

瀬の本高原(泊)



長崎原爆記念像 (75・11)



水前寺公園

2 期 生

(76. 10. 30~11. 2)
北陸・山陰・北九州 3 コースの旅

A 班 北陸・能登コース

- 10/30 大阪駅-金沢-兼六公園-千里浜(泊)
- 10/31 千里浜-能登金剛-総持山-輪島-
-狼煙-曾々木(泊)
- 11/1 曾々木-珠州-小水-穴水-富山-
-立山(泊)
- 11/2 立山-室堂-美女平-富山-大阪駅

B 班 山陰コース

- 10/30 新大阪駅-小郡-秋芳洞-秋吉台-
-萩(泊)
- 10/31 萩-津和野-浜田-出雲大社(泊)
- 11/1 出雲大社-日御崎-松江城・
小泉八雲旧邸-大山寺-榊水高原(泊)
- 11/2 榊水高原-蒜山高原-久世-岡山-
-新大阪駅

C 班 北九州コース

- 10/30 新大阪駅-小倉-青の洞門-
-九重高原(泊)
- 10/31 九重高原-別府(地獄巡り)-高崎山-
-九重高原(泊)
- 11/1 九重高原-豊後竹田城跡-阿蘇山-
-草千里-阿蘇地区(泊)
- 11/2 阿蘇地区-水前寺公園-熊本-太宰府-
-博多-新大阪駅

3 期 生

(78. 3. 20~3. 23)
九州 3 コースの旅

A 班 平戸コース

- 3/20 新大阪駅-博多-平戸(泊)
- 3/21 平戸をベースに各クラス毎に学習活動-
-平戸(泊)
- 3/22 平戸-西海橋-グラバー園-長崎(泊)
- 3/23 長崎-平和公園-博多-新大阪駅

B 班 長崎コース

- 3/20 新大阪駅-博多-西海橋-長崎(泊)
- 3/21 長崎市内学習活動-長崎(泊)
- 3/22 長崎-平和公園-雲仙-島原(泊)
- 3/23 島原へ-三角-水前寺公園-博多-
-新大阪駅

C 班 熊本コース

- 3/20 新大阪駅-博多-太宰府-熊本(泊)
- 3/21 熊本市内学習活動-熊本(泊)
- 3/22 熊本-阿蘇-草千里-黒川温泉(泊)
- 3/23 黒川温泉-青の洞門-小倉-新大阪駅



立 山



熊 本



松 江



グラバー園

4 期 生



18 期 生

スキー研修旅行（毎年2月末～3月初）

場所 長野県下高井郡志賀高原熊の湯横手山スキー場
 宿舎 硯川ホテル

行動予定表（6期生）

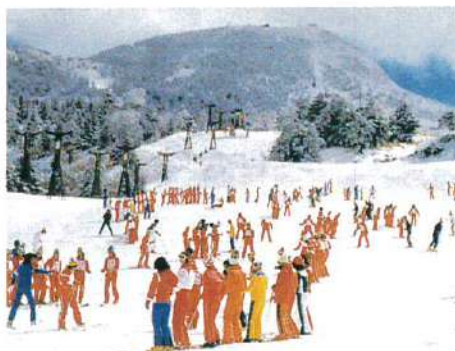
第1日	2月27日（金）
7:00 30	集合 出 発 ジャスコ前
9:00 30	上野D.I
12:00 30	恵那峡S.A 昼食
3:00	松本D.I
7:00 30	硯川ホテル着 夕食
8:00	入浴 スキー7、27 くつ合わせ 点呼就寝
10:00	

第3日	3月1日（日）
7:00 30	起床 朝食 準備
9:00 30	班別実習
11:00 30	昼食
12:00 30	
1:00	班別実習
3:00 30	入浴
5:00 30	夕食 室長 会議 （1～12組） 演芸（1～6組）
6:00 30	
7:00 30	
8:00	
10:00	点呼就寝

第5日	3月3日（火）
AM 2:00	恵那峡S.A
5:00	上野D.I
6:00 30	ジャスコ前着 解散

第2日	2月28日（土）
6:30 7:00	起床 開校式、朝食 準備
9:00	班別による 実習
11:00 30	昼食
12:00 30	
1:00	班別実習
3:00 30	入浴
5:00 30	夕食 室長 会議 （1～12組） 演芸（1～12組）
6:00 30	
7:00 30	
8:00	
10:00	点呼就寝

第4日	3月2日（月）
7:00 30	起床 朝食 準備
9:00	班別実習
11:00 30	昼食
12:00 30	
1:00	班別実習
3:00 30	出発準備
5:00 30	夕食 乗車 出発
6:00 30	
7:00	
10:00	松本D.I



4期生



12期生



13期生



16期生



17期生

10周年記念式典

本校創立10周年を祝し、記念式典が11月12日（土）に、本校体育館において挙行された。当日は大阪府教育委員会浅野素雄教育監、堀端宏藤井寺市長、芝池府会議員、森田敏夫初代校長、山本義一初代PTA会長、管内高校中学学校長、本校歴代校長等120名に及ぶ来賓の臨席を仰ぎ、最初に生徒による吹奏楽から始まり、心温まる祝辞や、記念の花束の贈呈等があり、最後に好評を博した『本校10年の歩み』の映画が上映され、式は盛会裏に終了した。

10周年記念としては、この式典のほか、10周年記念誌2500部が作成され、同窓会から食堂横に藤棚一式、育友会（PTA実行委員会のOB会）から玄関正面（事務室前）に置時計が贈られ、永く藤井寺高校の歴史に馥郁とした香りとゆかしい音色を残すこととなった。また、同窓会からは、教職員にコーヒークップが贈られた。

創立10周年記念式典

式次第

1. 吹奏楽演奏
1. 開式の辞
1. 校歌斉唱
1. 学校長式辞
1. 祝
 - 大阪府教育委員会
 - 初代校長
 - 初代PTA会長
1. 花束贈呈
 - 地元府会議員、藤井寺市長、中学校長会代表、七学区高校長代表、前校長、PTA前会長、同窓会代表、育友会代表、初代教頭、初代事務長
1. 祝電披露
1. 生徒よろこびの言葉（PTA会長・生徒代表）
1. 記念品贈呈、謝辞
1. 閉式の辞
1. 映画「本校10年の歩み」



カルタ大会

カルタ大会は、主に国語科からの提案で1期生の時から実施されている。ゲーム的な要素のある行事でクラスの親睦を図るとともに、古典的伝統文化である和歌に親しむことにも目的を置いた。森井・香川先生の朗詠と共に連綿と19年間続いて来たが、91年1月の大会からは3年生は、クラス単位で参加不参加を決めて実施するようになっている。

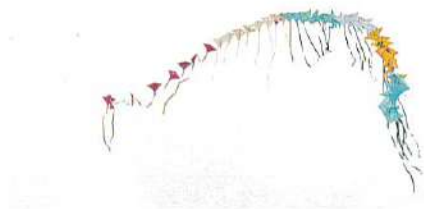


17期生

凧揚げ大会

生徒会では、10周年記念行事が先生達の手によるものだったので、自分たちで何かをしたいと相談した結果、凧揚げ大会をしようということになった。生徒会役員の3人が藤井寺中学へ作り方を取材に行ったり、試作をしたり、努力のかいあって、最初は「しょーもなー」と乗り気でなかった生徒達を巻き込み、第1回凧揚げ大会は成功の内に終わった。その後クイズ大会に変えた学年もあったが、11期生から19期生まで続く行事になっている。

11期生



11期生



15期生

リーダー合宿

本校では伝統的に、HRの各委員は立候補・行事のリーダーは適任者が名乗りを上げて、と生徒が自主的に頑張ってきたが、近年、リーダー不足が感じられるようになり、生徒会部を中心にリーダー育成の為に92年から始められた。



卒業式・答辞



卒業式

答辞

在校生の皆さん、ただ今は私達卒業生のためにあたたかい励ましの言葉をいただいております。

私は卒業生を代表して、私達が一期生として過ごしてきたこの三年間をかえりみ、今後の藤井寺高校を背負って立つ皆さんに一言お話ししたいと思います。三年前の四月八日、雨の日、藤井寺市民総合会館での入学式で私達は藤井寺高校第一期生として、新しい歴史のスタートを切りました。校長先生から地域社会が藤井寺高校の将来に深い関心をよせているというお話をうかがい、そのあと新しく校章を紹介され、担任の先生方を紹介され、生徒代表の宣誓の言葉を聞いていたうちに、ひしひしと胸に強く感じたことがありました。それは入学の喜びや今後の生活への期待というよりも、自分達が新しい伝統を作っていくかねばならないという責任感、この学校を良くするのにも悪くするのもまさに自分達の生き方にかかっているのだという身が引きしまるような大きな責任感でした。そしてその日から一期生ならではの苦しい、あたたかい生活が始まりました。田園の中にボツと二棟小さく立っていた校舎。体育館もブルも食堂も図書館もなく校風景な校舎でした。雨の日は泥の中をかき分けて歩き、天気が続くと舞い上がる砂塵に悩まされ、石ころと雑草だらけのグラウンドでは、よく足を痛めました。それからあの耳をつん裂くような工事の音、先生方の授業の声も、あまりにひどい騒音のために、何回となく途切れました。「工事が終わるとから開校してはしかなかった。」と私達は何度思ったことでしょうか。とんだん校舎が建っていく喜びはあるものの、やはり私達の三年間は、ある意味では騒音公害と闘いながらの三年間でした。しかし私達はボツボツ言いながらも私達なりに多くのことをやりとげました。まずクラブを可能な限り作ることに。私達は作りたいクラブの仲間達を集め、当時二十五・六名だった先生方を次々にま

わり、顧問になっていただくための交渉を続けました。その間には、評判の高い制服も制定され、体育大会や文化発表会も皆の協力によって曲がりなりにでも開催できたことは大きな喜びでした。そしてそれらを通して私達は多くの友人達を得、先生方との交流もはかられたことは何よりの収穫だったと思います。結果として私達は幸いにも他校に負けないだけの多くのクラブ活動を誕生させました。月日は矢のよう早く流れ去り、私達は今、堂々と完成した立派な校舎、充実した施設設備、八十名の先生方、千余名の後輩達を持つに至っています。クラブ活動も後輩達と共に対外試合に出場し、中には大阪の代表になるほど、活躍した仲間達もできました。生徒会も新しく生まれました。二年生の時には、高校生活での最大の思い出となった修学旅行が行われました。太陽と海と民家が美しく、た平戸、原爆の町、そして異国情緒たっぷりだった長崎、日本のムードにあふれていた雨の水前寺公園とてくれなく大きなスケールで私達を迎えてくれた本高原、紅葉が目もさめるほどに美しく、た那馬溪や青の洞門、その他選択コースに分かれて、別府の地獄めぐり、マリンパレス、猿の高嶺山、九州一の高山、九重登山、臼杵の石仏など、私達は秋の九州のすばらしさを満喫しました。友人達との楽しい交遊のため、眠る時間も惜しんだ夜の宿舎のことも、つい昨日のことのように思い出されます。修学旅行の他夏は水のきれいな日本海での水泳教室、高山植物が乱れ咲いていた八方尾根、雪と氷の山馬大雪渓など北アルプス方面への野外活動、冬は樹氷と白銀の大世界、野沢温泉でのスキー教室その他、各種の校内競技大会の開催など、学校行事もすっかり充実し、わが藤井寺高校も名実ともに学校らしく形を整えてきました。

しかしその一方で、多くの暗い事も起こりました。校舎の建設とともに、一部の心ない者たちによる校舎の破壊、公共物の破損、自転車盗難、あいつく喫煙、授業妨害などな

ど、眉をひそめることが次々に起こりました。また、オートバイ事故のためにも忘れられませんが、不運な青春で名もいた一期生は、転入生も含め、現在では五〇六名になってしまいました。このことは私達一期生にとっては、一番つらく残念なことでした。今、私達は卒業するにあたり、三年前に比べ、見進えるように立派になった学校の充実ぶりを喜びとともに、何か言いようのない寂しさをも感じています。これは一期生の宿命だったのかも知れませんが、あまりじっくり腰をすえて学校生活を余し余格がないままに去って行かねばならないような気がしています。そしてなによりも、入学の時に私達が考えたように、私達は一期生として、はたして藤井寺高校の伝統となる輩になら形成することができ、後輩連になにか良い校風を伝えることができたかと思ひ返してみると、どうも自信はありません。しかし私達は無力ながらも何かを学校のために生み出したことも確かだと信じます。

在校生の皆さん。どうか私達が卒業した後も、この藤井寺高校を誇高い学校に、地域社会から愛される学校に、健全で明るく自由な校風をもった学校に皆さんで力を合わせて生きていってください。

最後に、校長先生はじめ諸先生方、全職員の皆さん、未熟な私達ではありましたが、長い間、多方面にわたるご指導をいただきありがとうございます。私達は就職、進学、その他それぞれ進歩道は違いますが、この三年間先生方から受けました教養を糧に、新しい生活に入り、とにかくがんばっていきたく考えます。先生方も元気で後輩達をよろしくご指導下さいませようお願いします。

昭和五十二年二月二十五日
卒業生代表 森博史

20年あれこれ

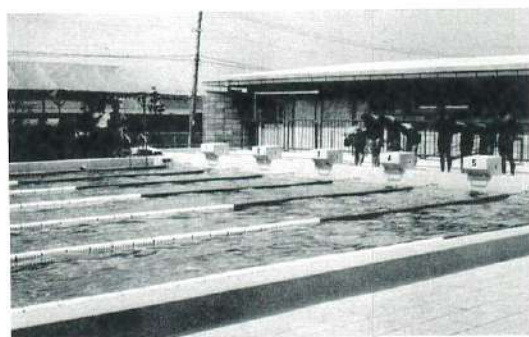
待望の体育館・プール完成（75年度）

待望の25mプール、体育館（2階）柔道室、剣道室、食堂（1階）が完成し、プールは夏休みから、体育館は2学期から、授業、必修クラブおよび部活動において使用された。完成を祝して7月19日にはプール開きが行なわれ初芝高校水泳部を招待し、模範泳法を披露してもらった。

また9月1日には体育館開きが行なわれ、天理大学女子バレーボール部、大阪体育大学器械体操部、初芝高校器械体操部を招待して模範試合、演技が行なわれた。



体育館開き 75.9.1



プール開き 75.7.19

食堂からみた藤高20年

〔江川さん(主任さん)と木村さん(先生)に取材〕

江川さんは、北野高校でしばらく働かれた後、75年9月から本校へ。3期生あたり迄は、とにかくやんちゃな子が多くて、ケンカはしょっちゅうするし、授業中から殺到し、100食用意する定食は、3時間目が済むと、90は売れる状態で、殺人的混雑と大騒ぎの中での仕事だった。生徒は皆、人なつっこくっていい子ばかりだったし、卒業の時に挨拶に来てくれたりしたので、つらい思いなどはせず、みんなの為に、美味しく丁寧に作ることができたとのこと。（生徒も先生も？良い子ばかりだったことと、主任さんたちの愛の力が『美味しい藤高の食堂』を作ったのです！）

木村さんは、食堂ができる年の4月から、今の



生徒指導室の2階（現在の2年3組）でパンを売っておられた。生徒が時間外に来ないように廊下側の戸の鍵を閉めていても、テニスコート側のひさしを伝って窓から入ってくる状態だったが、悪い子は一人もいなかったとのこと。その後、食堂でパンやアイスを売っていると、女の子たちは、体重測定や記念写真の前になると買わなくなるので、売上が落ちる、済むととたんに売上アップになる面白い法則を見つけたとのこと。等等……

お二人とも、最近では、弁当の子が増えたこと、生徒がおとなしくなったこと、不況で小遣いが減ったりさらに弁当チームが増えたこと、生徒数が減ってることなどの理由で、とても楽になったとおっしゃってます。

これからも、『美味しい食堂』をいつまでも続けて下さるように、願っています。

文部省指定生徒指導研究推進校となる
(1975・76年度)

文部省の生徒指導研究の指定校となり、「無気力、無関心な生徒や問題行動に走りやすい生徒に対し、学校生活に親しみを持たせ、学習意欲を高める指導はどのようにしたらよいか」の研究主題のもとに取り組んだ。



どのようにしたらよいか」の研究主題のもとに取り組んだ。

生徒指導部を中心として、教務部、進路指導部を加えたプロジェクトチームを結成し、各種の調査・検査や各教科指導・教科外教育活動・カウンセリング・進路指導等を通して実践研究を進めていくことによって、本校教育の基本路線ができ、方向づけが確立した。

大阪府教育委員会LL英語教育の指定校となる
(1979・80年度)

音声面指導充実の一環としてLL教室を位置づけ、普通教室での機器利用と共に、総合的に活用。教員の研修体制を充実し、教材作成等で活発な共同研究を行い、生徒に対し、新しい角度からの動機づけが出来て、学習意欲に好影響を与えた。



旧LL教室での授業

悲報！土井校長の死 (1980年2月28日)



▲故土井善博校長
▶追悼式(80・3・26)



1980年2月28日、土井善博校長が5期生スキー研修旅行に付添われ、長野県の志賀高原横山スキー場において実習見回り中、心筋こうそくで倒れられ帰らぬ人となりました。3月26日、追悼式が本校体育館で、遺族をはじめ教職員、1・2年生代表、卒業生有志、PTA、教育関係者等800人が参列して、しめやかに営まれました。77年4月府立長野高校教頭から、本校2代目校長となられた故土井校長は、スポーツマンらしい明るさと、温厚な人柄で多くの方々から親しまれました。記録用の8mmフィルムの中から、ありし日の故土井校長の姿を集めた映画が上映され、参列者の涙をさそいました。

故土井善博校長を偲ぶ
井上悦男(事務長)

今はただ かたみとなりし蘇鉄株
おもいでつきず よたびめの秋

昭和55年2月27日早朝、お元気でバスの窓より手を振りつつにっこりされたお顔は今なお鮮明にまぶたに残って居ります。お口数はすくなくて、常にあたたくゆったりとした学校経営を心がけておられましたので、職責の重きをこぼした時にも、「楽な気持ちで」と種々お心添いただき「誰もが一度は通る道だよ、あわてずに行きなさい」と諭されたことは、とてもまねごとすら出来かねることですが困難に際して励みとして、今日まですごしてまいりました。藤井寺高校隆盛の内で迎えます10周年式典、御在世ならばいかに喜びなられたことでしょうか。僅かの歳月でしたが、お教えいただいたことは数多く、あまりにも急なことでしたのでいまだに信じたくない思いもいたします。

夢なかで み声おすがた 今もお
道さとされぬ
ありがたきこととおもう

(10周年記念誌への追悼文を転載)

大阪府教育委員会勤労体験学習推進校となる (1982年度)

高等学校学習指導要領に基づき、勤労体験学習を通して生徒に勤労の楽しさや創造の喜びなどを体得させ、望ましい勤労観と職業観を身につけさせるために、81年度より、①緑化推進活動、②環境美化活動、③社会福祉施設訪問活動を実施し、82年度は勤労体験学習研究推進校として指定をうけ、学校周辺及び城山古墳、葛城、金剛山登山の際の清掃等に取りくんだ。

生徒中国派遣団員として田仲基一君(7期生) と鈴木千春さん(10期生)中国へ

「大阪府と上海市並びに江蘇省との友好交流の一環として、府内の高校生に中国を親善訪問させ、中国の高校生との交歓をはじめ、ひろく中国の自然、社会、歴史、文化に接して中国への理解を深め、友好を促進し、ひいては国際理解の学習に資する」という目的で高等学校及び養護教育諸学校(高等部)に在籍する大阪府在住の生徒100名が、中国派遣団員として82年7月29日から8月4日まで(7泊8日)中国へ渡った。本校からは、田仲基一君(7期生)が選ばれ、日中教育の交流と、友好親善の役割を果たした。

さらに84年度には、10期生の鈴木千春さんが選ばれ、7月26日～8月2日まで中国を訪問した。

100名の高校生と訪中

やっぱり日本がいいや

藤井寺高三年 田仲 基一

がんばれ青春

「伸び伸びと育て過ぎたようです」とお父さんの健朗さんは案じているが、

「自分の意見を多くの人に聞いて貰いたい」

と小学生の頃から自治会活動をしている藤井寺高校三年生の田仲基一君はこの夏休み、大阪府高校生中国派遣団員として、訪中してきた。

この高校生中国派遣団とは国交回復十周年を記念して府下の男女高校生100名が7月29日～8月4日まで中国の各学校を訪問し親睦を深めようと企画されたものだが、羽曳野市からは田仲君一人が選ばれて参加。中国でも開会宣言をしたり、河内音頭を踊ってひろめて来たりと大活躍。

だが、帰国するなり、

「中学校の英単語で充分話は通じた。高校の英文法なんて無用ですよ」

なんてことを言って受験を心配する両親や先生をハラハラさせている。

その一方で過大な受験体制を乗り越えてきた中国の学生らには大層感服。

「彼らは国があつての自分だという堅い信念を持って勉強している。それにひきかえ、我々はTVを見て劇画の雑誌を読み、バイクを飛ばす。そのくせ、大人になった時、良い生活が出来ないのではないかと成績にびくびくしているだらしないさだ」

また、中国では町の中をミサイルを積んだ車がゆうゆうと通って行く。それを見て来た田仲君は、防衛の為に軍備する事については是非か考えているそうだ。中国では当然必要だと若者たちの誰もが思っているらしい。

「それでもやっぱり日本が一番いい」

と田仲君は笑う。平和な日本を築いてくれた父親はじめ大人たちに感謝する心が湧いたとも言う。

それもそうだろう。田仲君は家庭環境も恵まれており、優しい家族に囲まれての苦勞知らず。

だから、大人たちは若いうちの苦勞をすすめるそうだが、そんな意見もはねかえしている。

「物事を多角的に見る目さえ備わっていればかならずやりたい事は成功する。中国の若者の生き方を心から受容出来たことによって、他人を見る目が広がったと思う。その目を生かして将来大きな商いをしたい」

(羽曳野市広報紙「ぴ〜ぶる」より転載)

中国への旅

鈴木 千春(2-12)

(84年)

昨年の夏、中国派遣団の一員として中国(上海・南京・無錫・蘇州)を訪れました。たった八日間の滞在だったけど、中国という国は、私にはかり知れない程の何ものにも代えがたいすばらしいものを与えてくれました。

かなり近代化が進んでいるとはいえ、まだまだこれからといった中国。若者は皆祖国の近代化に向けて、街は活気にあふれていました。将来の目標、それも夢ではなく、もっと現実的な目的を持ち、それに向かっていっしょうけんめい努力している若者の姿に大変感動しました。と同時に、努力することを忘れ、楽をすることしか考えていない自分と比較して、何とも恥ずかしい思いに追いやられてしまいました。

人種の違う人間がお互いを理解するのはとても難しいことだと、この旅でつくづく思いました。それは言葉の違いからでもあります。しかし、それだけでなく、それは文化の違いによるものなのです。私は中国人を本当に理解できたわけではありません。もちろん、言葉もわかりません。でも祖国の近代化に向けて熱っぽく語る中国人の気持ちは何となくではあるけれど、理解することができました。

今、中国は確実に一步一步前進しています。人々は、街は、活気に満ちあふれています。明日の中国に向かって……。

大阪府立高校英国人英語指導教員配置校 となる (82、90~93)

英語指導教員来る

81年度、英語指導教員として採用され、生野高校に常駐されたヴィスニスカ先生に、月1回授業していただいた。そして、82年度には、本校が配置校となり、アンソニー・J・クルックス先生を迎えた。彼は、イギリスのアイリッシュ海のマン島出身で、リーズ大学仏語科を卒業後赴任された。当時大いに話題となり、多くの新聞にも取り上げられた。その後は配置校にならず、85年にライアン先生、87年にマッカートニー先生、89年にストローン先生、90年にギャリティー先生に来ていただいた。そして90年9月から配置校となりアリソン・M・スエット先生を迎えた。彼女はロンドン西方のウォーリック出身で、パーミンガムのアストン大学で仏語と経済学を学び、卒業後赴任された。1年後の91年9月から現在までシェリー・M・キーチ先生に来ていただいている。彼女はニュージーランド南島のウィントン出身で、クライストチャーチのカンタベリー大学で、英文学とジャーナリズムを専攻され、来日された。来日後、そろばんを習ったり日本語教室に通ったり、なかなかの日本通になっておられる。

藤高での一年間を振り返って

Alison Suett

イギリスには「楽しい時は時間が飛ぶように過ぎる」という言葉がありますが、日本での私の一年間にぴったり当てはまる言葉です。今、帰国の準備をしながら、私が初めて藤井寺に来た日からもうすぐ一年になろうとしているとは信じられない気持ちです。帰国の日が近づいていますが、日本を離れるのは、そして、とりわけこの学校を離れるのは、どんなに悲しいことだろうと思います。

藤高での一年間を振り返ると様々な事が浮かんできます。まず、昨年9月の始業式で、生徒全員の前に立って話をしたこと。あんなに大勢の生徒を目にし、私は非常に緊張しました。誰か一人でも知っている顔があればなあと、どんなに思ったことでしょうか。もちろん、そのうちに一人ひとりの顔がはっきり見えてきました。

昨年9月の文化祭、数週間前に行われた体育祭も思い出す。両方とも藤高生の行事に対する熱意と、本校の学校生活を楽しいものにしようと生徒と先生が協力して取り組む姿勢がよくわかりました。2月には、2年生(現3年生)とスキー研修旅行に行きました。その間大勢の生徒達と英語で話せて楽しい思いをし、又、生徒達が本当に一生懸命何事にも取り組んでいるのを見て感銘を受けました。

私にとって日本の高校で働けたということは本当に

面白くさらに藤高で働けて本当にラッキーだったと思います。一年を通じて、本校の先生方と生徒達に親しくしていただき、いつも暖かく迎えて下さっていると感じていました。こんなすばらしい雰囲気のある学校には絶対ないでしょう！一年間で現2年生と3年生を教えました。残念ながら1年生の人達には、ほとんど会う機会がありませんでした。日本でのこの一年は本当に私のためになりました。そして期待していたよりもはるかに多くのことを学ぶことができました。生徒の皆さんも、何か私から学んでくれていたらと思います。

貴校で一年間私を暖かく迎えて下さり、ありがとうございました。(訳 英語科 中須賀教諭)

Dear Students,

Although I was very sad to see last year's third-year students depart, it's very nice to be able to see a new set of friendly faces: welcome to the first year students. This term, I'll spend most of my time with the first year, and I'm pleased to say that they seem very promising students.

During the past couple of months, I've been able to see just how beautiful Japan can be, and how quickly the whole aspect of the country changes according to the flowers in season. In Britain, the changes in the seasons are much slower and more gradual than in Japan, and we do not have such dramatic displays of flowers, so it has been a great pleasure for us recently to note all these changes. Spring in Japan is a very lovely time, but I can't say that I'm looking forward to the summer—already the heat is much stronger than I am used to.

Well, this is my last term in Japan. I finish teaching at Fujiidaira, and I will return to England at the beginning of September. Unfortunately, I will be very busy at that time. For in October I will be entering Oxford University in order to carry on some research; but for this, I would have liked to stay for the Fujiidaira High School Festival, which I enjoyed very much last year. But all good things must come to an end, and it is with regret that I must say

Sayonara さよなら

Tony Coombs 1992



アリソン先生



シェリー先生



府知事より環境緑化推進の功績に対し感謝状 を受ける（昭和57年度）

本校は、府立高校の中でも緑の多い学校であり、特に中庭の美しさは代表的なものである。校舎の周囲の樹木も年を増すごとに成長し、緑色の安らぎを感じる学園となってきた。この数多い樹木をここまで育てあげられたのも、本校技師の方々の努力によるものである。

多年にわたっての環境緑化の実践並びに、運動推進の功績によって、大阪府緑化推進委員会員長（知事）より感謝状を受けた。



ジュリエット来る

87年9月からA F S交換留学生として、ジュリエット・エステル・ベグを2年生に迎えた。彼女は当時17歳、ニュージーランドの高校生。留学の目的は、違う国の文化や言葉の知識と理解を得たい。「セカンドファミリー」を得たい。旅行が好き。そして『Biggest challenge』は、やはり新しい友人作りであるとしている。制服を用意して登校し、英語の市口先生の6組に入り、クラスと一緒に英・数・化・体の授業を受け、特別に日本文化・日本語会話・日本語の基礎等を教員がマンツーマンで教えた。

交流行事

83年、藤井寺養護学校と交流する行事は文化祭から始まったが、その後藤高体育祭、養護学校での授業や文化祭・体育祭・カラオケ大会、宿泊行事での交流等、多岐わたっている。



体育祭交流



授業交流、見送り



文化祭交流



カラオケ大会



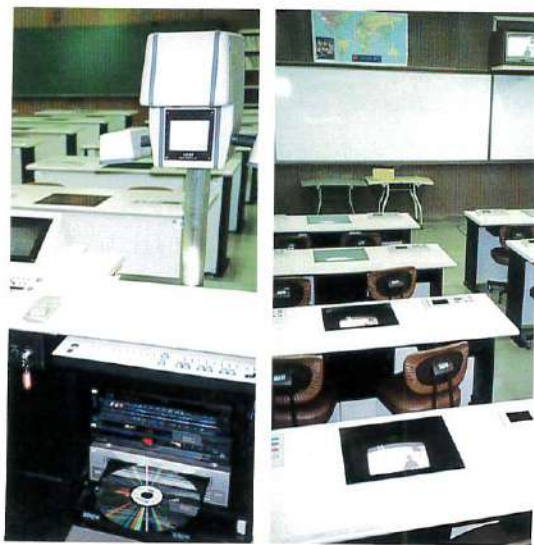
緒方教頭女性初の校長



84年に府下で初の女性教頭として北野高校から転任して来られた緒方淳子教頭先生が、87年4月より、これまた府下初の女性校長として府立大手前高校へ転出されました。新聞社の取材に対し「初の女性校長として責任の重さを感じていますが、体当たりで頑張りと、後に続く女の先生方への先鞭をつけたい」とおっしゃっていました。

L L 教室改装

91年秋、従来の簡易型セミラボと呼ばれる形式から「フルラボ」と呼ばれる形式にグレードアップされた。従来の機能に加え、各ブースでの録音機能も加わり、個別練習可能な形式になったし、「ビジュアルトランザン」[※]と名付けられた映像送出機能、つまり、VHS型VTR 2系統・レーザーディスクコンパチブルプレイヤー・ビデオキャプションアダプター・固定カメラによるプリント等の映像等を生徒の机上のテレビ画面に送り出す装置等も加わり、より一層充実したL L授業が展開できるようになった。



冷房化始まる

大阪府は、学校施設にも時代の趨勢として冷房の必要があるとして、まず88年に図書室を、次いで90年に保健室、91年に校長室・事務室を冷房化した。



外装・ひさし改修工事

本校も、あちこちに傷みが目立ち始め、屋根の部分のひさしからコンクリートの破片が落下するに至って、92年大々的な補修工事を実施した。



奉仕等体験学習研究推進校となる

1991・92年度文部省より上記指定校に指定されたが、本校には生徒会やボランティア部、また教員の交流委員会による長年の実績があり、それを検討・発展させる形で取り組んだ。

座談会「藤高の昨日、今日、明日」

1993年5月24日 本校校長室にて

出席者 油上 良蔵 (本校校長)	福田 貴穂 (本校事務長)
伊藤 真治 (本校教諭・理科)	長 実 (本校教諭・国語)
香川 義憲 (本校教諭・国語)	黒田シマ子 (本校養護教諭)
田中 健一 (本校教諭・数学)	寺本 勉 (本校教諭・美術)
中須賀敬子 (本校教諭・英語)	林 誠 (本校教諭・体育)
谷口 房伸 (西浦高校教諭・理科)	中谷 工 (富田林高校主事)
野口 俊一 (本校教諭・理科)	
司 会 杉岡 俊男 (本校教頭)	記 録 岡田 正雄 (本校教諭・社会)

I 創設期の苦勞

杉岡 皆さんお忙しいところをお集まり頂いて有り難うございます。準備にあたってこられた前教頭中川先生が転勤されましたので私が司会を務めさせていただきます。まず、20年を迎えた藤井寺高校を振り返って、お話ししたいと思います。創設の頃からお願いします。

黒田 救急車を呼んだ事が10年誌に載って無いんです。当時雨がよく降ったんで、どこもビシャビシャ。



それで救急車が来た時に入れなくて、「どっちから行ったらいいですかー」とか「ここまで連れて来ーい」と言いはるんですけど、連れて行けないし、車は入れないし、入って来たら今度は車輪が泥の中に入り込んで進めなくなりましてね。そんな事が2回程ありまして、それから呼んでも、「藤井寺は道が無いから嫌だ」と言われましてね。やはり救急車で運ぶ時の困難が一番印象に残っています。

香川 私は、最初八尾高がモデルだったと思うんですが、3学期制でなく5学期制でやられたという事が印象に残っています。それから生徒は非常に元気がよすぎて、なかなか指導も難しかったけど、面白い子もいたし、いつも事件が起こっていて、張り合いのある毎日だったという印象です。

寺本 私は2年目からでしたが、近くに住んでますのでね、車で通って見たところ、1月になっても鉄



骨がただ建っているだけの状態でね、結局、藤井寺工業を借りて入試、入学式も市民会館という形で開校になった訳です。この南河内は古代史の舞台になった所ですね、土器が出ると調査しなくてはならないので段々遅れるんです。そういう危うい状態で、形だけは開校しますと、今度は1期生2期生も、学習でも部活動でも、次の工事の関係で非常に苦しい状態でやって行くという、職員も生徒も苦勞したスタートでした。それから最初のうちは普通「フジコウ」です

ね。すると生徒が願書もって来るときに、受付の締め切りギリギリでタクシーに乗って「フジコウへお願いします」と言ったら、藤井寺工業へ行ってしまった。そこで呼び名を「フジタカ」にしてまぎらわしくないようにしたと思いますね。

谷口 生徒を4期生から知ってるんですけど、今は殆どが自転車通学という形ですけど、初期の頃は2



km以上離れている生徒に限って許してたんです。その代わり山ほど二人乗りがありました。見付けて来ては、正座させたりやってたんですけども、多過ぎるし、苦情もたくさん来ますし、8期ぐらいに一応全員認める事にしたんです。それから駅前の駐輪場は、最初は市から学校の駐輪場というのを無料でジャスコの所に作ってもらってたんですけど、それが駄目になって、結局市橋校長先生の口添えで、駅前の日本レンタカーの所に有料ですが割安に取ってもらいま

した。それから、単車でも色々あったんですね。今は3無運動というのがありますが、昔はそんな事を言われてない頃でして、例えば文化祭で8ミリ映画をやった時、「先生の家で撮りたい」と言って、みんな単車で来たことがあったんです（笑い）。まあ最近では、そんなことは全然ありません。

林 僕はちょうど10期生が1年の時にこちらにお世話になったんです。困難校にいましたが、藤高の生徒が天使のように見えましてね（笑い）。それで自分の基準を変えて、もっと



上の事を要求していかなと自分自身に言いかけたんです。最初は生指部でしたが、感じたのは、二人乗りに対する指導の厳しさですね。前任校ではバイクに乗って来てる者がおまして、「許可なしで何で乗ってるんや」と怒ってるレベルでしたから。それが二人乗りしたら必ず次の日に呼び出して、正座させて、凄い指導しておられるので、成る程なあと思いました。

杉岡 玄関に入ったら賞状やカップが一杯並んでいるんで、部活動の方もかなり活発にやってるんだなという気がするんですけど。非常に強い時期もあったというふうに聞いておりますが、いかがですか。

林 初期の頃は水泳や柔道や陸上、体操、バトミントンなどはインターハイレベルで、野球・サッカーも、府下でベスト8になった事があります。女子バスケも近畿大会へ行ってます。こういう活躍をしてくれたんですけども、最近では女子のバレー、卓球、水泳が近畿大会に出場しました。卒業生の中で有名な国公立に進んだ者の多くが、運動部を経験して集中力や気力や忍耐力とかを養ってくれたんだと思うんです。だから本来の部活動の目的というものは、十分果たしてくれていると思うんです。

杉岡 初期のPTAのバックアップ等もかなり良かったんじゃないでしょうか。

寺本 PTAは熱心でね。特に既設校に追い付け追い越せということで、環境整備に力を入れられ、開校時点ですぐ、「通学路の舗装を早くしてくれ」と、藤井寺市側に働き掛け、すぐしてもらいましたね。農道の地主さんとの交渉もやられました。それから高鷲駅からの利用がかなり多かったんですけど、大量の生徒が降り、踏切を渡って一度に全部がこちらに来ると、道幅いっぱいになり車が通れなくなる。すると「この学校の指導は何や」と苦情がでる。そこで、改札を北側に変えるようにという運動を、近鉄本社まで行って交渉されました。それからカーブミラー、街灯等の設置についても交渉

されました、警察へ行っってね。それから駐輪場として一時ジャスコ前の道路を借りることも市に掛け合ってもらいました。

中谷 僕もここは2期生からなんですけど、事務所の場合は、外との対応があったので、最初の10年はいろんな苦情の処理であるとか、外からの一切の情報はまず事務所に入ってくるんで、大変な思いをしました。それから生徒指導についても、10年ぐらいまでは、僕も含めて生徒と何か対決するみたいな格好でやってて、学校職員皆が、指導をしました。僕でも外で見付けたら、「おまえらなんや」という事で、そういうふうにやってました。今、いろんな形で実践されている事の下地作りの時期であって、生徒に対して職員皆が力を合わせてやったということは、物凄い大きな力になってるんと違うんかなと感じてます。僕は最初は部活動はソフトボールをやってまして、5～7期生と一緒に野沢温泉へ、合宿に行きました。「あんたはこれだけ、あんたはこれだけ」では済まない時期があったなあと思います。そして、事務職員が事務の仕事だけを、また、先生方は教科指導だけに専念出来るような状況になって来てるんだなという事を、とても感じたんです。



II 中期の取り組み

杉岡 中頃からの色々な取り組みについて、お話し願えませんか。

林 10年以降、生指の中では、「生徒会の育成を」ということを言ってたんです。その中で、ある学校の例を参考にしまして、「靴下の白の規則をとっぱらおうや」という話に持って行ったんです。しかし、私はその時指導係でしたので、中須賀先生と相談しながら、そっと陰から生徒に示唆して、他の学校の見学に行かせたり、話を聞きに行かせたりしました。結局あの子らが偉かったのは、生徒全員にアピールして、ある一定期間、全員が白を守れるという事を、先生方に見てもらおうという所まで行きみごと、実証してくれました。先生方には既にご理解を得てましたので、うまく成功して自由化という事になりました。

杉岡 教科に関してはまず田中先生にお聞きします。教務をやっておられてどう思われますか。

田中 僕が来たのはちょうど13期生の時なんですけれども、教務のシステムが結構変わって来ました。例えば、それまで1・2学期の成績不振者に対して3学期に特別の審査をして、そこである程度の点を取れば、1・2学期の欠点をだいぶカバー出来るシステムがあったんですが、見てたら、1・2学期に手を抜いて、3学期のそれにかけるという生徒が出て来たりして、議論になり、最終的にそれはなくなりました。その代わり、不振者のフォローを明文化して、指導を加えるシステムになりました。僕が来た当初の感覚では、前任校に比べて生徒はさほど変わらない



し、理解する力は余り差はないと思っていたんですけど、結局理解はしても、なかなか家でやってくれないから、力として蓄えて行かないんですね。頑張っしてほしいなと思います。進路関係の話になる

んですけど、目的意識をはっきりさせて、何で勉強するのかという所を掴んでもらえたらいいんですけど、それが1、2年の間ではなかなか。

杉岡 本校は早朝講習をかなりやってるんですね。朝というのはなかなか厳しいと思われませんが。

中須賀 田原先生をはじめとして、みなさん熱心に色々やっておられるようですが、私は、そんなに大した事をやってる訳ではなくって、ラジオ体操みたいなもんです。3年生中心で、週4回位、朝7時半からやったんですけど、1回出て来たら判子を押すカードを渡してて、ただ判子欲しさに来てる子もいるんです(笑)。申し込む段階で140人位いるんですよ。視聴覚教室でやるんですけど、なかなか減らないんです。来て頑張ってるなあというんじゃなくて、なんか機嫌良く来てるなあという感じなんです。まあやらなければという気持ちは凄くあると思うんですけども。

杉岡 最近来てる藤高の生徒は、本人は結構力を持ちながら、中学校でちょっとさぼっていたような生徒が多いんでしょうかね。

中須賀 逆に中学時代は一生懸命頑張って、塾とかに行って、頑張って藤高へ来たので、高校はのんびりやろう、色々なことやろうみたいな感じの子が多いのと違うかなと思うんですが。

長 7、8年前位ですかね、塾が生徒を募集するチラシに、藤高に何人入ったというのが出るようになって来ましたね。生徒の中には藤高を目指している子も増えて来てるんでしょうかね。けれども良い子は来てるんだけど、余り勉強しない、のんびりしている。勉強し出したら伸びると思うんですけど、その自主性の無さを何とかカバーしたいと言ってやり出したのが、夏休みに市民会館の冷房の部屋を借りてやる「朝9時から夕方5時までのマラソン自主学習」です。学校の外やから世間の人に迷惑かけると違うかと、心配やったけど、うまく行きました。12期生の2年が出発点やったんですけど、世間の人「藤高の子は良くやりますね」と言うてくれました。

杉岡 教科以外にも藤高は、藤井寺養護学校との交流のような、人と人の輪、人間の温かみというものを生徒が作って来たという実績があるんですよ。その辺の所は伊藤先生どうでしょうか。

伊藤 僕は赴任6年目ですけど、「交流」があるという事を聞いてびっくりしました。面白い事やってるなあというのが第一印象でした。何年間か交流活動に関わらせてもらって、この頃思い始めたのは、どうしてこんなふうに両方の学校がバイディングしてここまでやって来れたのかな、という事です。他の学校で今は交流をやってない所へ聞きに行くとか解る事は、まず一人の人だけでやってるといふのと、体制が出来ていない、周囲の理解が無い事があるような気がするんです。うちは各先生に理解してもらって、周りでバックアップしてもらえるというのはすごく有り難いことです。後はうちの子らは素直で、その場になったらやってくれる。

野口 福西先生が同和教育推進委員会の中で、いわゆる障害児教育の方にも取り組み始めたんです。た

だ今みたいに組織化してなかった。ただし今よりも生徒のボランティアとかの力が強かったから、教師のかかわりよりも生徒の方がかなり積極的だったんですね、13期生辺りまでは。

Ⅲ 中期の発展の背景

杉岡 他に中期のころの藤高生気質（かたぎ）について、何か変わってきたなというような話はありませんか。

長 あのね、集会のときに生指の先生が「お前ら集まらんかー」と言っていたのが「早く並びなさい」という丁寧な命令形に変わり出したんです。7、8期か10期頃からじゃないでしょうかね。

香川 私は2年目からいて、見事に学校が良くなっていくなあと思いました。頂点に達したと思ったのは大体7期生だったと思うんですけど、近大へ60何人、8期生が50何人入った。それがまた地域の評価を高めて生徒の良さが高まる。10周年が過ぎてから後は、もう安定期に入っているんだと思うんですが、最近の進路の状況なんかを考えてみてね。

野口 過去のデータを20期生用に作ったんですけど、7期生からぐっと上がって、それがずっと安定しています。6期までと7期以降はかなりデータが異なってきます。何故でしょうね。

香川 あれはね、それまで必修クラブの6時間目が自由だったのを、あの学年の森井先生が講習を3年全員に受けさせ、それと進路の資料を物凄く配られたからで、生徒の質も良かったんでしょうけど、そのやり方を8期も引き継いで、いっぺんに伸びたと思うんです。

谷口 僕は7期生の3年を担任したんですけど、男子は殆ど進学を考えて、下のレベルの大学は見向きもしなかった。うちのクラスでは早稲田まで受けにいった者が3人いて、「東京見物のつもりで行って来い」と言って受けさせたんですが、全員落ちたけど、一浪して関関同立にみんな受かってますから、それなりに皆意欲的に取り組んでいたと思います。それに全職員が一斉に取り組んでた姿勢が良かったんじゃないかと思います。

長 12期生の自主学習にしても、この近辺の学校で、やろうとした学校はあるんですが、出来なかった。それは、藤高の先生全体がそういう方向に向かって頑張ろうというのが暗黙の内にあったからで、それが生徒にも反映していったと思うんです。

中須賀 たまたま14期で同窓会をしてたら隣から「僕ら1期生なんですけど、何々先生いたはる」と懐かしそうに入って来たんです。そういう師弟関係の温かさがあったんですね。実は「1期生ドアホの歌」というのがあって、それを教師が皆で歌って、「一発ええ学校にしよう」といって、最初に、新設校なのに「高校で出来る行事を全部やろう」を大目標に、林間から臨海から、とにかく出来る行事は全部、皆で一致して取り組んではったというのを聞いて、凄いな、素晴らしいなと思いました。そんな流れが今も続いているのと違うかな。

田中 僕が来た13期は、しんどい時期を経て、落ち着いたという時期ですね。だから先生方が物凄くまとまって、よう仕事するなあと感心しましたね。とにかく何かあったらすっとまとまって皆一生懸命やる。何て学校やと思ったけど、僕も働くようになってしまいました（笑）。

林 食堂の話してもいいですか。ご存じない方が多いと思うんですけど、例えば生徒が津堂会館を借りて学校の設備で合宿をするでしょう、その時にお願いすると、朝昼晩と用意していただけます。勿論営業日と関係なしにです。よその学校ならまず難しいでしょう。ですから、藤高の発展は食堂のお陰もあるといえます。

中須賀 去年リーダー合宿をやった時に、日曜のお昼に食堂を使わせてもらって、お好み焼きを作らせてもらったんです。その時に江川さんわざわざ来てくれはって、職人のほんまもんの包丁とか全部、生徒に使わせてくれはるんです。ほんとうにびっくりしました。「切ったろか」とかおっしやって色々手伝ってくれはるんです。何て親切なんやろうと思いました。

杉岡 素晴らしい人が多いですね。私は今年赴任してきたわけですが、今年でおやめになった技師の大中さんのことを西岡さんから聞きましたが「あんな素晴らしくよくできた人はちょっとおりませんで」というのが第一声でした。

谷口 支えになってる人、例えば食堂の方々とか技師の方々とか、それから購買なんかも。よそで聞くと儲からないので閉めてる学校が結構あるんです。そういう意味では藤高はいい人ばかりいるなあと思います。黒田先生の存在も本当に大きいですよ。保健室は逃げ場になるんですが、黒田先生は割りと厳しいからね（笑）。皆我慢して教室でやってるんです。

中須賀 でも人生相談までしておられるんですよ。

寺本 同窓会の方も後輩の事を思って、生徒会活動を補助したり、施設面とか、大きな行事とかで支援をしています。それを生徒は余り知らない。今の生徒には、いかに先輩が苦勞したかとか、表面には出ない資金面での援助等を、折りに触れて伝えることも大切ですね。

杉岡 クラブでもOBが来てくれると、支えてもらえるし、充実もするでしょうね。

伊藤 ブラスバンド部の場合は、常時来てくれるOBは10人前後ですけど、定期演奏会の前は2～30人は必ず集まってくれます。顧問が頼り無くても活動ができるというのは、やっぱりその辺が大きいですね。

林 今までうちの運動部に欠けていたのはOBの現役に対する関わりです。社会の中で中堅になってるOBも多いので、そろそろOB会としてクラブに貢献してくれるように望みます。

杉岡 ところで事務長さん、施設面で色々苦勞された点があるわけでしょう？

福田 私が参りましたのは15年目でしたが、施設設備につきましては、ぼちぼち不都合が出て来ている



ようです。私が来て2年目、あちこちで雨漏りがする。台風之夜などは階段からもう川のごとく流れてくる。原因箇所はなかなか分かりにくいんですが、何回か業者に来てもらって補修しました。最近では校舎の外壁が剥離して破片が落下することもあり。もしこれが下に居合せた人にでも当たれば大変な事なので、その破片を持って教育委員会へお願いに行き、昨年度の終わり頃には改修工事も終り、外壁が見違えるように綺麗になりました。それ以外でもLL教室の設備を、優れた機能の機器に入れ替えて新しくするとか、そう言った面でも色々改修や改善をして頂いています。

IV これからの藤高

杉岡 それでは将来の展望等々についてもどンドン話して下さい。まず校長先生から、今の藤高についての感想などを交えていただいて、お願いします。

油上 今年の卒業生が、昨年の文化祭で注目すべき企画を行った訳です。例えば、特別教室に大きな水車小屋を作って、そして手打ち蕎麦作りを習って来て、当日実演して食べてもらうとか、体育館の横に土を運んでもらって、皆で土を固めて本格的土俵を作り、手作りの化粧回しで土俵入りをして、相撲を取って、見に来た人に焼き鳥を作って食べてもらうというような取組ですね。とても皆は出来そうにないと思ってた訳です。ところがリーダーになるような生徒が「やろう」と言い出して、一生懸命やる生徒がいて、それを見ていて自分らも手伝わないかなという事で、殆ど全員が取り組んだという素晴らしい活動がある訳です。私は藤高で教育の一環として大切な事は、クラスの皆が力を合わせて何かやると言う事だと思うんですね。

杉岡 それは素晴らしい取組みでしたね。

油上 また、ボランティア部が高鷲学園を訪問して子供達の行事に参加して一緒に遊んであげるという事をしてます。クリスマスの時には、子供達の写真を先にとっておいて、その写真を添えて、手作りの動物のマスコットを一人一人にプレゼントした。そういった教育活動が展開される学校というのは、非常に素晴らしいんじゃないかと思います。そういう事で、クラスで皆が何かを共にする、そして地域でも仲間と共に何かを一緒にやる。そういう子は将来、地域で何かをしてくれるだろうし、また社会人として、地域の為に環境問題とかに取り組んでくれるだろうし、職場でも何かをやってくれるだろうと期待するわけですね。そういう逞しく育てると言いますか、そういう生徒を作り上げる事も大切ではないかと思いますけど。

田中 我々は、ちょっと生徒に対してやり過ぎな面があるんですよ。それが刺激となって生徒を伸ばすのであればいいけど、本当を言うと生徒がついて来るように仕向けなあかんのが、無理やり手を引っ張っているという面の無きにもあらずです。その辺が今後の難しい所です。

野口 ルートを付けてやった後に、突き放す事が必要になって来ると思います。結構うちの生徒はやれるんですよ。私は、遠足の時に「バスは8時に出る。来なかったら絶対に待たん」と言って出発したんです。そして天川村へ行っただけです。そしたら遅れて来た生徒達が先に来てたんです。どう考えたかと言うと、まず阿倍野まで行って特急に乗り換えて下市口まで行って、そこでタクシーに乗るときに、金が掛かるから天川村まで行く人を駅で募集して、二人つかまえて来たんです。だからうちの生徒は、力はあると思うんですね。欲が無いのと社会性が無いんですね。上を見ないんで僕らが見せてあげないと見ようとしません。見ると自分の力を発揮すれば、それを握む事は出来るんですけどね。それと、もう少し広い接触があるんじゃないかと思うんで、進路で遠い所へ行く指導をしてるんです。だから国立を強調してるのは最近ですが、それは親元から追い出し



たいんで、そのためにお金がかかるから地方の国公立がいいという話になって来る。そういうふう
に飛んで行った生徒達は、いろいろ面白いですね。

長 個々の生徒が自分の個性に目覚めて、それを実現して行くのに、生き方の方向を多様に考えてあげ
なあかんと思うんですけどね。時代は高学歴を求めていますけど、藤高としたらやっぱり「いかに生
きるべきか」が人生の根本問題やから、それをしっかり正面に据えて、自分の個性をどう発揮するか
の産婆役をする、そんな事と違うかなと思っているんです。

香川 個性という言い方もあるけど、「自己表現」と言う生徒が自己をどのように表現するかと言うこ



とが、最近では変化してきていると思うんです。自己発言を余り上手にしない子
が多い。行事の「アップレード藤高」について、「高校生になったらこんな
具合にせないかんと、自分らで皆やってる事に感動した」という卒業生の答
辞がありましたが、ああいうショックを与えて行く必要があると思います。
もうちょっと自己表現をレベルアップさせる非常に大事な要素が、「これを
やったら」というアドバイスをどの程度浸透させるかという事の中にあるん

じゃないかなあと。それは音楽でも、行事でもいいし、あらゆる場面で自己表現の場が増えたら良い
のじゃないかと思います。生徒会でやったリーダー研修なんかはいいなあと思います。

長 今度の20周年の歌の歌詞を募集しましたでしょう。あれは予想していた以上に良い歌が集まったと
思いますよ。そして更に作曲ね、4曲集まって、3曲は水準以上なんですよね。そしてどれも捨て難
い。そういう個性のある子がやっぱり藤高におるんですよ。だからやはりそういうのを伸ばしてやる
ような事を大事にしたいというような気がしますね。[座談会の最後に曲と歌詞を掲載。ご覧下さ
い]

林 うちの生徒は、自分を主張するのが下手なんです。部活動でよく言われるんですが、ここ一番に
弱い。例えば、相手とせっていて一ついいプレーが出たら勝てるという所で、なかなか出ない（笑
い）。強い相手に当たったら自信をなくして力が出せない。打開法はクラブの場合は簡単で、練習量
を確保してやれば変わるんです。ところが、うちの生徒はなかなかやりたい事がやれない。これから
は、生徒に何かやる気を起こさせる、やらせてやる、「もっとやれ、お前のいい所を出して行け」と
いう指導をして行くのが、生徒指導の在り方だと思います。そういう意味で発想の転換が必要ではな
いかと思うんです。

中谷 その辺で昔の時代と比べて感じるのは、最初の頃というのは、職員の方もなかなか猛者揃いやっ
たなあという気がしますわ。例えば昔は校長さんの顔触れを見ても、初代の校長は、職員会議で「今
は俺が言うてんねんから、黙れ」とか（笑い）、そういう豪傑やったし、2代目の亡くなられた土井
先生なんかは、当時としては無茶苦茶ハイカラなクラウンスーパーサルーンに乗ってやって来て（笑
い）、凄く意外性のある新鮮なイメージを生徒に与えたというような事もあります。また、スーパー
スターと言われるような先生方もいっぱいおられました。みんなもっとバイタリティーがあったね。
今はそれぞれ個性はあるにしても、全体の中では、押さえて押さえてやってる。

香川 いや、それまでは問題が多すぎたから、こちらの方で張り切らないと仕方なかったんでしょう。

今はもう生徒が安定してて、張り切ってもそんなに目立たただけですわ。講習やそんなんはもう活発ですからね。

林 生涯教育という事で、卒業しても運動を生活の中に取り入れられるように、3年の女子に去年、授業で班別に交代で計画を立てさせて、実践したんです。勿論最初はなかなかうまくいかなくて3時間目位から軌道に乗りました。今年になって同じような形で、テニスの授業で実践し、「今日はこれをやるよ、ここを目指してやりなさい」という事だけ言って、後はもう班に戻すんです。そして話し合いをして、練習方法から時間配分から評価まで見事にやるようになりましたよ。藤高の生徒は、やはり大きな可能性を持っています。授業効果は一斉授業よりずっと上がってます。あの子らは卒業しても生活の中にテニスを取り入れられるようになっている、時間は掛かるけど大事な事だと思えます。

田中 体育と座学とは結び付かないところはあるけど、任せる、やらせる、というのを中心にやっていったら楽みたいに見えるけど、結局フォローを考えてないかんから一番しんどいです。

林 結局、必要性をあの子らに理解させる、なぜそれを自分達がやらねばならないのか、工夫しなくてはならないのか、そこだと思うんです。

野口 例えば進路指導で、就職関係でも物凄く丁寧だったですね。で、ちょっと変えてるんです。余りにも自分は何をやっても救われるんだという意識が強い。だからここまでは許すけどここからはもう面倒は見ないという事を最初に宣言して、成績に関係無く、自分のやった事に対しては責任を持たせようと思って、去年辺りから選考方法をすべて変えていこうとしてるんです。

香川 HRでも、むしろ生徒の問題を生徒自身が話し合うような時間にしたらどうかなと思うんですけど、生徒のHR委員を動かすということがなかなか難しいし、しんどいですね。こっちの方で計画して置いて、年間のHRをやってしまう方がよっぽど楽やけど、主導の転換をする必要があるんじゃないかという気がします。

杉岡 施設設備の面ではこういうふうにしたいたんと言う事はありますか。

福田 特に施設設備については、お金の裏付けがないと出来ませんので。ただ生徒数がずっと減って参りましたので、当然空き教室が出ます。そこでその有効利用を先生方と相談しながらやって参りたい。それともうひとつ、頭の痛い問題は、机が余ってくるんです。とりえず保管場所の問題で困っております。

杉岡 藤高20年の歴史をふり返りながら、創設期の苦労話から中期の取り組み、発展と話を進め、これからの藤高および藤高生について、いろいろな御意見もお聞きすることができました。それでは、ここで、校長先生に、全体のまとめをお願いしたいと思います。

油上 今日は旧職員の方々にも参加していただき、お忙しいところをお集まりいただきありがとうございます。20年を振り返って私も非常に面白い話を色々聞かせていただきまして、これからの藤高の教育をどうして行くべきかという所が、見えて来たように思います。特に21世紀との境で生きて行く藤高生をどのように教育して行くべきか。まあその中でもこれからは40人学級になって少なくなっていくますから、先程から出ていた個性を生かす、生徒の良さ、持ち味を出す、また、自己表現力を

もっと付けささないかんのじゃないとか、学習面でも余りにも先生方が手を出し過ぎていたんじゃないとか、生徒自らがやるように持っていかないかんとか、それからクラブでも今後はOBとの連携をどのようにするかとか、その辺りを中心にこれからの藤高はどういう教育をしていくべきかが、見えて来たように思います。

杉岡 藤高の将来に、新たな展望が開けて来たようです。この辺りで本日の座談会を終了させていただきますが、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をたまわり、一層の発展を期したいと思います。



本日は、お忙しいところ本当にありがとうございました。

創立20周年記念歌

-20-FUJITAKA

作詞 杉井 義徳 (17期生)
作曲 花田 匡由貴 (19期生)
藤井寺高校創立20周年記念歌「学び舎」

かぜひかる きぼうを いたいで
じつとだまってる たたずんでいる
い ま おちえばもう
にじゅうねん きみもハタチ
チに なつ た ようね
おめでと う トゥエンティース アニ
(20th) Em
バサリー ありがと う トゥエンティース アニ
(20th)
バサリー はなをおくる よ

「学び舎」…………… 3-2 杉井義徳 作

1. 風光る希望をいだいて じつとだまって たたずんでいる
今思えば もう二十年 君もハタチになったよね
※ おめでとう 20th Anniversary
ありがとう 20th Anniversary 花を贈るよ
2. 灼熱の日差しをあびて 僕らの汗を のみこんでいる
今思えば もう 二十年 ずっと一緒に生きてきた
※ (繰り返し) 花を贈るよ
3. いわし雲の下のもみじと 声はずむ 僕らの教室
今思えば やっと 二十年 君と僕らの思い出が
※ (繰り返し) 歌を贈るよ
4. 寒い北風鳴いている窓 何かを僕らに言っておくれ
今思えば やっと二十年 僕も大人になったんだ
※ (繰り返し) 歌を贈るよ
5. きっと一緒に笑っていた 確かに一緒に泣いていた
君と僕らの三年間 この胸の奥にしまおう
※ (繰り返し) 光を贈るよ

校務分掌 各部のあゆみ

〔教務部〕

■教育課程

現行課程は9期生（1982年度・S57年）から始まる。補完の時間なるものが導入され、学年総単位数は30となった。現代社会、理科Ⅰが大きな問題点として残った。それから十年余の間に各教科の中で多少の変更があった。9期生では2年次で社会の選択があったが、10期生から世界史（4単位）の必修となり、13期生から2年次の理科が化学（2単位）・生物（3単位）から理科Ⅱ（2単位）・化学（3単位）に変更となった。16期生から2年次の英語Ⅱ（5単位）が英語Ⅱと英語ⅡBに分割され、3年次の英語ⅡBが英語ⅡCに変更された。そして、17期生の教育課程で本校の方針らしきものがまとまった。進路を考える上で2年次から文理の選択的要素を入れる。ただし、3年次での変更もできるだけ可能とする。つまり、1994年度（H6年）からの新指導要領の先どりでもあった。1・2年次では基礎・基本を重視し、かつ2年次に理科の選択を入れることにより文理選択を考えさせる。3年次に数多くの選択科目を入れて個性の多様化をはかる。もちろん、上記選択については激論があった。本校生徒の選択能力についてである。3年次においてさえ途中で文理の変更を希望する、あるいは進路希望が未定の生徒のいるなか、1年の2学期において果たして文理選択が可能かということである。結果的には3年次で理希望から文に変更可能ということで2年次理科選択が採択され、これが本校の教育課程の方針となった。

1994年度（H6年）からの教育課程についても、この方針が受け継がれた。2年次において、類型あるいは教科間選択の導入についても議論はなされたが、前述した生徒の選択能力という点から、また理科選択によって、ある程度の進路選択可能という理由から新教育課程表は右表のように落ち着いた。

ところが、1993年度（H5年）において新たな問題が生じてきた。学校5日制の問題である。月1回の土曜日については曜日変更で乗りきれることはわかったが、月2回、あるいは将来において完全学校5日制となる時、この表では対応できない。特に授業時数33時間というのは驚異である。現時点において、この表はこの20周年誌だけにのるまぼろしの教育課程表となる可能性すらある。その際、17期生の教育課程表で確立した本校の方針をせびとも引き継いでもらいたい。

新教育課程表

教科	科目	1年	2年	3年		
				文系	理系	農水畜
国語	国語Ⅰ	4				
	国語Ⅱ		3			
	現代文			4	4	4
	古典	2	2			
地理歴史	世界史A		○2			
	世界史B		◇2	2※2		
	日本史A		○2			
	日本史B		◇2	2※2	▽2	▽2
公民	倫理	2				
	政治	2		2	2	2
数学	数学Ⅰ	3				
	数学Ⅱ		3	3		2
	数学Ⅲ	2			4	
	数学Ⅳ		2			
理科	物理Ⅰ	2	△3			
	物理Ⅱ		2		☆4	☆4
	化学Ⅰ	2	2		☆3	4
	化学Ⅱ		△3		☆3	☆4
保健体育	体育Ⅰ	3	3	3※2	3	3
	体育Ⅱ	1	1			
	音楽Ⅰ	2				
	音楽Ⅱ		2			
英語	英語Ⅰ	4				
	英語Ⅱ		4			
	英語Ⅲ	2		※2		
	英語Ⅳ		2	3	4	3
家庭	家庭Ⅰ			※2		
	家庭Ⅱ			2	2	2
	家庭Ⅲ			※2		※2
	家庭Ⅳ			※2		※2
家庭一般		2	2	※2		
教科・科目の計		33	33		33	
HR・クラブ活動		2	2		2	
総計		35	35		35	

選択方法等……※印2科目選択。他1科目選択。

■教務内規

1977年（S52年）にほぼ完全なものがあった。その後、問題点が生じるたびに改善され現在に致っている。たとえば、評定基準に関して平成2年に変更された。進級規定に関しても補完の時間が導入された1982年度（S57年）、その時間が名実ともに消滅した1992年（H4年）に大きな変更があった。今後、新指導要領の年である1994年度（H6年）において、おそらく大きな変更があるものと予想される。

■教務事務

成績処理についてパソコンが導入され、平成2年からは、成績一覧表は打ち出された用紙そのものを原票とすることができた。生徒の個人カードも廃止され、17期生から2・3年次の学年初めに、それまでの成績を打ち出し新担任に配布できるようになった。終わりに成績処理ソフトの開発に尽力して下さった来住隆一氏に篤く感謝致します。

1期生 教育課程表

教科	科目	1年		2年		3年	
		文系	理系	文系	理系	文系	理系
国語	現代国語	3		2○2		3	3
	古典Ⅰ甲						
	古典Ⅰ乙	2		3			
	古典Ⅱ				3		
社会	倫理社会			2			
	政治経済				2	2	
	日本史				5	3△2	
	世界史			2	△2	△2	
地理	地理A	3					
	地理B				△2	△2	
数学	数学Ⅰ	6					
	数学ⅡA						
	数学ⅡB			3○2	2※2		
理科	数学Ⅲ					6	
	物理Ⅰ			3			
	化学Ⅰ			3			
	生物Ⅰ	3					
	地学Ⅰ	2					
	物理Ⅱ				▽3	※3	
	化学Ⅱ				▽3	※3	
	生物Ⅱ				▽3	※3	
保健体育	体育	男4 女2	男4 女2	3※2		3	
	保健	1	1				
芸術	音楽Ⅰ	2					
	音楽Ⅱ			2			
	音楽Ⅲ				※2		
英語	英語A						
	英語B	6	5	5※2		7	
家庭	家庭一般	女2	女2				
	食物Ⅰ				※2		
教科・科目の計		32	32	32			
	HR・クラブ活動	2	2	2			
総計		34	34	34			

10期生 教育課程表

教科	科目	1年		2年		3年	
		文系	理系	文系	理系	文系	理系
国語	国語Ⅰ	5					
	国語Ⅱ			4	○2		
	国語表現				○2		
	現代文古典				3	3	
社会	現代社会	4					
	日本史				3	▽4	
	世界史			4			
	地理				3	▽4	
理科	倫理				○2		
	政治経済				○2		
数学	数学Ⅰ	5					
	数学Ⅱ						
	代数幾何基礎解析			2			
物理	微分積分			3			
	確率統計				△3	4	
	確率統計				3	3	
理科	理科Ⅰ	4					
	理科Ⅱ			2			
理科	物理					◇5	
	化学	3		○2	2		
	生物				◇4	◇5	
	地学				◇4		
保健体育	体育	男4 女2	男4 女2	3○2		3	
	保健	1	1				
芸術	音楽Ⅰ	2					
	音楽Ⅱ			2			
	音楽Ⅲ				○2		
英語	英語Ⅰ	5					
	英語ⅡA			5	3	3	
	英語ⅡB						
	英語ⅡC				3○2	3	
家庭	家庭一般	女2	女2				
	食物					女○2	
教科・科目の計		30	30	30			
	HR・クラブ・補完	4	4	4			
総計		34	34	34			

17期生 教育課程表

教科	科目	1年		2年		3年	
		文系	理系	文系	理系	文系	理系
国語	国語Ⅰ	5					
	国語Ⅱ			5		○2	
	国語表現					○2	
	現代文古典					3	3
社会	現代社会	4					
	日本史			2	3	▽4	
	世界史			2	2		
	地理				×4	▽4	
理科	倫理					○2	
	政治経済					○2	
数学	数学Ⅰ	5					
	数学Ⅱ						
	代数幾何基礎解析			3	×2○2		
物理	微分積分			3	×2		
	確率統計					3	3
	確率統計					3	3
理科	理科Ⅰ	5					
	理科Ⅱ						
理科	物理			#2	#3	#5	
	化学			3	△3#3	4	
	生物			#2	#3	#5	
	地学			#2	#3		
保健体育	体育	男4 女2	男4 女2	3○2		3	
	保健	1	1				
芸術	音楽Ⅰ	2					
	音楽Ⅱ			2			
	音楽Ⅲ					○2	
英語	英語Ⅰ	6					
	英語Ⅱ			2	3	3	
	英語ⅡA					○2	
	英語ⅡB			3		○2	
家庭	家庭一般	女2	女2				
	食物					3	3
教科・科目の計		32	32	32			
	HR・クラブ活動	2	2	2			
総計		34	34	34			

選択方法等……※印2科目選択。他1科目選択。#印連続履修。

〔進路指導部〕

本校の最近の進路状況は、別表・別図の通り、きわめて好調であるが、これは一期生以来今日まで変わることなく全教職員及び進路指導部が共通理解のもとに、めざし努力してきた「個々の生徒の進路保障を」という目標が着実に実を結んできている結果だと言える。

1 本校の進路指導

進路指導部が情報を集め、分析をし、それを学級担任等に流し、学級担任が生徒を指導する方法を取っている。これにより、どのクラスに所属していても同じ指導を受けられる有利さがある。生徒達に、人間として望ましい生き方を自覚させ、将来の生活においてより良い自己を実現させるためには、進路に対する自覚をできるだけ早い時期から持たせることが望ましいと考える。そのために、一年時から生徒及び保護者向けの進路説明会やHRを継続的に持ったり、「進路の手引き」や多くの出版物の配布、その他の進路情報を流すことにより啓蒙に努めている。

2 進学

図1は大学の全合格者であるが、1989年（平成元年）までは200～300の間で推移していたがそれ以後伸び始めた、大学入試が難化するのに反比例して良い結果を出している。

図2は現役生のみでの大学合格者数であるが1989年（平成元年）を底として急速に伸びてきた、これは本校全体の熱心な取り組みと時代に即応した柔軟な対応の成果であると思われる。

図3は国公立大学の合格者数であるが、急速に伸びてきた。これは現状に安住することなく、常に前へ前へと目が向いている積極的な態度の現われと考えられます。

図4は短大合格数であるが、5年で倍増している。現在では短大希望者の95%以上が合格している。

3 就職

図5にあるように就職希望者は急速に減少しているが、希望した生徒はほぼ100%合格している。

主な進学（1～17期）

※17期生浪人の結果は含まない

※短大は17期生まで、他は16期生まで

国立大学

合計(人)	学 校 名
10～20	大阪外語大、大阪市立大、水産大
4～9	東京水産大、信州大、三重大 大阪教育大、神戸大、和歌山大 愛媛大、高知大、宮崎大、大阪府立大 下関市大、広島県立大
1～3	北海道大、室蘭工大、弘前大、東北大 秋田大、福島大、筑波大、宇都宮大 群馬大、東京農工大、新潟大、富山大 福井大、名古屋工大、滋賀大、京都大 京都教育大、京都工織大、神戸商船大 奈良教育大、鳥取大、島根大、山口大 徳島大、香川大、長崎大、大分大 釧路公立大、大阪女子大 奈良県立商大、姫路工大、長崎県立大 防衛大

4年制大学

150 ～ 659	近畿大(659)、桃山学院大(337) 関西大(257)、大阪工大(242) 大阪経大(228)、大阪産業大(188) 大阪商大(180)、国公立大合計(159)
89 ～ 149	摂南大、大阪電通大、龍谷大 四天王寺国際仏教大、追手門学院大 大阪芸大、立命館大
～88	北里大、青山学院大、東海大、 東京農業大、慶応義塾大、京都産業大 京都外国語大、京都女子大、同志社大 同志社女子大、大阪薬科大、 関西外国語大、関西学院大、甲南大 甲南女子大、神戸海星女学院大 武庫川女子大

短期大学

100 ～ 236	四天王寺国際仏教大短大部(236) 常磐会短大(194) 大阪成蹊女短大(177)、金蘭短大(176) 帝塚山短大(131)
50 ～ 99	関西外語短大、夙川学院短大 武庫川女大短大部 大阪キリスト教短大、相愛女短大 大谷女短大、大阪国際女子大短大部 浪速短大、大阪短大、羽衣学園短大 大阪女子学園短大、大手前女短大 園田学園女短大
～49	福井県立短大、滋賀県立短大 三重県立三重短大、大阪府立看護 龍谷大短、嵯峨美術短、平安女学院短 聖母女学院短、同志社女大短、大谷短 華頂短、大阪女学院短、帝塚山学院短 梅花短、プール学院短、甲南女短 松蔭女子短、樟蔭女短

進路指導年間計画

- 4月：3年学年集会 3年進学説明会
- 5月：保護者向け大学説明会、短大説明会企業訪問
- 6月：各学年集会 分野別進学説明会（2年）
受験希望校提出（1回目）
- 7月：3年学年集会
進学関係の全情報のまとめと担任への提出
- 8月：就職者指導
- 9月：受験校提出（最終）
- 10月：進路学年集会（2・3年）進路HR（1年）
- 12月：一般入試に向けた学年集会
- 2月：学年集会（1・2年）進路HR（1・2年）
- 4月～10月：外部模試、校内実力考査

図1（4年制大学合格者数）

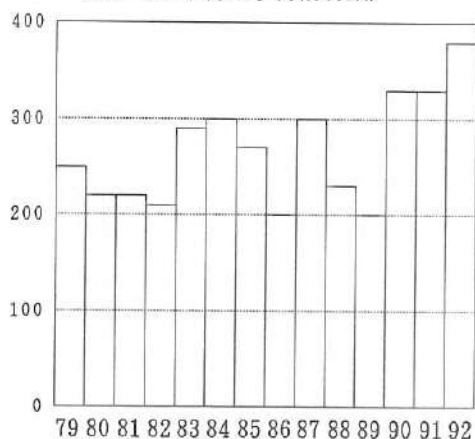


図2（4年制大学現役合格者数）

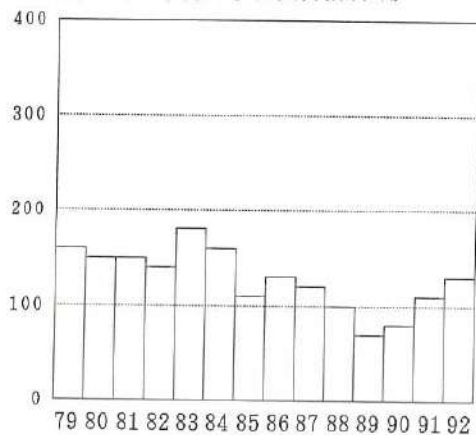


図3（国公立大学合格者数）

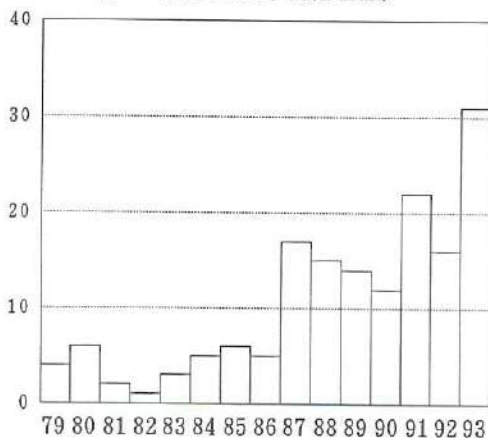


図4（短期大学合格者数）

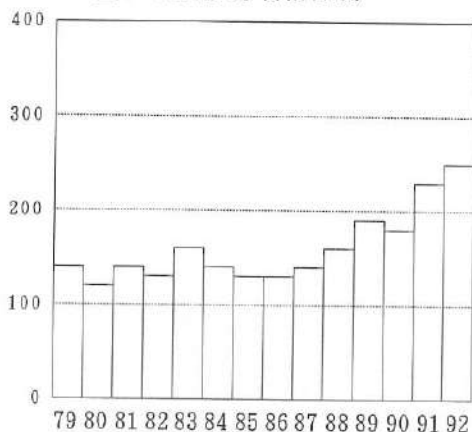
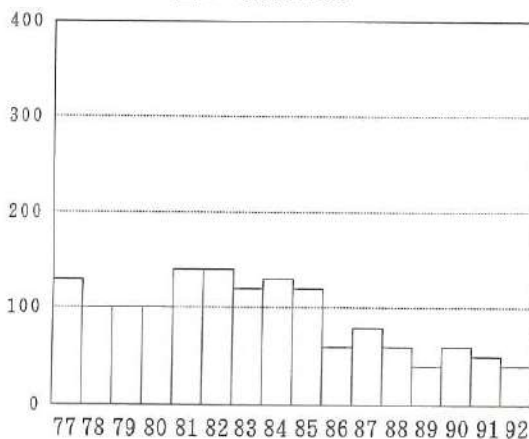


図5（就職者数）



〔図書視聴覚部〕

■図書室

創立1年目は現図書室は、職員室となっており、その一角に教員の好意による数百冊の本をもとに開設された。この時の本は寄贈本として、今も書棚の中に見つけ出すことができる。蔵書数は十年目で約9千冊で今では約1万5千冊となり、辞典類なども充実してきている。閲覧室は80席(200㎡)で、1988年には冷房設備が付けられ、夏の暑い時も涼しく利用できるようになった。本の年間貸出冊数は約3千冊で利用を増やす努力をしている。また、本の貸し出し以外にも読書、自習、レポート用の調査、研究等にも大いに利用されている。休館日には、講習にも使用されている。

■視聴覚

創立1年目は現視聴覚教室は音楽室として使用されており、視聴覚教室としての整備は3年目(1976年)からである。視聴覚機器の整備には、創立時より熱心で、当時としては最新の機器(Uマチックビデオデッキ、8mm映像関係など)も導入された。しかし、今になると機器全体が古くなり、順次見直しされ最新の機器に入れ換えられている。たとえば1991年にはビデオプロジェクター、1992年度には、ビデオ編集システム、CDプレーヤー等を導入、また視聴覚教室のシステムの改修も行われた。

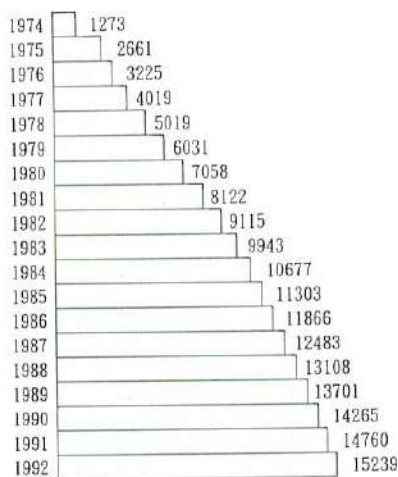
分類別蔵書冊数：NDC一時区分類

		1993. 3. 31 現在
総計	記	938(6%)
哲	学	361(2%)
歴	史・地	1477(10%)
社	会・科	998(7%)
自	然・科	1386(9%)
技	術・工	546(4%)
産	業	151(1%)
芸	術	1352(9%)
言	語	476(3%)
文	学	4122(27%)
その他(文庫)		1852(12%)
	(新書)	1607(11%)
合 計		15239(100%)

●主要視聴覚機材一覧●

16mm映写機	2台
カメラ 一眼レフ	2台
レンズシャッター	1台
レンズ 35mm 広角	1本
135mm 望遠	1本
ストロボ	2台
ビデオカメラ HI 8mm	1台
VHS用	2台
ビデオデッキ	5台
ビデオモニターテレビ	6台
ビデオプロジェクター	1台
オーバーヘッドプロジェクター	2台
スライド映写機	6台
ステレオシステム	2台
ビデオ編集システム	1式
ビデオタイター	
エフェクター	
オーバーヘッドカメラ 等	
放送用アンプ	2台
ワイヤレスアンプ	2台
CDプレーヤー	1台
MDP	1台
B Sチューナー	1台
AVセクター	2台
カセットプレーヤー	5台

蔵書冊数の推移



〔保健部〕

■保健部

保健図は創立以来健康・環境・安全の3管理部門を中心に取り組んで来た。生徒保健委員会は1975年（S50年）より引き続き活動を続けている。

1. 健康管理

定期健康診断を通じて処置依頼書を発行し、各自の健康管理に留意させているが、う歯保有者、裸眼視力0.9以下の生徒は10年前と大差ない。内科的には、アレルギー疾患を訴える生徒が増加してきている。また今年は特にインフルエンザが全国的に猛威をふるい、本校でもインフルエンザによる欠席者が目立った。

2. 環境管理

毎日の清掃、月一回の大掃除には全職員が監督指導にあたり、校内の環境美化を生徒とともに強力に押しすすめている。

3. 安全管理

- 安全点検 4月・9月・1月
- 水質検査 飲料水 4月・9月
プール 7月
- 照度検査 二教室 11月
- 空気一斉調査 二教室 2月

上記のそれぞれの月に実施したが、安全点検では、監督の職員より申し出のあったものを集計して事務室へ提出し、学校内で処理できるものと府へ依頼するものに分け、早期に危険箇所を発見し、その修理が行なえるよう努力している。水質・照度は適合であったが、空気についてはストーブ使用中は換気が必要であることと、ストーブの設置場所が生徒に近すぎるとの指摘があった。

4. 保健委員会活動

各クラスより選ばれた委員が、学年別に活動している。

- 1年 保健衛生、美化等に関する「ポスター」を作製し、廊下、トイレ等に掲示。
- 2年 年四回「保健だより」を発行し、全員に

配布、健康に対する意識の啓蒙に努めた。

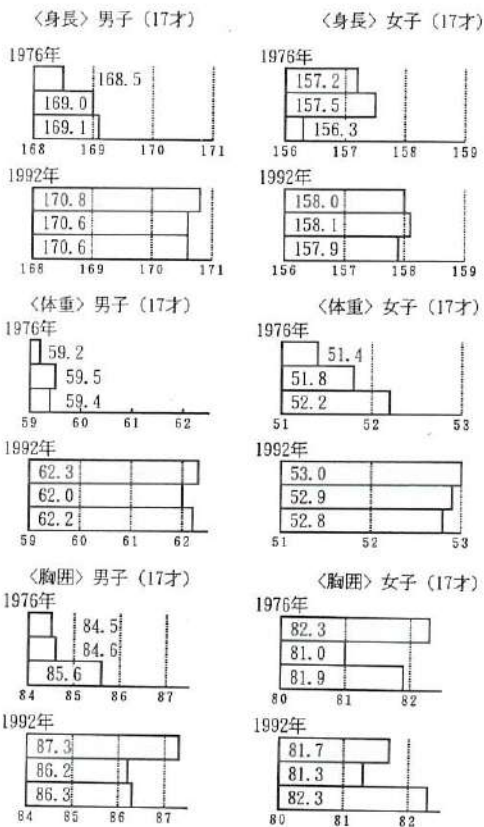
- 3年 年三回、清掃後に「清掃点検」を行ない、監督の先生に報告。

5. 保健室での救急処置

保健室の利用状況は別表の通りであるが、10年前に比べ内科も外科も利用者が減少してきている。これは年々健康の自己管理の出来る生徒が増えてきたものと思われる。しかし逆に不定愁訴の生徒の増加が気になるところである。

身体状況

グラフは上から「本校平均」「大阪平均」「全国平均」



< 保健室利用状況比較 >

内科	1982年	1991年	外科	1982年	1991年
頭痛	258	93	擦り傷	106	90
感冒	413	58	切り傷	35	42
腹痛	273	289	打撲	97	71
胃痛	74	53	突き指	78	58
下痢	30	51	捻挫	61	53
悪心	106	134	筋肉痛	36	22
気分不良	155	229	骨折/疑	5	14
脱力感	97	26	脱臼	4	5
脳貧血	21	5	別し傷	10	6
生理痛	88	37	つめ		7
めまい	19	14	耳鼻科	12	5
その他	69	37	眼科	46	16
			その他	88	52
合計	1691	1026	合計	578	441

〔生徒指導部〕

“春霞む河内国原みはるかす御陵の森は…”と歌われた校歌が20年の歴史をむかえた。今日、藤井寺高校が地域に根ざし、親しまれ、信頼される学校として高い評価を受けているのは、日常の学校生活を通して、教師と生徒との温い心の交流があり、放課後の部活動等で生徒と一緒に汗を流す教師の熱意と努力の積み重ねの結果であると思う。

ここで、これまで築いてこられた指導の成果を踏まえて、現在の生徒指導の取り組みを述べておきたいと思う。

一つは、規則を守り、基本的な生活習慣を確立することである。高校生として、社会人としても一番大切な基本的な生活習慣を確立するという今までの流れを指導の重点においている。毎日の授業を大切に、目標をもって意欲的に取り組む生徒が多くいるなかで、集団生活になじめない、規則が守れない生徒、また言葉遣いや服装の乱れが目につく生徒も少なくない。そのような生徒に対して、登校時に、校門で礼儀・遅刻・服装等の指導を行ない、定期考査毎に遅刻・欠席調査をして、多い生徒には、授業への集中と真剣に学ばせる態度と学校生活における基本的なルールを身につけられるように家庭との連絡を密にして指導している。

二つには、交通安全教育の推進である。本校では、毎年5月に交通安全講習を実施して、人の生命の尊さを教えている。特に、保護者の理解と協力のもとに、「四ない運動」を徹底させるとともに、交通ルールを守り、正しい交通マナーを身につけさせることはもとより、登下校時における自転車通学を含めた事故防止と地域の人々に迷惑をかけることのないように注意を促している。

三つには、教育相談室との連携である。最近、各学校において、中途退学や不登校の生徒が増加し、大きな社会問題となっている。その原因は家庭・友人・学校とさまざまであると思われ

る。本校では、創立後の早い時期に教育相談室が開設され、学校不適応・不登校生徒の問題に取り組んできた。これからは、生徒指導と教育相談室との連携・協力を図ることがますます重要になってくると思う。そして、すべての教師が、「いつでも、どこでも、だれとでも」教育相談ができるように問題行動や生徒理解に努め、今後とも、生徒のどんな小さな心の悩みにも耳を傾け、受け止められる相談室として、その機能を高め充実させていきたいと思う。

生徒達が、家庭と学校における毎日の基本的な生活習慣をきちんと身につけ、自分の目標に向かって努力し、「藤井寺高校に学んで本当に良かった。」と心から言えるように学習環境を整えていきたいと思う。

■男子冬の制服について

服装は生徒の教養品位の現れである質素清潔端正をむねとし華美虚飾に流れ、又は粗野不潔にならぬように心がける。生徒は通学時および学校生活において、本校所定のを改造してはならない。……の基本原則のもとに何度も何度も指導をくり返して、更に年何回かの検査日を指定して行ったが、特に男子の服装の乱れは、余り改善されなかった。原因と思われるもの、又問題点を上げると、男子の冬服に関して黒地の詰えりは守られているが、最近に変型した制服の市販業者が多く、制服の型もばらばらで、詰の低い小さいものや、そでがラップになっていたり、前がチャック付とか、ズボンの細くしたもの、ニッカズボン型、ベルトの上の長いものもあり、統一がむづかしく指導が困難になってきている。

服の値段も高いので違反者に服を買い換えさせるとか、保護者負担を考える決定的な具体的な手段がなく、価格も上下の差が大きく、生徒は高い方の変造服を要求する為に、父兄負担も多くなってきている。我々教師間の合意もむづかしく、価値観も一定でなくなり、指導基準にあいまいとなり指導しにくくなってきている。近年家庭の経済状況が安定してきたためか、合格の祝いもかね、又

子供の言いなりで購入するため、き地の上質上等なデザイン裏地のこったもので、平均的な品物より、3000円～7000円程度は高いものを競うように買っているようである。女子は制服があるのに男子は自由であるとか、服装に関しては平等の精神はくずれている。そこで男子の制服の制定を推進することになり、販売業者を女子と同様指定する。変造変型とか価格差、制服の乱れを少しでも防止したい。今迄よりも改まった気持ちで制服の色も女子と同じ紺無地詰えり型にする。男女同色することにより、今迄以上に藤高生であることの自覚と独自性を十分に生かすのに役立つように苦心する。

詰えりの左上に付けさせていた校章バッヂをプレスして取りはずせないようにする。従来の制服の詰の窮屈感を解消し、授業中もリラックスして勉強が出来るよう、えりのカラーをラウンドカラーにする。スクールユニホームで藤高集団としての統一性も出来き、又校外でも見分けがつきやすく他校生との区別もはっきりする。以上の趣旨、目的を、いろんな場で説明し、説得し、生徒指導部でも原案に就いて何度も討議を重ね、更に職員会議で何回も審議した上で1988年（昭和63年）10月成案を得たもので、それはそれなりに多少の努力はしたものです。生徒の反論も無く1989年（平成元年）4月、新入生から、男子の制服が新しく変わった。



ラウンドカラー

■教育相談

相談室は、主として不適応症状を示す生徒を中心に、その対応指導のあり方を模索しながら活動してきた。生徒のおかれた事情の複雑さを理解することを出発点とし、同時にこれを目標にして、ケースワーク的な情報の収集、教員相互の協力推進、そして、度々の事例会議等を重ねてきた。

カウンセリングを含む、生徒・保護者からの相談への対応、専門機関・書籍の紹介、不適応生徒との面接その他、実態調査や落し物の紹介、取り扱い等が活動の主なものである。

1978年（昭和53年）

- 生指部に相談係を設置。係員6名。
- 生徒も落ち着き、生徒指導にも工夫が必要であるという主旨。
- 1年生へPAI実施。教科準備室等を相談室にあてる。
- 相談室案内のプリントを生徒へ配布。
- 自主来談を促す一方、不登校生徒の相談、懲戒生徒への事後指導に当たる。

1979年度（昭和54年）

- 兼任を避ける方向で係員4名。

1980年度（昭和55年）

- 不適応、不登校生徒が増えてきたため、前年度の校内実態調査実施。

1981年度（昭和56年）

- 独立した「相談室」を設置。
生徒指導部（6名）、保健部（2名）、同和推進委員会（1名）、進路指導部（1名）とする。
室長は室員の互選。

- YG検査（全学年）・YG相談の実施。

1982年度（昭和57年）

- YG検査・YG相談の実施（1・3年）。

1983年度（昭和58年）

- 継続的に「悩みの調査」実施。
- 進学年に向けて教育相談上配慮の必要な生徒についての情報交換会。

1984年度（昭和59年）

- 「相談室だより」（生徒向け）、「相談室から」

(職員向け)発行。

1985年度(昭和60年)

- 相談室員を、生徒指導部(3名)、学年(各1名)、保健部(2名)、進路指導部(1名)、同和推進委員会(1名)の10名とする。

1986年度(昭和61年)

- YG性格検査を希望者実施とする。
- 生徒資料として作文を収集
「私のおいたち」(1年)、「藤高と私」(2年)
「今一番考えていること」(3年)

1988年度(昭和63年)

- 中学校へ、新入生に関する情報提供の依頼を文書で統一する。

1991年度(平成3年)

- 相談室員を、生徒指導部(3名)、学年(各1名)、保健部(1名)、養護教諭(1名)、の8名とする。

●●〈職員研修〉

1980年度 保健部、生徒指導部、同和推進委員会主催。

「不適応生徒への指導のあり方をどうするか」「精神医学講演」

湖南病院長 木田孝太郎氏

1982年度 「生徒事例の報告と研究」

1984年度 「事例研究発表」

1985年度 「視覚障害者への理解と配慮」

生野ろう学校 田畑 宏 氏

1987年度 大阪府青少年対策課 雲井 弘幸氏

1988年度 上野芝病院 太田 基治氏

1989年度 「事例研究発表」

1990年度 中宮病院 和田 慶治氏

1991年度 太田神経内科クリニック 太田 基治氏

1992年度 分科会形式。「不登校について」「家庭訪問」「希望しないで入学して生徒」「登校拒否症・うつ病・分裂症等と進級判定について」

(1982年度より相談室主催)

〔生徒会部〕

元来、生徒指導部の中の生徒会という位置づけで1991年(平成3年)まで歩んできたが、1992年(平成4年)より下記の理由で独立した。

生徒指導と生徒会とは、質の違う仕事を多く抱えており、分掌として責任を持った将来的な展望・全体の中での位置付けを見通した視野を持った活動を行うことで生徒会活動や、部活動の充実を図る。

藤高フェスティバル体育の部・文化の部をはじめ生徒会運営による学校行事を円滑にするため執行部・生徒及び教員の協力のもとで高校生活を素晴らしいものにするため日々努力している。

■生徒会目的

生徒会員の自主的精神に基づいた相互協力により、学校生活を実り多いものにするを目的とする。

この目的達成のため次の活動を行う。

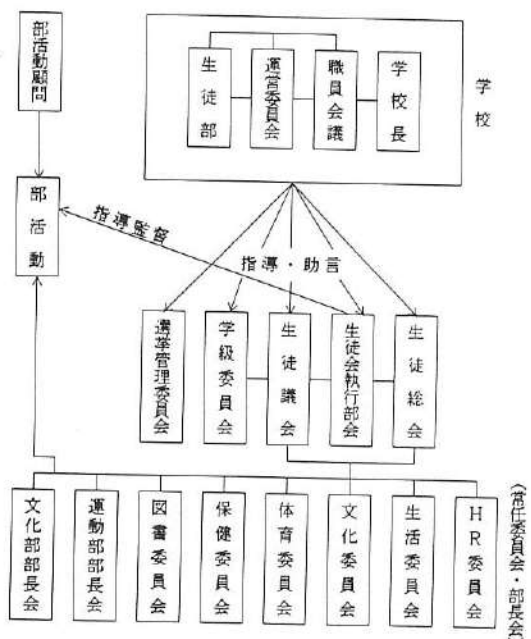
1. 文化・体育活動の振興、学校行事への協力
2. 学校生活の明朗化促進
3. 会員の福祉増進

(生徒会則第3条より)

◇生徒会の主な行事◇

- 新入生歓迎会 } 4月
- クラブデモ }
- 藤高フェスティバル { 体育の部(6月)
文化の部(9月)
- リーダー合宿(7月)
- 校内球技大会(11月)
- 文化部合同発表会(2月)
- 生徒会誌発行(2月)
- 生徒総会(年2回)
- 生徒議会(随時)
- 各役員会、各委員会(適宜)

● 生徒会組織 ●



第1回リーダー合宿 (92. 6. 13~14)

本校でも、近年生徒の自主性のなさ・リーダー不在が目立つようになり、生徒会部を中心に自主的なクラス集団作りと、そのためのリーダー育成を目的に、92年から津堂会館を利用してリーダー合宿が実施されるようになった。

〈スケジュール・第1日目〉

- ◇開会式 (15時)、オリエンテーション
- ◇室内ゲーム (集団作りのためのレクリエーションの練習、楽しみ方)
- ◇クラス現状分析 (集団の現状を認識し、リーダーとしての改善の方向、目標をさぐる)
- ◇グループ別討論 (問題意識をもってクラスを見つめ、その結果を寸劇にまとめる)
- ◇夕食 (18時)
- ◇ファイヤーストーム (グループで協力して行動、ファイヤーストームの運営、寸劇の上演)
- ◇天体観測 (希望者) 入浴
- ◇消灯 就寝 (22時)
- 〈第2日目〉
- ◇起床 (6時半) 清掃 ラジオ体操 朝食
- ◇全体討論 (3部構成でホームルームでの討議や

司会の仕方について学習 (文化祭のイメージを持つ)

- ◇昼食 (11時45分)
- ◇まとめ アンケート 閉会式 (14時)

第2回リーダー合宿は、前回の反省にたち、より一層内容を充実したものにし、合宿を通じて集団をリードする生徒が少しでも芽生え、クラスで活躍してくれることを期待している。

必修クラブ

開校前年度に登場した必修クラブの扱いは、校舎等完成途上の本校にとって難題であった。その後、幾多の変遷を経つつも必修クラブの目的達成に向かって前進しつつある。

1974年~75年 (昭和49年~50年)

部活動と一体化した形で実施。

1976年~79年 (昭和51年~54年)

部活動を中心に、必修クラブ独自のものを上乘せして実施。

1980年 (昭和55年)

学級単位で活動する講座ローテーション方式で実施。

1981年~ (昭和56年~)

過去の経験と反省の上にたち、活動可能な場所で内容を精選した形で、部活動を中心にした上乘せ方式で実施。

1987年度 (昭和62年) 必修クラブ

体育系	バドミントン 柔道 女子バレーボール ワンゲル 女子ソフトボール ゴルフ 硬式野球 男子バスケットボール サッカー ウェイト・トレーニング 硬式テニス ジョギング
文化系	箏曲 茶道 英文タイプ 手芸 切り絵 将棋 男子料理 共通一次ゼミナール 書道 ギターリコーダーアンサンブル パフォーマンス研究 ペルシャ語入門 机上旅行 朝鮮文化研究 地理歴史研究 映画製作 数学ゼミナール 漢文入門 凧製作 力のつく古典文法トレーニング 映画鑑賞 ネバーギブアップ数I 華道

〔総務部〕

主なPTA活動の歩み

1. 組織作り

1974年 PTA結成・発足

1975年～1982年 (余暇活動を促進する会発足
→部活動の促進のため)

2. 環境整備

1974年 通学路(農道)整備に関する件
(3年継続)1975年 高鷺駅本校専用改札口開設要望の件
松原市若林区焼却炉建設の件

1978年 藤井寺駅前本校専用駐輪場設置の件

1980年～1982年

西名阪高速道路下の道路舗装の件

1980年～1985年

津堂交差点ミラー・標識設置の件

1982年 通学路(運動場周辺)にカーブミラー
設置の件

1986年～1989年 本校周辺街路灯設置の件

1989年 テレフォンサービス開設

3. 文化活動

◇広報活動

1974年～「PTA名簿」発行

1975年～「PTA新聞「育友」(年2回)発行
PTA通信「PTAだより」
(年1回)発行

◇講演会

1976年 上寺久雄氏(大阪教育大学助教授)

1977年 野村哲也氏(社会事業短大教授)

1978年 三浦政雄氏(全国進路研究所顧問)

1981年 三木正美氏(浪速予備校校長)

1982年 中畔 肇氏(阪南大学常務理事、元府
教育長)

1983年 足立健次郎氏(城南女子短大教授)

1984年 服部祥子氏(大阪教育大学助教授)

1985年 二関隆美氏(甲南女子大学教授)

1986年 上寺久雄氏(兵庫教育大学学長)

1987年 市橋平三郎氏(本校第4代校長)

1988年 富永公一氏(元府立布施高校長)

1989年 清水正樹氏(本校第5代校長)

1990年 清水正樹氏(本校第5代校長)

1991年 小田勝美氏(新日本製鉄男子バレー
ボール部総務)

1992年 早川勝広氏(大阪教育大学教授)

◇研修会

1976年 奈良方面(薬師寺、唐招提寺等)

1979年 清滝方面

1981年 室生寺、伊賀上野組紐センター

1982年 竜野市方面(竜野城跡等)

1983年 京都、亀岡方面

(穴太寺、出雲神社等)

1984年 姫路方面(書写山等)

1985年 関西大学、アマタ金属工芸工場(京都)

1986年 赤目四十八滝、室生寺、長谷寺

1987年 京都方面(鞍馬寺等)

1988年 湯の山方面

(椿大神社、鈴松、御在所岳等)

1989年 保津川下り、嵐山方面

1990年 長寿生の郷、石山寺方面

1991年 宇治万福、平等院

1992年 神戸布引ハーブ園方面

◇PTA作品展(藤高フェス「文化の部」参加)

1974年 会員作品展、バザー

1975年 会員作品展

1976年～1977年 バザー

1978年～1984年 会員作品展

1985年～ 会員作品展、実演コーナー

◇テレフォンサービス

1989年～1990年

設置、吹き込み(企画委員会担当)

1991年～ 吹き込み(学校教職員)

4. 進路関係

1979年～1990年 模擬試験実施、監督

1991年～ 進路講演会

(本校進路部長 野口俊一)

5. 本校創立10周年記念事業

1983年 創立10周年記念式典、記念誌発行に協
力

年間の主なPTA事業（1992年度）

■1992年

- 4月 （入学式）実行委員会
「PTAだより」発行
新役員会 会計監査 新実行委員会
新旧実行委員会 〈学級委員選出〉
- 5月 PTA定例総会
3年PTA集会（大学説明）
府高校安全互助会 PTA協議会総会
3年PTA集会（短大説明）
〈生徒・PTA名簿発行〉〈専門委員決定〉
- 6月 藤高フェスティバル「体育の部」
第7ブロックPTA協議会総会
委員総会（学年・専門委員）芸能鑑賞
3年PTA集会（就職説明）
- 7月 PTA新聞「育友（30号）」発行
- 9月 文化委員会 実行委員会 PTA作品搬入
藤高フェスティバル「文化の部」
〈PTA作品展〉〈実演コーナー〉
- 10月 進路講演会 1年PTA集会
2年PTA集会（教育課程）
20周年記念実行委員会 実行委員会
PTA研修会
- 11月 PTA講演会（講師 早川勝広氏）

■1993年

- 1月 実行委員会
- 2月 20周年記念実行委員会
実行委員会 会長選出委員会
PTA新聞「育友（31号）」発行
卒業証書授与式
- 3月 会長選出委員会



同窓会 ●

- ◇名称 大阪府立藤井寺高等学校同窓会
◇発足 1977年（昭和52年）4月1日
◇会員数 9292名（1期～17期卒業生）

主な行事・事業経過

- 総会 年1回（但し、第4回より規約改正により幹事会に代える）
- 役員会、幹事会、会計監査、毎年開催
- 懇親会 1977年（S52年）～1982年（S57年）は1～6期生を対象
1983年（S58年）は7期生を対象
1984年（S59年）は8期生を対象
以上8月開催（本校食堂にて）
1985年（S60年）以降は中止
- 「同窓会報」
創刊号 1978年（昭和53年）発行
第2号 1979年（昭和54年）発行
第3号 1980年（昭和55年）発行
第4号 1983年（昭和60年）発行
第5号 1985年（昭和60年）発行
第6号 1990年（平成2年）発行
- 「全同窓会員名簿」
創刊号 1986年（昭和61年）発行
第2号 1991年（平成3年）発行
- 各期「同窓会員名簿」（卒業年度）
1期（1977年 昭和52年）
～17期（1993年 平成5年）
の各卒業年度の8月に発行
- 母校創立10周年記念事業（1983年 昭和58年）
記念植樹「藤棚」（食堂前）贈呈
教職員へ記念品「コーヒーカップ」贈呈
同窓会員の記念式典及び懇親会開催
- 母校創立20周年記念事業（1993年 平成5年）
記念事業資金贈呈（記念式典、記念品、文化事業、祝賀会等）
教職員へ記念品贈呈

〔同和推進委員会〕

創立10周年記念誌に記載されているように、1974年（昭和49年）創立時期に於けるきめ細かい教育実践が実を結び、生徒諸君の人権尊重に対する意識も高まり、よりよい高校生活を実践している。

具体的には、1年「意識調査」の実施により生徒の実態把握に努め、日々の新聞紙上に見られる“いじめ”問題を中心に“身近かな人権尊重”を考える。2年は在日外国人問題、同和地区問題を中心に、歴史的観点から、具体的な過去の事例をもとに、生徒の学習を進めている。又、3年では「就職差別・統一用紙の意義」を研修し、差別をしない、差別をさせない意識の高揚に努めている。

各年度始めに於いては、差別を許さない、人権尊重の態度・精神を持った生徒の育成を中心にLHRを進め、学年半ばの2学期に於いては、生徒の視聴覚を通じて、人間としての感性を高める教育を中心に、本年度は、一人芝居「身世打鈴」を1・2年生対象に開催し、在日朝鮮人問題を自らのこととして考え、実践していかなければならない意識を植えつけてもらえたようである。それを表わすように、我校の生徒が講演者・新屋英子氏に頼み込んで門下生として入れていただき、自分も在日外国人問題を追求していく決心をしている。又、3年生に於いては、人間の生きていく道について、ここ数年、牧口一二氏。身障者としての自らの人生を土台にした“人の道”の講演に感動し、氏のユーモアの中にも、真実あふれる言葉を胸に、今後の人生に大いに役立ててくれると信じている。

教職員研修では、講演・映画鑑賞・施設見学等、考查期間中に多方面にわたる研修を実施し、生徒指導のための実践研究を深めている。

〔交流委員会〕

本校交流活動の歩み

本校と大阪府立藤井寺養護学校高等部（以下、藤養と略記）は、1983年に互いの生徒による交流活動を教育活動として始め、本年度11年目を迎えています。

藤井寺養護学校は主に肢体不自由の児童生徒を教育する学校ですが、ここ数年は障害の重度化・重複化が進んでいます。高等部の生徒数は3学年で60数名で、小学部、中学部合わせても全校生徒数は150名以下の比較的小規模な養護学校です。

本校生徒にとって、藤養との交流は、障害を持つ人について学び、同世代の障害を持つ生徒と知り合って友達作りをしていく過程で障害者への偏見や差別意識を取り除き、「共に生きる」姿勢を作る貴重な学習体験です。藤養生にとっても、高等部を卒業すると養護学校から実社会へと出ていかなければならないので、その前に見聞を広め、日頃の訓練などの成果を試す貴重な機会です。交流は互いの生徒にとって価値ある教育活動であるとの認識に立って、両校が交流を推進するための委員会を組織しています。

- | | |
|-------|--------------------------------------------------|
| 1983年 | 交流の開始。障害者問題のHRと「文化祭交流」。 |
| 1984年 | 現在の交流活動の原形ができる。 |
| 1985年 | ボランティアサークルが交流活動の中心になっていく。 |
| 1986年 | 藤養の授業に参加する「授業交流」始まる。 |
| 1987年 | 「交流新聞」発行開始。1年6クラスの「交流HR」に藤養職員が参加。「カラオケ交流」始まる。 |
| 1988年 | 1年全クラスの「交流HR」に藤養職員が参加。ボランティアサークルが部に昇格。 |
| 1989年 | 本校文化祭と藤養体育祭が重なり交流できず。次年度より、年間行事予定の段階で調整を行うようになる。 |

1990年 「藤高文化祭交流」と「藤養体育祭交流」が復活。
 1991年 文部省より「平成3・4年度奉仕等体験学習研究指定校」に指定。中間報告書提出。
 1992年 同上。研究報告書提出。

■本年度の予定■

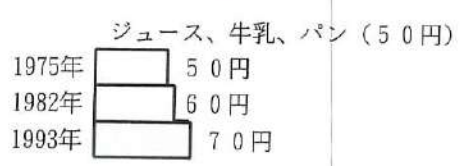
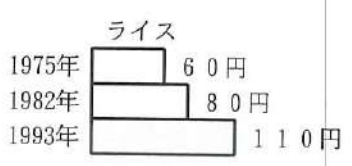
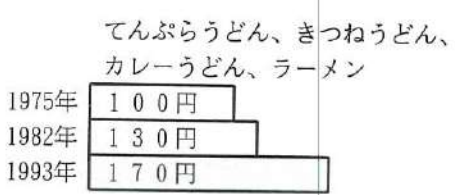
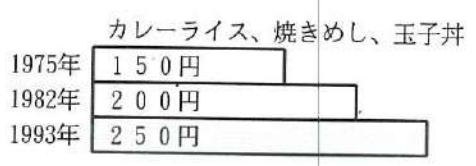
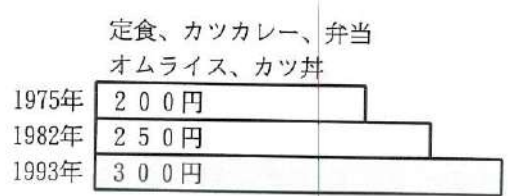
- 5月24日(月) 職員研修「藤養見学会」
 - 5月27日(木) 1年交流HR
 - 6月11日(金) 藤高フェス体育交流
 - 7月14日(水) 授業交流1日目
 - 7月15日(木) 授業交流2日目
 - 7月19日(月) 音楽交流
 - 7月22日(木) 宿泊交流1日目
 - 7月23日(金) 宿泊交流2日目
 - 9月25日(土) 藤高フェス文化交流
 - 10月3日(日) 藤養体育大会交流
 - 12月中旬 藤養カラオケ大会交流
 - 2月4日(金) 藤養文化祭交流展示1日目
 - 2月5日(土) 藤養文化祭交流展示2日目
 - 2月6日(日) 藤養文化祭交流展示3日目
- 他に生徒会執行部の交流が随時。式典に祝電の交換なども行われている。(交流委員会)



〔食堂委員会〕

食堂委員会は、職員・生徒会・PTAの代表によって構成されている。業者との値段交渉や利用者側の要望等について話し合いを重ねた。味・量・値段は今のところ生徒には好評である。

■食堂献立値段■



部活動の記録と状況

部活動の記録

〈運動系〉IH⇒高等学校選手権大会

総体⇒高等学校総合体育大会

(団体は地区大会ベスト4以上)

(個人は府大会3位以上を掲載)

○柔道部

- 1978年度 大阪IH 団体3位 近畿大会出場
新人戦南地区大会 団体3位
- 1979年度 大阪IH 団体ベスト8
新人戦南地区大会 団体3位
- 1981年度 大阪IH南地区予選ベスト8
大阪IH
(女子:52kg以下)3位(波多野)
(女子:48kg以下)3位(木寺)
新人戦南地区大会 団体3位
大阪IH 軽重量級 3位(小松原)
- 1982年度 大阪IH南地区予選 団体2位
大阪府下女子選手権
(48kg以下)3位(小松)
(52kg以下)3位(波多野)
(60kg以下)2位(高橋)
大阪府下新人大会 団体ベスト8
1年の部ベスト8
- 1983年度 大阪IH南地区大会 団体3位
- 1984年度 新人戦南地区予選 団体3位
全国大会南地区予選 団体3位
中央大会 団体3位
南大阪柔道大会 段外 団体 準優勝
有段 団体 優勝
- 1986年度 南大阪柔道大会 団体 準優勝
- 1987年度 南大阪柔道大会 団体 3位
- 1990年度 南大阪柔道大会 段外 団体 3位
- 1991年度 大阪府下女子選手権
(52kg以下)3位(黒岡)
近畿大会出場ベスト8(黒岡)
- 1992年度 南大阪柔道大会 団体 準優勝

○剣道部

- 1981年度 大阪高校剣道新人大会 男子団体 8位

- 総体大阪府予選 女子団体 8位
- 1982年度 総体大阪府予選 男子団体 16位
第7学区公立高校剣道練成大会
(以下「第7学区大会」と略す)
男子団体 3位、女子団体 2位
- 1983年度 第7学区大会 女子団体 3位
- 1991年度 第7学区大会 団体戦 3位
- 1992年度 第7学区大会 団体戦 3位

○陸上競技部

- 1974年度 大阪総体 女子400mリレー 3位
近畿総体 女子400mリレー 5位
- 1975年度 大阪総体 女子400mリレー 1位
男子200m 1位(田中)
近畿総体 女子400mリレー出場
男子400m 3位(田中)
- 1976年度 大阪IH 女子槍投6位(青山)
近畿IH 女子槍投出場(青山)
- 1977年度 大阪IH 男子400m 6位(田中)
近畿IH 男子400m 出場(田中)
- 1980年度 大阪IH 女子400m 5位(加藤)
女子800m 6位(加藤)
近畿IH 女子400m、800m 出場(加藤)
- 1982年度 大阪総体 女子走高跳 3位(神崎)
近畿総体 女子走高跳 出場(神崎)
- 1984年度 大阪IH 女子走高跳 8位(神崎)
男子円盤投 3位(谷口)
近畿IH 男子円盤投 6位(谷口)
全国IH 男子円盤投 出場(谷口)
大阪総体 400mリレー 5位



- 1985年度 大阪IH 男子走高跳 4位(岩熊)
大阪総体 男子800m 5位(小柴)

男子400mリレー 4位(森井)

男子走高跳 3位(森井)

- 1987年度 大阪IH 男子400m 3位(高田)
 近畿IH 男子400m、400mリレー 出場
 大阪総体 男子100m 優勝(松下)
 近畿総体 男子100m 出場(松下)
- 1988年度 大阪IH 男子400m 6位(榊山)
 近畿IH 男子400m 出場(榊山)
- 1992年度 大阪総体 女子400m 8位(岡田)

○硬式野球部

- 1983年度 春季近畿大会大阪府予選ベスト8



○男子硬式テニス部

- 1982年度 夏季大会ブロック優勝(安村)
 1984年度 大阪総体地区予選ベスト4
 1986年度 大阪総体地区予選ベスト4
 1988年度 大阪総体地区予選ベスト4

○女子硬式テニス部

- 1984年度 春季大会団体ブロック準優勝
 ダブルス準優勝
 総体ブロックダブルス準優勝
 新人戦団体ブロック準優勝
- 1985年度 春季大会シングルのブロック優勝
 総体ブロックダブルス準優勝
 新人戦団体ブロック準優勝
- 1987年度 春季大会シングル本戦出場
 総体ダブルス本戦ベスト32
 新人戦団体 本戦出場
- 1991年度 春季大会シングル予選準優勝
 新人戦団体 予選準優勝
 南河内大会決勝リーグ 優勝
- 1992年度 春季大会ダブルス本戦出場
 総体シングル 予選準優勝
 新人戦団体 予選準優勝

○男子軟式テニス部

- 1977年度 大阪総体中央大会出場
 1979年度 大阪高校春季大会中央大会出場
 1981年度 大阪総体ブロック 4位、府ベスト16
 1982年度 大阪高校春季大会 団体ブロック 2位
 大阪総体中央大会出場
- 1988年度 大阪総体中央大会出場
- 1989年度 大阪IH ブロック 3位
- 1991年度 大阪IH ブロック団体 3位
 大阪総体中央大会ベスト8
- 1992年度 近畿選抜インドア大会出場
 大阪IH 団体戦ブロック 2位
 新人団体戦ブロック優勝

○女子軟式テニス部

- 1979年度 大阪高校春季大会 団体ブロック 2位
 1982年度 大阪高校春季大会 団体府下ベスト16
 1991年度 大阪公立高校大会地区ベスト8
 大阪総体団体戦ブロック 3位
 大阪秋季ブロック大会 準優勝
- 1992年度 大阪IH団体戦ブロック 3位
 大阪公立高校大会地区ベスト4
 大阪秋季ブロック大会
 優勝、ベスト4、ベスト8 各1

○男子バレーボール部

- 1980年度 春季大会3部 優勝(2部へ昇格)
 1981年度 春季大会府下ベスト16

○女子バレーボール部

- 1979年度 府立高校大会ベスト16
 選抜大阪府予選ベスト16
- 1982年度 選抜大阪予選ベスト16
- 1984年度 春季大会 2部 3位
 新人大会 2部 優勝(1部へ)
- 1986年度 春季大会 1部 2位
 新人大会 1部 3位
- 1988年度 近畿大会出場
 新人大会 1部 2位
- 1990年度 春季大会 1部 3位
- 1991年度 春季大会 1部 3位

○男子バスケットボール部

- 1977年度 新人戦中央大会出場

- 1978年度 新人戦中央大会出場
 1979年度 大阪総体府下ベスト16
 1984年度 大阪総体地区ベスト4
 1992年度 中央大会出場ベスト8

○女子バスケットボール部

- 1978年度 新人戦中央大会出場
 1979年度 新人戦中央大会出場
 1980年度 新人戦中央大会出場
 1981年度 大阪IH 府下ベスト16
 新人戦中央大会出場
 1983年度 近畿大会大阪予選ベスト16
 1992年度 中央大会ベスト8

○バドミントン部

- 1978年度 大阪IH 優勝(山田)

○サッカー部

- 1980年度 大阪冬季大会ベスト16
 1981年度 大阪冬季大会ベスト16
 1982年度 大阪冬季大会ベスト8
 1983年度 全国総体大阪予選ベスト16
 1985年度 大阪冬季大会ベスト8

○ラグビー部

- 1982年度 近畿大会大阪府予選Cブロックベスト4
 1992年度 近畿大会大阪府予選Bブロックベスト4

○女子ハンドボール部

- 1985年度 大阪総体ブロックベスト8

○水泳部

- 1976年度 大阪IH、近畿IH、全国IH、団体リレーに出場(高田)
 1978年度 大阪IH、近畿IH、全国IH、に出場(玉野)
 1979年度 近畿IH 1400mメドレーリレー、400mリレーに出場
 1980年度 近畿IH 100m自由型出場(金谷)
 1982年度 新人戦女子総合6位
 南河内地区大会総合優勝

○体操部

- 1976年度 春季大会 個人総合 5位(藤井)
 大阪IH 個人総合 3位(藤井)
 種目別床 優勝(藤井)
 種目別平均台 3位(藤井)

- 1977年度 大阪総体 男子団体総合 4位
 1・2年生大会新人大会
 種目別吊輪 3位(岡田)
 種目弁跳馬 2位(岡田)
 1978年度 大阪IH 兼 全国近畿予選
 男子団体総合 3位
 個人総合 6位(岡田)
 近畿高校選手権大会出場(岡田)
 全国選手権大会出場(岡田)
 大阪総体 男子団体総合 2位
 個人総合 4位(岡田)
 1990年度 堺体操大会 総合 2位(枇杷)
 1991年度 堺体操大会 団体総合 3位
 1992年度 堺体操大会 団体総合 3位

〈文化部〉

○吹奏楽部

- 1978年度～ 高鷲学園他で、積極的に校外演奏を行なっている。
 1981年度～ 近畿高校総合文化祭に出場
 1984年度～1987年度 吹奏楽コンクール銀賞
 1987年度～ 定期演奏会を行なう

○美術部

- 1976年度～ 全大阪高校美術工芸展出品
 毎年奨励賞を受ける
 1978年度～ 第7学区高校美術工芸展出品
 毎年奨励賞・研究会賞を受ける
 1981年度 大阪府高校芸術文化祭出品(千井)
 1982年度 近畿高校総合文化祭出品(口石)

○将棋部(現在廃部)

- 1982年度 全国高校将棋選手権大阪府大会
 個人戦準優勝(田中)

○演劇部

- 1979年度 大阪高校演劇コンクールH地区大会
 優秀賞「16才の終りに」

○ボランティア部

- 1992年度 青少年善行表彰

○書道同好会

- 1992年度 西日本学書展 読売新聞社賞
 大阪市長賞・金賞

部活動の状況

— 運動部 —

● 〈柔道部〉

学校創立時の2人から現在に至り、過去20年間において各大会で数々の功績を残しています。そして、多くの先輩達が柔道部を卒業していきました。今後も私達が一丸となり練習に励みたいと思う。

● 〈剣道部〉

藤井寺高校剣道部は、第1期生から続く伝統のあるクラブです。年に一度のOB会にはたくさんの先輩の方達が来られる由緒正しいクラブです。当然のように礼儀を中心にしたクラブ活動を楽しんでいます。

● 〈卓球部〉

公式試合に向けて、基本練習から実戦まで色々と技術向上のため練習内容を工夫しています。また例年、夏期合宿も行っています。

● 〈陸上競技部〉

春から夏にかけて多数の大会があり、冬場は体力トレーニングを中心に練習しています。部員1人1人が目標を持ち上位入賞を目指しています。現在2年13名1年18名で活動しています。

● 〈野球部〉

日々の厳しい練習に耐え、良い成績を残せるよう顧問の先生及びOBの指導のもと、部員全員大いに頑張っています。目標は、公式戦ベスト8に残れるよう、今後も部の伝統を引きつぎ頑張ります。

● 〈ワンダーフォーゲル部〉

ワンダーフォーゲル部の活動は、月曜日から金曜日までの放課後で、土・日は原則としてありませんが、毎月1回休日を利用して山行をしています。さらに、年3回の合宿があり、去年は岩湧山、白馬岳、大峰山などに登りました。

● 〈男子硬式テニス部〉

公式試合で“本戦出場”を目標に頑張っています。そのため、基礎体力・技術をつけることに重点を置き、実践的練習もたくさん行っていま

す。1期から続く伝統ある部をより発展させていきたいと思っています。

● 〈女子硬式テニス部〉

ここ数年続けて20名近い入部者を迎え活気にあふれた活動が行なわれています。全んどの期で本戦出場者が出、団体でも本戦で有名校と互格の試合をしたり府下ベスト16と32が同時に出た期もあり部員一同先輩に追いつけ追いこせで頑張っています。

● 〈男子軟式テニス部〉

月～土までラリー2本打ちボレー等試合形式練習で活動しています。また、土曜日には練習試合を組んでいます。

● 〈女子軟式テニス部〉

年間数多くの練習試合を消化しています。特に今年の夏経験した全国ベスト4の琴ヶ丘高校との練習に全国への壁と夢を与えてくれました。部員一同近畿大会出場を合言葉に頑張っています。行くぞ！中央大会！！

めざせ近畿・全国大会！！ 声援をお願いします。

● 〈男子バレーボール部〉

体育館の使用できる日が週に4回と少ないですが、主にスパイク練習を中心に練習しています。部員仲が良く楽しく活動しています。現在2部ですが、上位をめざしています。



● 〈女子バレーボール部〉

私達女子バレーボール部は、毎日の練習を試合に向けてみんなで一生懸命取り組んでいます。練習は厳しいですが楽しく、毎日がんばって活動をしています。

● 〈男子バスケット部〉

練習雰囲気良く、部員全員と顧問の先生を中心に勝つ気で練習しています。去年は地区ベスト

8に入り中央大会へ出場でき、今その勢いによって頑張っています。

● 〈女子バスケット部〉

チーム一致団結して大会で上位の成績を修めるため、日夜頑張っています。練習は基本から応用まで幅広く内容の濃いものです。ユニフォームも新しくなったので、心新たにかんばります。

● 〈バドミントン部〉

男女混合の少人数の部ですが、団体戦・個人戦にむけて練習に励んでいます。主に実戦形式と外ではトレーニングといった内容で活動しています。

● 〈サッカー部〉

毎年3月の合宿と、4月の公式戦を前にとくに力を入れ高校での最後の試合に向けて頑張っています。一日一日少しでも成長のみられる練習を目ざしています。

● 〈ラグビー部〉

先輩達が築いてきた伝統を守り、強くなり全国大会出場をめざして頑張っていきます。去年は春季大会でいい成績を残したので、今はチームの実力は上向きです。他の部のOBより多くきて下さるので、練習も充実して実力UPができています。これからも頑張る。

● 〈男子ハンドボール部〉

休日以外全て活動しており、土曜日などに練習試合を組んでいます。基礎練習から実戦へと練習をしている。紅白試合も大切にしながら、これからも記録に残るような成績を残す様に頑張ります。

● 〈女子ハンドボール部〉

パス・キャッチ・シュートという基礎練習を欠かさず、試合形式も含めて色々練習内容を工夫しています。公式戦で勝ち残れるように頑張りたいと思います。



● 〈ソフトボール部〉

楽しくかつきびしく練習しています。キャッチボール・バッティング守備練習が主ですが試合前ではマシンを使いバッティングの強化を行っています。雨天では、基礎トレーニングで体力をつけ冬場は特に持久力をつけています。目標は1試合を大切にし負けても悔を残さない試合にすることです。

● 〈水泳部〉

シーズン中は毎日コース別メニューをたてて泳ぎます。シーズンオフにはランニングやウェイトトレーニングをして夏に向けて体力作りをします。そして、月に1回室内プールを借りて自分の泳ぎをチェックします。



● 〈体操競技部〉

少人数ながら1人1人それぞれの目標をしっかりと定め練習に励んでいます。活動は、月～土体育館を交互に使用し頑張っています。

—文化部—

● 〈演劇部〉

劇づくり、役づくりに力をそそいでいます。部員は、皆明るい人ばかりです。劇は、本格的で台本も私達で製作しています。文化祭などでも皆の注目の的です。

● 〈吹奏楽部〉

部員は少ないが、力を合わせて頑張っています。体育祭・文化祭また他の学校行事に参加、藤井寺養護学校や高鷺学園・保育所などでの校外演奏も行なっています。

● 〈美術部〉

私達は、全大阪高校美術工芸展・及び第7学区

高校美術工芸展等、年2回作品を出展しています。また第7学区の高校美術部とも交流会をもったり、藤養の文化祭にも参加しています。

● 〈フォークソング部〉

ギターを片手に歌が歌えることをマスター出来ればと頑張っています。文化祭にもみんなでバンドをやって、いろんなジャンルの音楽を楽しんでいます。みんな音楽好きな子ばかりなので、積極的に音楽に触れています。

● 〈ESS部〉

昭和58年AETのクルックス先生と共にESSサークルとして発足。以後同好会として活動。平成2年から3年かけ、アリソン先生をAETとして迎え活動。現在AETのシェリー先生の指導の下に部員15名で活動中。フリートークやクイズ大会、文化祭で英語劇を演じるなど英語を楽しんでいます。

● 〈地歴部〉

史跡めぐりや興味のある事について調べたりしています。特に、藤井寺という土地は古墳などが多くある町、歴史の古い地です。そんな遺跡をめぐっています。

● 〈漫画アニメ研究部〉

約10年間、漫画研究部とアニメ研究同好会という別組織でしたが、本年度より合併し現在部員数26名の大所帯の部です。オリジナル中心の漫研とパロディ中心のアニ研の主だった活動は、年数回の部誌発行・イラストやセル画の展示・他に漫研は学校行事のパンフ・プログラムのイラストやカット製作などがあります。今年から心機一転、頑張っ活動の場を広げようと計画しています。

● 〈放送部〉

私達放送部では、月曜日から金曜日まで活動しています。昼休みには、リクエストによりテープをかけ、放課後には下校放送などを流しています。また、集会等においては、機材のセッティングを行ない頑張っています。

● 〈茶道部〉

現在部員数21名、活動日は月と木週2回で木に

はお茶の先生にも来ていただいています。新入生歓迎会、文化祭などの校内茶会、自分たちの手でおまんじゅう作りに挑戦、また、校外でのお茶会にも出席する等、活発に意欲的に活動しています。

● 〈現代音楽研究部〉

フェス文化でのLiveや文化部合同発表会を目指して、毎日放課後全バンドで頑張っています。トレーニングメニューも入れて充実した活動を続けています。OBにはプロとして活躍する人も多く、私達も目標を持って、少しでもレパトリーを増やすよう努力しています。

● 〈箏曲部〉

現在部員数は9人です。文化祭、新入生歓迎会、藤井寺養護学校の文化祭などに出演し、「さくらさくら」「まつ虫」「登山電車」「花かげ変奏曲」などを弾いてきました。これからも精一杯頑張っていきたいです。

● 〈ボランティア部〉

藤養との交流＝文化祭・体育祭に相互に参加。また合同合宿もしています。高鷲学園へ月に1～2回土曜日に訪問し、ともに遊び、部員全員が楽しく活動しています。

● 〈書道サークル〉

少数ながらも一生懸命活動している書道サークルの一年間の活動内容は、主に文化祭や大阪市立美術館にて開催される「高校書道展」への出品です。出来上がった作品は時間をかけたただけあっても満足感があります。

● 〈マイコン同好会〉

いま、部員は8人。学校にあるパソコンは古過ぎて使っていませんが、部員全員がパソコンを持っているので、それぞれが情報交換をしながら文化祭に向けて活動しています。今年はゲーム以外のこともやって行きます。

● 〈コーラスサークル〉

18期生の入学と同時にできた歴史の浅いものですが、個性を生かした練習を大切に、金丸先生を中心に頑張っています。

資料

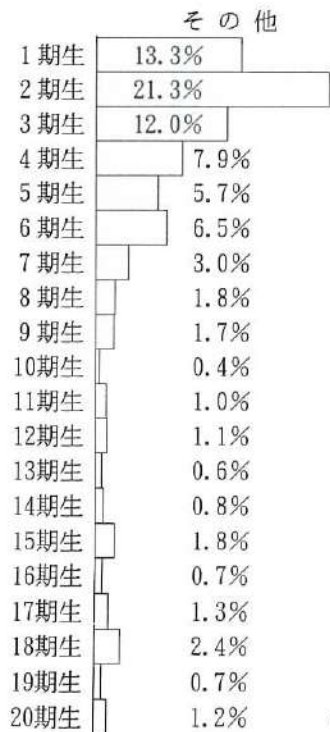
【入学者状況】

	定員	クラス 定員	クラス数	志願者			合格者			合格率		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計
1974年度(S49)	540名	45人	12クラス	301名	251名	552名	295名	245名	540名	98.0%	97.5%	97.8%
1975年度(S50)	540名	45人	12クラス	358名	311名	669名	292名	248名	540名	81.6%	79.7%	80.7%
1976年度(S51)	540名	45人	12クラス	359名	329名	688名	275名	265名	540名	76.6%	80.5%	78.5%
1977年度(S52)	552名	46人	12クラス	297名	315名	616名	276名	276名	552名	92.9%	86.5%	89.6%
1978年度(S53)	564名	47人	12クラス	267名	309名	576名	267名	297名	564名	100%	96.1%	97.9%
1979年度(S54)	564名	47人	12クラス	327名	346名	673名	276名	288名	564名	84.4%	83.2%	83.8%
1980年度(S55)	564名	47人	12クラス	320名	328名	648名	276名	288名	564名	86.8%	87.8%	87.0%
1981年度(S56)	564名	47人	12クラス	335名	348名	683名	276名	288名	564名	82.4%	82.8%	82.6%
1982年度(S57)	517名	47人	11クラス	266名	302名	568名	248名	269名	517名	93.2%	89.1%	91.0%
1983年度(S58)	564名	47人	12クラス	310名	355名	665名	276名	288名	564名	89.0%	81.1%	84.8%
1984年度(S59)	564名	47人	12クラス	343名	343名	686名	282名	282名	564名	82.2%	82.2%	82.2%
1985年度(S60)	564名	47人	12クラス	323名	322名	645名	288名	276名	564名	89.2%	85.7%	87.4%
1986年度(S61)	576名	48人	12クラス	327名	304名	631名	288名	288名	576名	88.1%	94.7%	91.3%
1987年度(S62)	576名	48人	12クラス	304名	283名	587名	294名	282名	576名	96.7%	99.6%	98.1%
1988年度(S63)	576名	48人	12クラス	354名	310名	664名	294名	282名	576名	83.1%	91.0%	86.7%
1989年度(H元)	576名	48人	12クラス	323名	342名	665名	282名	294名	576名	87.3%	86.0%	86.6%
1990年度(H2)	552名	46人	12クラス	328名	288名	616名	273名	279名	552名	83.2%	96.7%	89.6%
1991年度(H3)	540名	45人	12クラス	266名	299名	565名	250名	290名	540名	94.0%	97.0%	95.6%
1992年度(H4)	516名	43人	12クラス	246名	295名	541名	231名	285名	516名	93.9%	96.6%	95.4%
1993年度(H5)	480名	40人	12クラス	279名	295名	574名	233名	247名	480名	83.5%	83.7%	83.6%

【卒業生記念品一覧】

期	卒業年月	記念品名
1期生	1977年(S52)2月	大王松(1本)、桜(1本)、ベンチ(10脚)、絵画(1点)
2期生	1978年(S53)2月	楠(1本)、椎(4本)、花瓶(1点)、図書
3期生	1979年(S54)2月	唐しゅろ、ビデオテープ録音装置、図書
4期生	1980年(S55)2月	蘇鉄一式、8mm映写機、スライドプロジェクター、図書
5期生	1981年(S56)2月	フェニックス一式、パーソナルコンピュータ及びディスク、ベンチ(10脚)、図書
6期生	1982年(S57)2月	フェニックス一式、パーソナルコンピュータ、図書
7期生	1983年(S58)2月	フェニックス一式、食堂前テント一式、図書
8期生	1984年(S59)2月	藤棚(運動場)、黒板消クリーナー
9期生	1985年(S60)2月	スチールベンチ
10期生	1986年(S61)2月	楠、図書
11期生	1987年(S62)2月	パーソナルコンピュータ(PC9801一式)
12期生	1988年(S63)2月	パーソナルコンピュータ(PC9801一式)、樺(1本)
13期生	1989年(H元)2月	陳列戸棚、校内案内掲示板
14期生	1990年(H2)2月	カラーテント(3張)
15期生	1991年(H3)2月	和太鼓(2台)
16期生	1992年(H4)2月	花水木(3本)、ベンチ(3脚)ウォータークーラー(3台)
17期生	1993年(H5)2月	黒板消クリーナー、ウォータークーラー(4台)

【生徒居住地域の推移】



【歴代生徒会役員】

年 度	会 長	副 会 長	書 記		会 計	
1975年(S50)	今田義和	伊藤恵子	橋本幸一	梅田邦彦	京屋みゆき	今村明恵
1976年 (S51)	前	南雲鋭一	浦田隆弘	平谷 緑	山崎真琴	
	後	森田和也	田中光司	佐古哲也 吉岡由美	浜田敬信	山崎真琴
1977年 (S52)	前	上原なぎさ	柏崎好美	菅 美智子 吉岡由美	大村敏夫	千葉由美
	後	松島新一	山崎博一	田中幹男 川津未津子	森田幸一	
1978年 (S53)	前	林 一久	渡辺俊一	森 仁美 吉岡貴子	平野利恵	中村賀津雄
	後	中村賀津雄	浅田厚美	北村 敦 杉山 京	原園みゆき	神前富美
1979年 (S54)	前	林 一久	渡辺俊一	浜田牟登志 播磨弘一郎	北村 敦	門 良直
	後	京井安雄	坂口照幸	村上秀炫 天野悦郎	今村恵一	白尾玲子
1980年 (S55)	前	村上秀炫	藤森律子	河崎真理 城崎千恵美	鈴木恵子	溝渕由香
	後	安倍達也	村上秀炫	野口史雄 北野徳子	桐村光明	中川千恵美
1981年 (S56)	前	田中基一	野口史雄	加島勝也 中川千恵美	伊藤友紀子	加藤文佳
	後	加藤文佳	野元輝彦	水田美穂 帆足英子	松浦悦己	岡林麻里子
1982年 (S57)	前	松山晃一郎	水田美穂	西井春幸 吉田寛一	大原隆司	松原秀樹
	後	堀口知伸	寺西淳子	安倍靖之 上坂和宏	林田宏三	藤本佳孝
1983年 (S58)	前	西本義文	貴田広美	吉川昌也 鴻池洋子	家元美幸	浜口孝司
	後	西本義文	新熊一央	土谷直美 白樫政樹	長谷川裕明	西谷仁江
1984年 (S59)	50) 前	松宮茂則	安田伸子	山岡裕武 土谷直美	近江光男	西谷仁江
	後	谷 数則	脇田智明	桜木武志	藤井 毅	
1985年 (S60)	前	河合良広	山口裕司	物部哲也 佐々木亜紀子	影山康子	三浦佐代子
	後	河合明幸	中川善貴	滝本敦子 柳瀬真美	成木悦子	今井理加
1986年 (S61)	前	小林聖典	小西勝則	藤川悦子 山岸真紀子	大橋真美	山田佳奈子
	後	近藤弘幸	森田吉彦	吉本奈美子 神野千代美	仲川直美	笛吹恵子
1987年 (S62)	前	勝城久美子	伊藤友理	酒井妃路美	西橋真由実	稲垣亜矢子
	後	巽 和彦	樹 正和	庄司和可 明石勝希	西橋真由実	小西敦子
1988年 (S63)	50) 前	平澤 亮	水流美香子	辻井成美 狭間絹代	吉見 牧	和西信行
	後	山本秀徳	増井直樹	吉本里美 上田裕子	浅田孝秋	山岸由起子
1989年 (H元)	前	吉本里美	山岸由起子	奥之園三千寿	田村恵美	金中和代
	後	中田憲之	安達深幸	奥之園三千寿 高田敬子	西田佳子	手島康照
1990年 (H2)	前	永島竜貴	西田佳子	上平寿子 松山友子	高木一徳	園部美歩
	後	上平寿子	西田佳子	島津優子 岡田やす子	橋本扶美	松山友子
1991年 (H3)	前	島津優子	橋本扶美	前田 巧 小山妙子	井上太郎	戴田健太郎
	後	大川和美	井上太郎	小山妙子 山田高広	瀧井裕子	竹内奈津子
1992年 (H4)	前	山本竜夫	山田恵美子	久保田博子 中嶋緩子	篠本 学	花田匡由貴
	後	細木真弥子	保田剛志	松岡利恵 渡邊正樹	水本佳孝	細木真智子
1993年(H5)		坂本善信	島 恵梨	吉永直樹 篠本 学	中村奈央子	鬼束寿子

【歴代PTA役員】

年度	会長	副会長	書記	会計	会計監査	企画			1 2 3	年 年 年
						文化 進路	生活 環境 保	指導 健		
1974 (S49)	山本 義一	寺田 一之 竹網 逸子	本多 弘子 橋本九二男	木村 一雄 齊藤 博	赤松 政雄 北口 茂良 北野 満蔵	坂東 貞雄	吉岡 清一 永井 克己 川出 敬一			
1975 (S50)	山本 義一	寺田 一之 竹網 逸子 木村 一雄	本多 弘子 前田 昭吾	赤松 政雄 齊藤 博	永井 克己 坂東 貞夫 岡田 茂	北口 茂良 吉岡 忠彦 花川 忠彦	山本 高義 川出 光子 辻本 義一	土井スエ子 赤部アヤ子		
1976 (S51)	山本 義一	寺田 一之 木村 一雄 土井スエ子	竹網 逸子 寺本 勉	坂東 貞雄 齊藤 博	赤松 政雄 大松 隆蔵 永井 克己	北口 茂良 入江 久子 花川 忠彦	山本 満義 辻本 義一 多田 忠彦	内本八重子 辻 伸一 赤部アヤ子		
1977 (S52)	辻本 義一	大松 隆蔵 北口 茂良 土井スエ子	広嶋昭三郎 山内 政治	富永 和子 齊藤 博	西野 文子 内本八重子 藤林 慎造	西 忠治 三宅 弘子 辻 伸一	武林 健一 明瀬 厚子 西田 多田	榎本壽美子 真銅 貞代 金森多恵子		
1978 (S53)	広嶋昭三郎	北口 茂良 明瀬 敏治 内本八重子	三宅 弘子 小川 勇	森氏 清博 齊藤 博	藤林 慎造 給谷 悦子 安田 義徳	西 忠治 谷川 美穂 磯野 尚三	多田 満 西野 忠次 竹田津鎮江	原田千代子 榎本壽美子 真銅 貞代		
1979 (S54)	広嶋昭三郎	北口 茂良 明瀬 敏治 吉野 富子	辻本 肇 小川 勇	森氏 清博 齊藤 博	藤林 慎造 安田 隆蔵 大松 隆蔵	西 忠治 小池 勝次 磯野 尚三	多田 満 西野 忠次 居嶋 知子	谷本 彦一 原田千代子 榎本壽美子		
1980 (S55)	広嶋昭三郎	辻本 肇 山口 吉野 富子	居嶋 知子 小川 勇	高田 昌亮 井上 悦男	岡田 雄作 天見 晴一 高光 行子	谷口 彦一 山本恵美子 小池 勝次	多田 満 山本 忠彦 大江嘉代子	大橋 光子 阪本 義子 原田千代子		
1981 (S56)	辻本 肇	高田 昌亮 吉野 富子 安井 将浩	居嶋 知子 瀬戸 勝巳	杉本 邦男 井上 悦男	山口 弘 高光 行子 河崎 道子	安方 文治 山本恵美子 小池 勝次	吉岡 増夫 山本 忠彦 矢富 和子	三好 節子 大橋 光子 阪本 義子		
1982 (S57)	高田 昌亮	安井 将浩 杉本 邦男 大橋 光子	三好 節子 瀬戸 勝巳	笠原 純英 井上 悦男	山口 弘 田中 弘子 上野 弘美	喜多 啓介 樋口 弘子 元山 隆雄	中西 武夫 中村佐智子 西 純子	家元 清子 加世堂キミ子 大杉 静子		
1983 (S58)	杉本 邦男	笠原 純英 喜多 啓介 田中 弘子	中西千代子 瀬戸 勝巳	上野 弘美 井上 悦男	西 純子 福間 咲子 林 式子	山本 隆雄 福中 阿波島政子 元山 隆雄	馬々脇敏子 家元 清子 山本よし子	小谷八重子 家元 清子 加世堂キミ子		
1984 (S59)	笠原 純英	喜多 啓介 上野 弘子 田中 弘子	中西千代子 寺本 勉	三宅 起司 松井 茂	北川 嗣雄 小谷八重子 荻野加代子	山本 明 安井 イト 北村 栄子	池内 和夫 福中 咲子 福中 栄子	田倉 洋子 綾城加代子 小松 末子		
1985 (S60)	喜多 啓介	北川 嗣雄 三宅 起司 中西千代子	綾城加代子 寺本 勉	谷口 久雄 松井 茂	榎本 武 脇村 幸子 藤澤茂登美	山本 博子 住川 エミ 日比野 静	永井 亮 大山 豊子 荻野加代子	桜井千鶴子 加納 永子 福間 咲子		
	会長	副会長	書記	会計	会計監査	企画委員 文化委員 進路委員	企画副委員 文化副委員 進路副委員	1年委員 2年委員 3年委員	1年副委員 2年副委員 3年副委員	
1986 (S61)	谷口 久雄	北川 嗣雄 榎本 武 荻野加代子	山本 博子 寺本 勉	衣笠 一美 松井 茂	藤澤茂登美 正木 正義 榎山忠次郎	大山 豊子 日比野 静 大石 雅庸	山田 貫 福田 弘子 森清 悦信	中山 治雄 桜井千鶴子 加納 永子	田中恵美子 高倉 旭彦 三宅美代子	
1987 (S62)	榎本 武	衣笠 一美 大石 雅庸 山本 博子	大山 豊子 吉田 正博	桜井千鶴子 松井 茂	正木 正義 榎山忠次郎 田中恵美子	山田 貫 福田 弘子 森清 悦信	清家 照子 炭本 幸子 長尾 芳子	増田 瑞枝 中山 治雄 高倉 旭彦	鈴木フサ子 安藤リフ子 廣 彰子	
1988 (S63)	大石 雅庸	中山 治雄 榎山忠次郎 長尾 芳子	鈴木フサ子 寺本 勉	辻本 勇 松井 茂	森清 悦信 炭本 幸子 白樫 保雄	原尾毅一郎 北川 玉枝 笠井 洋子	井本 雅代 長瀬 幸子 今西 洋子	廣 彰子 増田 瑞枝 内山須美子	湯町 澄子 寺岡 靖子	
1989 (H元)	原尾毅一郎	森清 悦信 辻本 勇 鈴木フサ子	西本 嘉次 寺本 勉	増田 瑞穂 福田 貴穂	笠井 勝巳 炭本 幸子 岡本 勝三	長瀬 幸子 湯町 澄子 神田 豊澄	中林よし子 榎本 延子 矢野 平子	宮村喜志男 佐々木 環子 寺内 勝子	竹元喜代美 根岸 征子 井本 雅代子	
1990 (H1)	原尾毅一郎	西本 嘉次 宮村喜志男 湯町 澄子	佐々木 環 寺本 勉	中川 浩哉 福田 貴穂	神田 豊澄 津野 輝夫 根岸 征子	中林よし子 竹元喜代美 長谷川一郎	富永 武子 富永 武子 富永 武子	田中 勝子 田稼 明子 矢野 平子	福森美代子 山下 暎美子 白樫 喜美子	
1991 (H2)	宮村喜志男	神田 豊澄 湯町 澄子 福森美代子	津野 久江 木村 好孝	田稼 明子 福田 貴穂	松村 正勝 竹元喜代美 富永 武子	長谷川一郎 三宅 郁子 塚本 照子	飯田 文子 房谷紀美子 山下 幸美子	荻野 秀雄 山下 暎美子 山下 暎美子	中元 和子 野中留美子 土本 初恵	
1992 (H3)	田中 勝	長谷川一郎 福森美代子 池本 義雄	荻野 秀雄 木村 好孝	津野 久江 福田 貴穂	神尾 茂美 飯田 文子 松村 正勝	中元 和子 山下 幸美子 山谷 庄導	大竹由美子 安木 素子 細木紀美子	大崎 武史 塚本 照子 野中留美子	荒木爽千代 蔵元 芳子 辻井須美子	
1993 (H4)	松村 正勝	中元 和子 大崎 武史 中島 武夫	塚本 照子 木村 好孝	安木 素子 福田 貴穂	池本 義雄 大竹由美子 上善 嶺治	山谷 庄導 南野 紀子 細木紀美子	山下友紀子 上山 京子 西矢 正子	林 恵一 荒木爽千代 蔵元 芳子	新熊みどり 佐藤寿美子 山下 幸美子	

【歴代同窓会役員】

〈名誉会長〉は各期の学校長が兼ねる ○内の数字は各期を表す

年度	会長	副会長	書記	会計	会計監査	名誉顧問
1977 (52)	森 博史①	大西 寛征①	吉川 博之① 森川 雅夫①	大柳 正章①	中野 智子①	森田 敏夫 (初代校長) 山田 義一 (初代PTA会長)
1978 ~ 1979						森田 敏夫 山本義一 辻本 義一 (2代PTA会長) 広嶋昭三郎 (3代PTA会長)
1980 (55)						森田 敏夫 山本 義一 辻本 義一 広嶋昭三郎
1981 (56)	若林 和博②	北口 佳弘①	吉川 博之① 北浦智代子③	竹沢 照美②	中野 智子① 橋本 勝司④	森田 敏夫 辻本 肇 (4代PTA会長) 森 博史 (初代同窓会長)
1982 (57)						森田 敏夫 森 博史 高田 昌亮 (5代PTA会長)
1983 (58)	〈会長〉 若林 和博② 〈副会長〉 吉川 博之① 〈書記〉 北浦智代子③ 〈会計〉 竹沢 照美② 〈会計監査〉 橋本 勝司④ 〈庶務〉 大杉 茂之⑦ 内本 京子⑦	池田 勝彦② 田中 浩③ 稲垣 勝② 辻 浩一⑥ 谷口 彰紀⑦ 坂下 由紀⑦	鬼追 忍④ 曾我 友香⑥			森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 (3代校長) 杉本 邦男 (6代PTA会長)
1984 (59)					林田 辰巳⑦	森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 笠原 純英 (7代PTA会長)
1985 (60)	〈会長〉 若林 和博②					森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 喜多 啓介 (8代PTA会長)
1986 (61)	〈副会長〉 池田 勝彦② 〈書記〉 北浦智代子③ 〈会計〉 的場世志子② 〈理事〉 吉川 博之① 〈監事〉 林田 辰巳⑦ 池田 由美⑧	稲垣 勝② 谷口 彰紀⑦ 大杉 茂之⑦ 松本 (大柳) 正章① 松山晃一郎⑧ 樋口 文子⑨	田中 浩③ 坂下 由紀⑦ 内本 京子⑦ 松浦 昭彦① 杉本久美子⑧			森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 谷口 久雄 (9代PTA会長)
1987 (62)	〈理事〉 吉川 博之① 〈監事〉 林田 辰巳⑦ 池田 由美⑧	松本 (大柳) 正章① 松浦 昭彦①	松浦 昭彦①			森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 榎本 武 (10代PTA会長)
1988 (63)	〈運営委員〉 光岡 勉⑧ 〈常任幹事長〉 村治 強② 〈会計監査〉 橋本 勝司④	河村 憲⑨				森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 市橋平三郎 大石 雅庸 (11代PTA会長)
1989 (元)						森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 市橋平三郎 原尾毅一郎 (12代PTA会長)
1990 (2)						森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 市橋平三郎 原尾毅一郎 (13代PTA会長)
1991 (3)	〈会長〉 若林 和博② 〈副会長〉 池田 勝彦② 〈書記〉 山下 真弘④ 〈会計〉 西本 義之① 〈理事〉 吉川 博之③ 〈監事〉 福島 治⑧	稲垣 勝② 渡辺 俊一⑤ 貴田 広美⑨ 松本 (大柳) 正章① 斎藤 勝明⑬	田中 浩③ 金丸 佳子⑨			森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 市橋平三郎 清水 正樹 宮村喜志男 (14代PTA会長)
1992 (4)	〈運営委員〉 広嶋 禎数⑤ 〈会計監査〉 橋本 勝司④	田中 浩③ 松浦 昭彦①				森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 市橋平三郎 清水 正樹 田中 勝 (15代PTA会長)
1993 (5)						森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 市橋平三郎 清水 正樹 松村 正勝 (16代PTA会長)

〈顧問 (職員)〉

寺本 勉 (1976 (準備)・81~83)	渡辺 謙二 (1976 (準備)・77)	斎藤 博 (1977~9)
小川 勇 (1977~82)	石香 亨 (1977)	瀬戸 勝巳 (1978・9・81~3・6)
武田 章 (1978)	田中 靖二 (1979)	高島 弘章 (1979・80)
井上 悦男 (1980~3)	富賀 肇 (1980~4)	森井 久夫 (1980)
阿形 恒秀 (1983)	山田 忠雄 (1984)	松井 潔 (1984~8)
長尾 良広 (1985・89・90)	御堂 孝和 (1985)	吉田 正博 (1987)
川村 高明 (1988・93)	福田 貴穂 (1989)	木村 好孝 (1991~3)
光田 藤一 (1991)	内田 吉彦 (1992)	
	谷口 光夫 (1993)	

【担任一覽表】

	主任	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組	9組	10組	11組	12組
1期生	1	橋本(九)	平山	山田(博)	辰巳	高賀	田中(道)	山田(慶)	森井	坂倉	青谷	福野	山内
	2	石香	高賀	森井	坂倉	田中(道)	朝山	山内	細部	小川(宏)	青谷	辰巳	赤塚
	3	"	朝山	高賀	西崎	赤塚	坂倉	小川(宏)	辰巳	国分	田中(道)	森井	南昭
2期生	1	橋本(九)侍本	平山	山田(博)	植野	黒木	井上	裁野	船勢	香川	山田(慶)	松浦(友)	八田
	2	小川(勇)	香川	前田(昭)	藤本	黒木	八田	山田(慶)	松尾	仲谷	山田(慶)	富山	山田(忠)
	3	"	山田(忠)	名村	早川	黒木	山田(慶)	渡辺(謙)	高島	山田(博)	富山	山田(忠)	朱住
3期生	1	"	玉井	伊賀崎	小松	畑部	松浦(友)	川上	船勢	長	石上	平山	杉町
	2	瀬戸	長尾	杉町	深谷	伊賀崎	小松	雨堤	松浦(友)	川上	村上(広)	玉井	西岡
	3	"	伊賀崎	長	青谷	雨堤	小松	深谷	玉井	村上(広)	松浦(友)	山田(博)	川上
4期生	1	石島(南武)	国分	南(謙)	辻	山本(泰)	福西	浅野	松井	畑部	田中(道)	辰巳	橋本(章)
	2	南(武)	朝山	渡辺(謙)	山本(泰)	松井	橋本(章)	辻	西崎	関本	筒井	田中(道)	高賀
	3	南(武)成井	朝山	松井	早川	山本(泰)	渡辺(謙)	関本	田中(道)	国分	橋本(章)	南(昭)	筒井
5期生	1	山内	福西	長谷川	松尾	名村	中川	藤本	松下	北村	富山	南(昭)	筒井
	2	"	平山	高尾	葉田	松尾	黒木	仲谷	福西	松浦(友)	長尾	名村	藤本
	3	香川	仲谷	松浦(友)	高島	中川	名村	赤塚	松下	福西	藤本	菊田	黒木
6期生	1	"	川上	垣崎	青谷	山田(忠)	杉町	松下	西崎	雨堤	原園	矢野	瀬戸
	2	深谷	伊賀崎	武田	山田(博)	原園	村上(広)	西崎	長	杉町	富山	川上	矢野
	3	"	黒木	垣崎	山田(博)	原園	村上(広)	西崎	長	杉町	富山	川上	矢野
7期生	1	"	古田	谷口	南(昭)	浅野	板倉	朱住	筒井	村上(寛)	辻	松本(正)	国分
	2	森井	橋本(章)	谷口	山本(泰)	松本(正)	朱住	南(昭)	板倉	丸田	浅野	渡辺(謙)	村上(寛)
	3	"	古田	国分	谷口	山本(泰)	辻	松本(正)	浅野	渡辺(謙)	朱住	早川	村上(寛)
8期生	1	"	松下	名村	玉井	長尾	前田(美)	渡邊(和)	山田(慶)	関本	田中(道)	岸本	福西
	2	香川	中川	青谷	松浦(友)	仲谷	前田(美)	帯刀	長尾	山田(慶)	岸本	玉井	渡邊(和)
	3	"	青谷	岡本	松下	岸本	竹谷	藤本	渡邊(和)	阿形	福西	松浦(友)	仲谷
9期生	1	"	赤塚	大野	長	山田(博)	伊賀崎	富山	雨堤	深谷	阿形	黒木	川上
	2	西崎	杉町	雨堤	松本(正)	川上	山田(博)	阿形	伊賀崎	大野	富山	長	谷口
	3	"	阿形	大野	雨堤	長	杉町	山本(暢)	黒木	谷口	伊賀崎	川上	山田(忠)
10期生	1	"	早川	村上(寛)	筒井	林	南(昭)	朱住	渡辺(謙)	山本(泰)	松井	山田(慶)	高賀
	2	辰巳	南(昭)	別所	早川	筒井	朝山	橋本(章)	村上(寛)	村上(寛)	松井	渡辺(謙)	松下
	3	"	南(昭)	松本(正)	渡辺(謙)	山本(泰)	別所	村上(寛)	松下	松井	林	谷口	筒井
11期生	1	"	帯刀	吉田	房本	青谷	藤本	渡邊(和)	神間	房本	岡本	山長	玉井
	2	赤塚	長尾	神屋	玉井	吉田(正)	詫間	渡邊(和)	岸本	房本	岡本	古田	詫間
	3	"	帯刀	神屋	房本	岸本	古田	玉井	筒井	藤本	吉田(正)	別所	詫間
12期生	1	"	米田	野口	香川	菊田	田中(道)	辻	増田	前田(美)	西崎	富山	大野
	2	長	野口	香川	米田	内田	光田	原園	田中(道)	黒木	増田	前田(美)	富山
	3	"	黒木	光田	増田	大野	長	香川	富山	米田	前田(美)	野口	田中(道)
13期生	1	"	阿形	藤井	鳥越	林	早川	坂本	市口	橋本(章)林村	三輪	吉田	武市
	2	板倉	田中(健)	早川	朱住	林	三輪	市口	加賀	木村	鳥越	武市	橋本(章)
	3	"	朱住	雨堤	早川	市口	阿形	木村	林	鳥越	服部	橋本(章)	武市
14期生	1	"	松井	谷口	妻谷	中坂	岸本	松本(正)	木島	房本	松浦(紀)	福西	中須賀
	2	村上(寛)	松浦(紀)	谷口	帯刀	中坂	松井	中須賀	岸本	松本(正)	筒井	神屋	妻谷
	3	"	岸本	妻谷	神屋	阿形	松本(正)	中坂	松井	中須賀	野口	筒井	松浦(紀)
15期生	1	"	岡田	大塚	田中(有)	菊田	高松	玉川	別所	藤本	杉田(有)	坂上	鈴木
	2	吉田(正)	詫間	杉田(有)	木村	坂上	鈴木	大塚	大野	岡田	藤本	高松	鈴木
	3	"	岡田	吉川	坂上	木村	早川	野口	詫間	杉田(有)	鈴木	大塚	大野/山口
16期生	1	"	吉元	川村	渡辺(武)	光田	長	内田	伊藤	稲田	吉田(淑)	磯野	山本(陽)
	2	鳥越	光田	長	吉元	川村	内田	稲田	磯野	吉田(淑)	伊藤	渡辺(武)	山本(陽)
	3	"	渡辺(武)	長	磯野	伊藤	稲田	内田	岡本	吉田(淑)	吉元	中坂	光田
17期生	1	"	阿形	小西	南(昭)	内本	筒井	服部	増田	奥田	杉本	武市	雨堤
	2	三輪	増田	雨堤	武市	香川	田原(久)	吉川	小西	奥田	杉本	阿形	雨堤
	3	"	香川	内本	服部	杉本	増田	田原(久)	武市	奥田	杉本	阿形	雨堤
18期生	1	"	詫間	田中(有)	塩田	林	田中(健)	西野	北山	湯浅	田島	松本(正)	松浦(紀)
	2	山口	北山	塩田	菊田	林	松浦(紀)	松本(正)	寺本	田中(健)	森	安	田島
	3	"	林	塩田	内田	松浦(紀)	詫間	田中(健)	森	安	菊田	北山	西野
19期生	1	"	妻谷	楢原	河上	金丸	吉田(正)	杉田(真)	河内	平岡	中川(洋)	中島	橋本(保)
	2	岡田	中島	川村	稲田	橋本(保)	平岡	妻谷	河上	金丸	橋本(保)	松本(貴)	松本(正)
	3	"	中島	川村	稲田	橋本(保)	平岡	妻谷	河上	金丸	橋本(保)	松本(貴)	松本(正)
20期生	1	中川(武)	冠木	伊藤	磯野	請田	田原(伸)	塩野	中川(輝)	中須賀	関本	吉田(淑)	田原(久)

【部活動・同好会・サークル活動顧問・監督】

《運動系部活動 1993（H5）年現在》（ ）は通算顧問期間、(1)は省略

柔道	武田(10) 川上(3) 富山(12) 服部(3)
[1974~]	長(3) 塩田(4) 湯浅(3) 中島(3)
剣道	辰巳(2) 山田慶(3) 井上 小川勇(10) 矢野 田中靖 村上広(2) 渡邊和
[1974~]	小田 光田(4) 藤本(4) 服部 玉井 吉田正(6) 奥田(4) 吉田淑(4) 高繁 佐藤
卓球	植野(3) 中沢(2) 村上広(2) 辰巳 山田忠(2) 古田(8) 筒井(9) 神屋 平山
[1974~]	妻谷(8) 松浦紀 鈴木(2) 伊藤(6) 杉田有 坂上 田原伸 塩野(2) 浅井
陸上競技	青谷(3) 黒木(13) 赤塚(5) 内田(9) 小澤(2)
[1974~]	渡辺武 川村(6) 林(4) 大川原
硬式野球	田中道(10) 武田(2) 山内(2) 山田忠(5) 西岡(8) 岡本耕 深谷(2)
[1974~]	野口(10) 藤井(9) 鳥越(7) 田中有(3) 中谷
ワンダーフォーゲル	平山(9) 来住(6) 早川(11) 房本(9) 鳥越(2)
[1974~]	香川 平岡(3) 松本正(3) 田中健(3) 阪本
硬式テニス	南武(3) 清(2) 末広(2) 川中 西崎(9) 山本泰(8) 岡本(8) 林(9)
[1974~91]	三輪(7) 木村(5) 服部(4) 高松 杉本 詫間 松浦紀 森安
男子硬式テニス	[1992~] 三輪(2) 服部(2) 森安(2) 松本貴(2) 松浦紀
女子硬式テニス	[1992~] 林(2) 木村(2) 杉本(2) 山口(2) 松浦紀
軟式テニス	南武(6) 清(2) 長谷川 福西(9) 板倉(6) 別所(3) 中須賀(6) 服部
[1974~91]	中坂 帯刀 渡辺武(4) 小西(3) 松浦紀(2) 増田(2) 吉元 詫間 平岡
男子軟式テニス	[1992~] 小西(2) 中須賀(2) 詫間(2) 平岡 中川洋
女子軟式テニス	[1992~] 渡辺武(2) 吉元(2) 長(2) 孝橋
男子バレーボール	山田博(3) 小松 前田昭 福西(3) 谷口(12)
[1974~]	長(8) 田原久(5) 中川武(3) 雨堤(2) 橋原
女子バレーボール	杉本 菊田(石川)(10) 前田美 吉野 伊賀崎(4) 黒木(3) 田中道
[1974~]	内本(2) 谷口 田原久(2) 橋原(3) 河上 井上 小澤(2)
男子バスケットボール	青谷(9) 西崎 矢野 谷口(3) 房本 木村 光田 御堂
[1974~]	中坂(6) 杉田有(3) 赤塚 磯野(6) 坂上 中川洋(3) 諒田(2)
女子バスケットボール	川上 青谷(10) 長谷川 谷口 仲谷(2) 赤塚(2) 別所(5) 中坂
[1974~]	杉田有(3) 吉川(5) 辻本 田中由 中川輝(2) 冠木(2) 田原伸 坂上
バドミントン	松浦友(9) 板倉(2) 山本泰 伊賀崎(2) 村上寛(11) 川上(2) 金銅 藤本
[1974~]	西崎 渡辺謙 筒井(7) 高松 松本正(6) 関本(3) 北山
サッカー	山内(3) 南昭(15) 神屋(2) 光田 加賀(2) 来住 尾大
[1974~]	森安 河上(3) 田島(2) 西野(2) 稲田 中谷
ラグビー	山内 朝山 小川宏(4) 松下(9) 筒井 松本正(5) 吉田正(4) 田中健(7)
[1974~]	木村(6) 板倉(2) 湯浅(2) 松井治 岡本 内本 米田 黒田
男子ハンドボール	井上 釜ヶ谷 渡辺謙 山内 長谷川 橋本章(2) 仲谷 岡本耕 阿形
[1974~]	山田慶(2) 岸本 田中健 坂上(5) 鈴木 大塚明 田中由(2) 伏井(2) 山口(2)
女子ハンドボール	釜ヶ谷(2) 松井 垣崎 山内 長谷川 上笹 岸本(11) 岡本貞 香川 黒木(3)
[1974~]	阿形(3) 田中有(4) 来住 内本 鈴木 大塚明 杉田真(2) 増田(2) 田中由(2)
女子ソフトボール	小川宏(2) 山本泰 早川 鈴木玲(2) 八田 関本 中川一(6)
[1975~]	中谷工(7) 松本正(3) 森井(2) 渡邊和(4) 香川(3) 加賀 光田(6) 岡田(7) 藤井(2)
	野口 湯浅 河内(3) 伏井(2) 寺本(2)
水泳	富賀 国分(8) 石香(2) 山田博 山本泰(3) 市口(5) 林(5) 武市(3)
[1974~]	稲田(2) 中川輝 高繁 山口(2) 田中由 松本貴(2) 田島 金丸(2) 中島
体操	武田 玉井(12) 武市 9 詫間(2) 山本陽
[1974~79・81~]	稲田(3) 橋本保(3) 妻谷(2) 奥田

《1993（H5）年現在、活動していないクラブ・同好会・サークル》

【バトン [1974]】板倉 【軟式野球 [1977]】筒井 【自転車競技 [1977]】石上
 【男子ソフトボール [1975・6]】船勢(2) 松浦友 【武道同好会 [1975~85]】仲谷(11) 辰巳(4)

《文化系部活動 1993 (H5) 年現在》

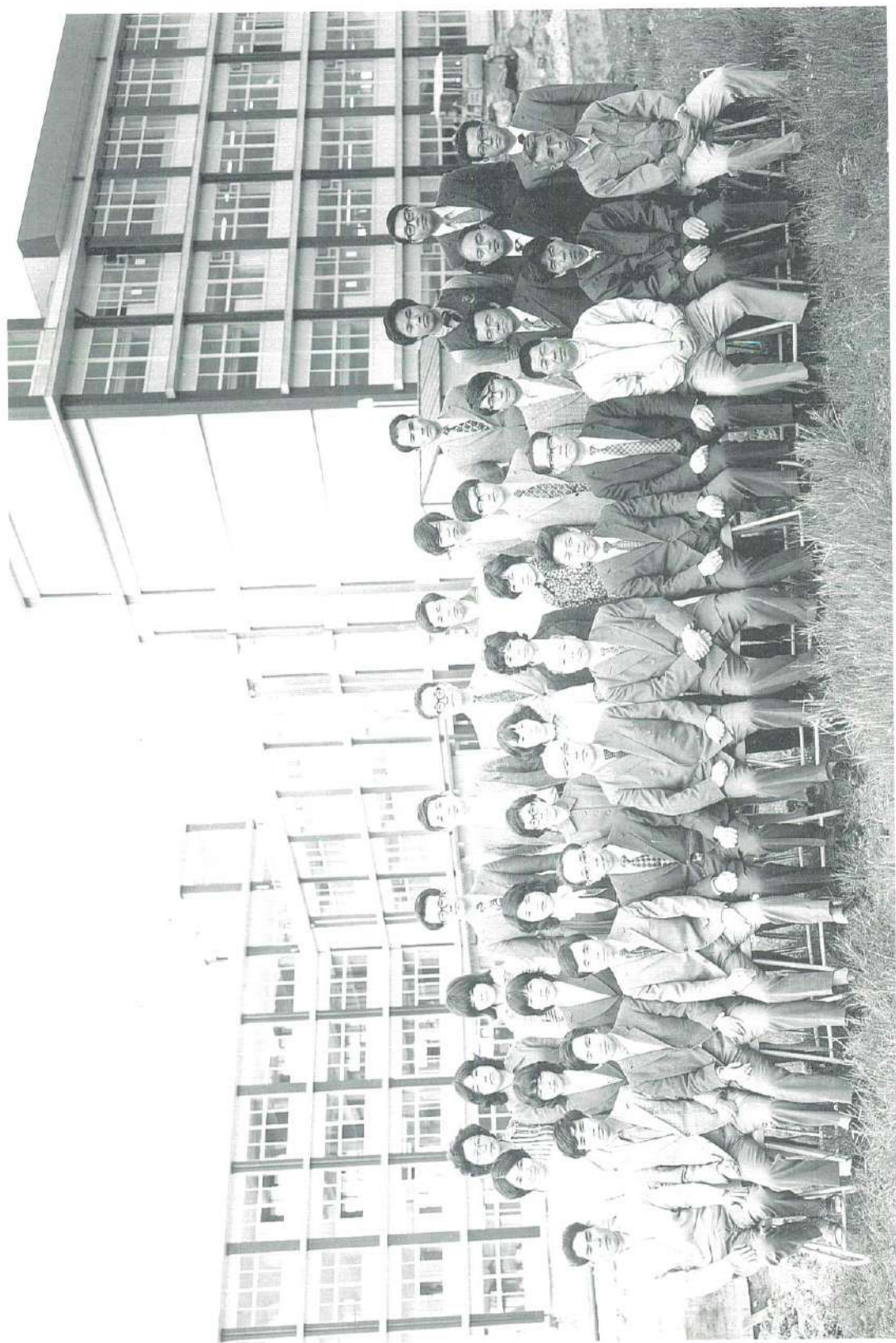
演劇 [1974~]	辻(6) 香川(9) 渡邊和(7) 垣崎 山本陽(2) 藤本(2) 渡辺謙(2) 市口(5) 吉元(6) 田島 関本(2) 中島洋 野口(2) 吉田正 阪本 田原久
吹奏楽 [1977~]	朝山(8) 長尾(12) 橋本章(4) 木島(10) 鳥越(2) 光田 鈴木(3) 伊藤(4) 金丸 平岡(3) 内本(2) 奥田
美術 [1975~]	寺本(19) 長谷川 瀬戸(4) 原園 詫間(8) 雨堤(3) 原 松浦紀(4) 岡本(3) 奥田 田原伸(2) 田中由 藤井 塩田
フォークソング [1975・79~]	川中 西田 矢野 名村 大野 木島(3) 村上晃 前田美(6) 別所(6) 坂本 早川 大塚信(2) 鈴木 内本 中坂(2) 岡田(4) 阿形(2) 磯野(3) 吉田正 佐藤 大川原
ESS 英文タイプ	[1992~] 吉田淑(2) 杉本(2) 大塚明 増田(2) 孝橋 雨堤 [1977~91] 小松(2) 瀬戸(6) 辻(6) 辰巳 山田慶(5) 丸田 古田 杉本(2) 雨堤(3) 妻谷(2) 増田 吉田淑
ESS	[1977~9・83~91] 山本泰(3) 吉田淑(6) 山本陽(3) 杉本(3) 大塚明
地歴研究	[1975~7・9~] 橋本九(2) 畑部 富賀(6) 平山(6) 筒井 村上晃(4) 松下 松本正(7) 斎藤 佐藤 川村(4) 小川(3) 小西(3) 請田 浅井 詫間 冠木
漫画アニメ 漫画研究	[1993~] 吉川 林 請田 服部 [1978~92] 仲谷(8) 大屋 渡辺謙(6) 増田(6) 加賀(2) 吉田正 小川勇 大塚信 光田(2) 吉川(3) 田原久 野口 松井治 大野 藤井
アニメ研	[1985・8~92] 村上晃 荒瀬 大野(4) 小川勇(2) 服部(3) 田中由 鈴木 橋原(2) 渡辺武
放送 [1976~]	山田博(8) 杉町(7) 増田(2) 雨堤 香川(7) 平山 来住(2) 長(5) 内本(2) 中川洋 坂上(3) 内田(2) 三輪 橋本保
茶道 [1977・80~]	松井美(8) 藤本(4) 原園 帯刀(3) 浅野(2) 板倉(3) 岸本 稲田(6) 木島(2) 吉元(3) 米田(4) 黒田(2) 井上
現代音楽 [1979~]	中川一(4) 田中道(10) 藤本(5) 早川 中川輝(2) 中島(3) 冠木 関本 伊藤 中須賀 渡辺武
ボランティア [1983~]	赤塚(2) 房本(8) 福西(3) 阿形(2) 光田(2) 中須賀(5) 内本 辻本 森安(3) 岡本 中川洋(2)
箏曲 [1977・88~]	原園 板倉(2) 田中有(6) 大塚信(2) 北山(3) 雨堤 中川武(3) 菊田(2) 三輪

《同好会・サークル活動・1993 (H5) 年現在》

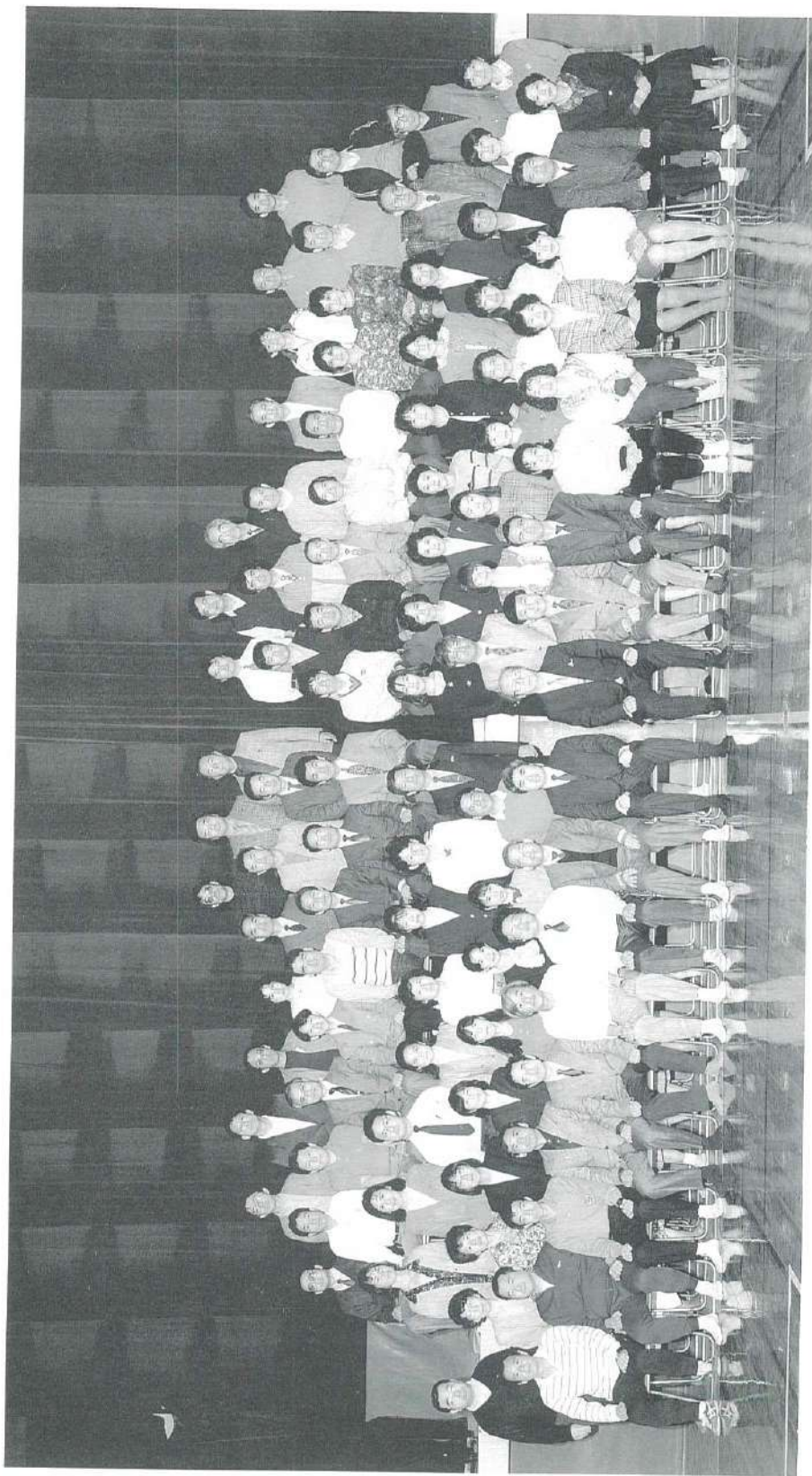
コーラス [1975~88・92~]	森井(7) 長尾(10) 矢野 前田美 雨堤(6) 甲斐 木島 中須賀 橋本保(2) 金丸(2) 関本(2) 河内(2) 阪本
PEC:ライヴ [1981~]	川上(6) 橋本章(3) 神屋(5) 内田 高松(3) 松浦紀(3) 杉田有 武市(4) 渡辺武(2) 伊藤(2) 中坂 中川洋 北山(2) 山口(2) 田原伸 鳥越(2) 川村 来住(9) 浅野(3) 末広 原園 鳥越 杉田真(2) 西野(2)
書道 [1980~7・9・92~]	米田 田中由(2) 塩野(2) 湯浅(2) 奥田

《1993 (H5) 年現在、活動していないクラブ・同好会・サークル》

【囲碁 [1977]】辰巳	【ロック音楽鑑賞 [1977]】中川一	【園芸 [1977]】石香
【古典研究 [1977]】深谷 藤本	【将棋 [1977]】香川 橋本章	【科学研究 [1978]】富賀
【化学研究 [1979]】山田忠	【生物 [1980~3]】福西(4)	【IBC [1982・3]】大野(2)
【軽音楽 [1974~8]】佐竹 長尾(4) 長谷川 垣崎(2)	【手芸 [1974~8]】黒田(5) 浅野 藤本	
【部落研究 [1974~81]】平山(3) 赤塚(2) 村上広(2)	【英語研究 [1977・8]】名村 奥田康 杉町	
【映画研究 [1977・9]】雨堤 松尾(2)	【鉄道旅行研究 [1977~8]】長(2)	
【数学研究 [1977~9]】松尾(2) 大屋 橋本章 藪野 川上	【料理研究 [1982・3]】帯刀 青谷 吉田	
【文芸 [1975~82]】藤本(2) 名村(6) 荒瀬 松井美(5) 渡辺謙(2)		
【新聞 [1980~7]】名村(4) 山田博(2) 阿形(7) 赤塚 光田(3)		
【囲碁将棋 [1983~7]】橋本章(4) 筒井(2) 御堂 辰巳 三輪(2) 村上寛(2)		
【写真 [1974~91]】森井(10) 伊賀崎(2) 杉町(3) 福西 筒井(7) 来住(4) 木村 三輪(2) 谷口 河内 橋本保		
【華道 [1977~81・3~92]】北村玲(2) 前田美(3) 辻 原園 大野(9) 米田(6) 帯刀(3) 奥田(2) 西野(2) 杉田真 塩田(2) 雨堤 伏井		



1974年（昭和49年）教職員写真



1993年（平成5年）教職員写真

【職員在籍異動】

数字は学年主任、は主任・部長

	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	現勤務校
校 長																					
森田 敏夫																					退 職
土井 善博																					死 去
山田 忠雄																					退 職
市橋平三郎			教 頭																		(私)浪速高
清水 正樹														教頭							高津高校長
油上 良蔵																					
教 頭																					
岡原 勝																					退 職
村田 義人																					退 職
市村 拓郎																					退 職
緒方 淳子																					(私)金蘭会 副校長
中川 幸雄																					山本高教頭
杉岡 俊男																					
浅野とも子	指	進 路							総 務	進 路											長 野 高
板倉 圭子	保 健								進 路			1	2	3	教						大和川高
仲谷 早苗 (釜ヶ谷)	教 務																				河 南 高
森井 久夫	指	進	図 視	3	1	2	3	図 視													東住吉高教頭
香川 義憲		教 務	3	1	2	3	教	総 務	図 視	教	図 視										
藤本知代子	生 指	教 務					総 務	保 健	総 務												生 野 高
松井美智子	教	保 健	進 路	教 務	生 指																東住吉高
長 実		図	生 指	保 健	1	2	3	保 健	教	保 健											
長谷川智子		図 視																			退 職
原箇美恵子 (西 岡)	総	図	進 路	教 務	生指																長 野 北 高
深谷 実	進	図 視	1	2	3	教 務															(私)城南学園高
中川 一男	講	生 指																			長 吉 高
岸本アヤ子			生 指	教 務	指 教	総															羽 曳 野 高
別所 俊彦			生 指	教																	信 太 高
米田けさ子				教 進	図	保 健															
加賀由起子 (坂 本)						保 健															枚 方 高
服部 真人								教	図	教	図 視	進 路									
大塚 信子															指	進 路					港 南 高

	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	現勤務校	
吉元紀美子																						保健
中川 輝美																						教 務 総 務
西野小枝子																						総 務 図 視
森安 雄生																						総 務 図 視 進
関本 幸子																						総 務
中川 武之																						生 指 1
平岡 宏一																						進 路 指
社 会																						
橋本九二男	1	1	図																			退 職
平山 良彦	生 指				図 視					教 務					進 路							長 吉 高
赤塚 民三	生 指	進	生	指							1	2	3									府 教 委 主任指導主事
石香 亨	2	3	1																			退 職
畑部 裕	教 務	図																				狭 山 高
雨堤 敏子			保 健		総 務	教 務				進 路												教 務 図 視 総 務
小川 勇	2	3	総 務							保 健				特 別 講 師								講 師
北村 玲子 (橋本)	生 指	教																				守 口 東 高
早川 友三	講	生 指	教 務	進 路	生 指	進 路																長 吉 高
村上 広行	教 保	教 務																				守 口 北 高
渡辺 謙二	総 務	指 教	生 指																			大 手 前 高
関本 幸子		教 務																				茨 木 東 高
高島 弘幸	生 指	総 務																				平 野 高 校 長
田中 靖二		指 総	図																			豊 島 高
矢野 勝彦		保 健	図 視																			豊 中 高
大野木好江		保 健	図 視	進 路	教 務	図 教 務																阿 倍 野 高
松本 正		図 保 健	教 務	図 指	進 路	図 指	生 徒															
阿形 恒秀		講 師	保 健	総 務	生 指																	派 遣 (派遣先) 野門 教育大大学院
吉野 勇二		教																				高 田 林 高 校 長
房本 進吾			保 生	指 教	指																	平 野 高
村上 晃美			教 務																			府 教 委 参 事
光田 藤一			生 指	図 総																		平 野 高
岡田 正雄				生 指	教 1	2																
川村 高明				総 教 務	図 総																	
小西 顕治				生 指	教																	
湯浅 博				生 指																		

	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	現勤務校		
中島 明人																			指	生	徒		
橋原 竜二																			教	生	指		
請田 正幸																					進	路	
塩野 順夫																					生	指	
大川原香子																						図	
数 学																							
川上 俊次																						東住吉高	
田中 道雄																						山本高	
中澤 一																						信太高	
松浦 友志																						富田林高	
南 武夫																						死去	
伊賀崎良太																						長野高	
大屋ひろみ (川中)																						退職	
藪野 清																						八尾高	
西崎 実																						八尾東高	
前田美恵子																						羽曳野高	
松尾 好文																						金剛高	
橋本 章																						富田林高	
岡本 貞美																						羽曳野高	
村上 寛明																						河南高	
木島 淳子 (六島)																						富田林高	
詫間 尊丸																							
武市 哲明																							
高松 史朗																						阪南高	
田中 健一																							
中坂 欣司																						貝塚高	
稲田 和子																							
田原 久徳																							
山口 湧三																							
河内 正行																							
田原 伸																							
松本 貴仁																							
中谷 利春																							
阪本百合子																							

	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	現勤務校	
理 科																						
荒瀬 和夫	保 健		教 務			図 視																退 職
植野 敏郎	指 教 進																					岸和田高
富賀 肇	保 総 指		総 務 保		総 務 教																	登美丘高
山田 博	生 指		図 視		生 指																	泉陽高
朝山 浩和	総 図 指		進 路 保 健																		港 高	
末広 礼二	進 路 教 務																					(私)金光八尾高
仲谷 隆次	生 指																					西成高
船勢 省三	総 務																					和泉高
前田 昭吾	総 務																					貝塚南高(講)
石上 知良	生 指 教																					鳳 高
山田 忠男	生 指 教																					大手前高(定)
筒井 完次	生 指		教 務 進 路			総 教 務																藤井寺工高
福西 浩	指 図		生 指 教 務 保 教																		西成高	
松下 元彦	生 指 教 図 指 保 指																					羽曳野高
谷口 房伸	生 指																					西浦高
野口 俊一	指 教 務 指 進 路																					
吉田 正博	生 指		総 1 2 3 図 教 指																			
内田 吉彦	生 指			総 教																		
鳥越 啓嗣	図 教 務		1 2 3 教 務																			
三輪 昌孝	指 進 路		図 1 2 3 図																			
杉田 有史	総 図 視 教																				勝山高	
松浦 紀彦	教 務 図 保 進 路																					
坂上 公一	教 務 保 図 視																					
伊藤 眞治	生 指 進 教																					
橋本 保子	指 保 健																					
伏井 信之	教 指																					
冠木 宇治	徒 教																					
保 健 体 育																						
青谷 耕児	保 生 保 教		生 指																		泉大津高	
井上 真也	指 保																					農芸高(定)
武田 章	生 指		総 保 健 図 総 務 指																		(私)初芝高	
菊田 秀子 (石川)	保 健 教 務 総 保 健 図 保 教 務 図 指																					
黒木 秀臣	保 指 保		生 指 図 保 指																		池島高	

	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	現勤務校		
国分 俊夫	生			指																		河 南 高	
玉井 規雄	生 指		図		生 指		保 健		教 生 指												東 百 舌 鳥 高		
富山 治正	指 保 指		保 健		生 指		保 健		教 指												今 宮 高		
南 昭	保 健		生 指		総 務		進		生 指		総 務												富 田 林 高
林 誠											指 教 務		生 指			保 指							
藤井 克弥											指 図		保 健										
磯野 彰											保 生 指												
渡辺 武											生 指		生 徒										
吉川 憲司											生 指		生 徒										
塩田 明彦											生 指		保										
河上 修											総 保		徒										
芸 術																							
杉本 照子(音)	指																					退 職	
長尾 良広(音)	保		総 務			図 視		総 務		図 保		図 総 務										港 高	
金丸 七郎(音)											総 務												
寺本 勉(美)	1		総			務																	
来住 隆一(音)	指 保		進 路		図		視		総 務		図										高 槻 北 高		
杉田真規子(音)											図 視												
英 語																							
佐竹 鈴子	教																					堺 東 高	
辰巳 静司	教 務		進 路			1 2 3																	花 園 高
辻 礼子	教		総 務			保 健		図															西 浦 高
山内 政治	教 進 路		総 1 2																	池 田 北 高			
山田 慶文	教 進 路		保 健		総 務															東 住 吉 高			
小川 宏恭	生 指		充指導主事																		府 教 委 教 育 次 長		
奥田 康子 (八田)	指 図 総																					旭 高	
小松 基二	指 教 務																					住 吉 高	
山本 泰史	総		生 指																		堺 東 高		
杉町 直之	指 教		総 教		図 視		保															金 岡 高	
瀬戸 勝巳	1 2 3		総 務			特 別 講 師												羽 曳 野 高(講)					
名村 恵史	進 生 指		図 視		進 路															交 野 高			
山本 陽子 (垣崎)	教 務		進 路		生 指		保 健		図 視												平 野 高		
竹谷 靖孟	保 健		総																	退 職			
丸田 和子	指 教		保 健																	羽 曳 野 高			

	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	現勤務校	
古田由太郎								指	教	務	指	総	務									死 去
渡邊 和也								保	生	指												河 南 高
吉田 淑子								保	健	教	務	図	視	教								
神屋 和夫								指	図	保	図	視										河 南 高
増田恵理子								総	務	図	保	健	総	務								
市口 幸男								総	進	路												生 野 高
田中有美子 (岩崎)								総	務	指	総	保	健	総	務							
木村 好孝								図	視	総	務											
妻谷 光治								図	進	路	指	進	生	指								
中須賀敬子								総	務	生	指	生	徒									
杉本 光恵								進	教	教	務	教	総									
鈴木 和子								図	教	務	総											富 田 林 高
内本 雅之																進	路	教	務			
北山 祥子																指	総	教	務			
田島 和久																教	指					府立青年の 家指導主事
中川 洋一																生	指	教				
家 庭																						
清 由美子	生	指																				退 職
帯刀多余子 (菊池)		生	指	図	教	図	視	教	図	教	図	教	図									北 千 里 高
奥田真由美																教	指	保	健			
井上 知子																						進
養 護																						
黒田シマ子								保														健
実 習 助 手																						
奥田 直美	家	庭																				
中井裕美子		生																				物
小久保智子 (安達)	化	学																				退 職
北村 直子								図														書
樋下喜美子		化	学																			退 職
北浦智代子								化														港 南 高
杉田 京子 (和田)																化						学

〈同推委員長〉

平山 良彦 (74・75) 名村 恵史 (76・83) 赤塚 民三 (77~81) 園分 俊夫 (82)
 福西 浩 (84~87) 房本 進吾 (88~90) 藤井 克弥 (91・92) 小西 顕治 (93)

	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	現勤務校
事務長																					
齊藤 博																					退職
井上 悦男			主	査																	退職
松井 潔																					退職
福田 貴穂																					
主査																					
溝畑 与文																					退職
河原 昭弘																					退職
緒方 正																					生野高主査
谷口 光夫																					
主事																					
望月 朝子																					死去
近藤 利弘																					南寝屋川高 主査
鹿屋 英子																					死去
小谷 光一																					富田林土木 主査
中谷 工																					富田林高
倉淵 礼子																					主担主事
花岡 弘																					三国ヶ丘高 (定)主査
松井 高美																					堺工高(定) 主査
西野 正幸																					主担主事
森 博嗣																					
野村 芳美																					
山崎美和子																					
技師																					
大中 一久																					特別嘱託員
秋田 正夫																					退職
林 綾子																					農芸高 (特別嘱託)
西岡宗三郎																					
速藤 勇																					技能員
校医・歯科医・薬剤師																					
藤井 清	校医																				
西 真勝																					校医
門口 元信																					歯科医
芝田 健二																					薬剤師
田中 充子																					薬剤師

【講師】 (「*」印は期限付講師・産休講師・育休講師期間を含む講師、本校が配置校であるA.E.T.)

国語	大岡加寿子 (75)	藤井美智子 (75)	川久保明美 (76)	*永淵友季子 (76)
和田 忠明 (76)	藤山 恭子 (77)	対島 洋子 (78)	平松 綾子 (78)	*上笹 敦子 (78-90)
金定 典子 (79)	谷 知勢子 (79)	芝田 文子 (79)	長田 初子 (80-3)	*堀内佐容子 (82・3・6・7)
*三苫 利光 (84)	*御堂 孝昭 (85)	森 保隆 (85)	今井喜美江 (85)	西川 陽子 (85)
亀田久美子 (87)	藤本 幸二 (88)	森 克之 (89)	大島 麻紀 (91)	*辻本 尚子 (89-93)
川北 百合 (91)	河合 千佳 (92)	田中 馨 (93)		
社会	武部 正夫 (74)	*岡山 昭道 (76-8)	春永 幹夫 (77・8)	北野 吉伸 (81)
松島 真理 (82)	関口 靖之 (83)	*小田 昭善 (83)	高津 吉辰 (86)	北村大桂司 (86)
西上 毅 (85-7)	*齋藤 光正 (87)	*佐藤 浩史 (88・9)	江口 祐一 (88)	*尾大 徹 (89)
三好 (辻井) 悦子 (90・1)		*田中由起子 (90-3)	中村 豊 (93)	
数学	中沢 一 (76)	奥田 豊 (76)	池野 雅与 (77)	三浦加津子 (77)
紙田 春夫 (78)	*鳥越 (逆瀬) 良子 (78・9)		鯉川 英昭 (79)	*松下 千明 (80)
和泉 礼二 (81)	斎藤 仁保 (81)	*金銅 章好 (80-3)	沼田 充史 (81)	乾 有子 (82・3)
*井坂 宗充 (83)	兵部 雅彦 (84)	*中村 章 (84・5)	泰 成光 (85)	寺下 公章 (86)
飯田 豊彦 (86)	奥村 林蔵 (86-8)	亀井 秀則 (89-91)	日原 光彦 (89)	*西門 宏子 (91)
*島川 直子 (92)	佐谷野紘子 (92・3)			
理科	土井 一久 (76)	竹川 元章 (76)	古田 英文 (78)	目 康夫 (79)
守本 隆保 (78-80)	青木 隆 (80・1)	*木村 和男 (80-3)	*山下 敬介 (82)	竹見 紳一 (84)
池田 昌弘 (84-7)	田畑 滋久 (84・5)	中西 聡子 (85)	矢野富士夫 (85)	谷本 理 (88・9)
中村都史江 (89-91)	溝口 恵司 (90)	盛山 武祥 (91・3)		
保健体育	渡辺富美子 (74)	吉田五十鈴 (74)	服部 幸 (76)	玉井 (竹下) 祥子 (76)
山口 健一 (76)	中島 滋泰 (76)	土井 暢哉 (76)	根本 道世 (77)	杉野美智子 (77-80)
上野 訓史 (79・80)	岡山 智美 (81-4)	松浦 昭彦 (81-3)	平川 浩子 (85)	望月 香 (85・7)
秋田 泰史 (86)	*永井小百合 (86)	*小澤 千晶 (88-90)	堀内由貴子 (90)	小林 美香 (91)
浜野 豊 (91)	矢野 直子 (92-3)	渡邊 一正 (93)		
芸術	井関 啓 (76-8)	佐野 史子 (79)	田中由喜子 (81・2)	金丸美由紀 (88)
川中 康子 (88)	<以上 音楽>	北島 博 (74)	上田 敬文 (77)	<以上 美術>
島田 まり (74-6)	陰山知代子 (88・91)	森田 智美 (92)	<以上 書道>	
家庭	以倉 淳子 (75-87)	小林 英子 (75)	山口 志都 (78)	*大島 幸子 (80)
房本 (中谷) 佳代 (82-4)		橋本 尊子 (85)	長尾 春美 (86)	米田 冷子 (88-91)
深田 満香 (91)	中村すみ系 (92)			
英語	横井 正昭 (74)	石原 光 (74)	槽谷 博子 (75)	前田 正和 (76・7)
西村 光生 (76)	川野 道生 (76)	*西田 幸雄 (76-9)	*影山 恵則 (78)	渡辺 (阪上) 伸子 (78-83)
飯田 治夫 (78)	*芝 郁郎 (79)	*村井 宗行 (80)	新田 裕子 (80-4)	*岡本 耕一 (81)
柳本 光世 (81)	*服部 法住 (81)	*吉村 直哉 (82)	*山本 明司 (83)	高浦 玲子 (84)
*甲斐 正子 (85)	*小林 道雄 (85)	佐田 美恵 (85)	早川 (西野) ひろみ (87)	
*山下 良材 (87)	内本 由美 (86・8-92)		*長橋 昌子 (87)	*栗栖 芳郎 (87)
*今枝 恒雄 (88)	稲垣 整 (88・9)	安 (中山) 和子 (88)	山根 矩昭 (88)	*高繁 勝彦 (88-90)
*大塚 明子 (91・2)	*松井 治樹 (92・3)	浅井 陽子 (92)	佐藤 尚美 (93)	孝橋 明子 (93)
A. E. T.	INGRID WISNIEWSKA		*ANTHONY J. CROOKS (82/9-83/8)	
STEPHEN M. RYAN (85/1-3)	KARYN McCARTONY (87/1-8)		JAMES STROCHAN (89/4-8)	
ROBERT J. GARRITY (90/4-7)	*ALISON M. SUETT (90/8-91/7)		*SHELLEY M. KEACH (91/8-93)	
助手・補助員・特別嘱託員	長谷川楯子 (教務事務: 75-93)		田吹 賢司 (事務: 76)	
橋目 安世 (事務: 77-8)	大菅由美子 (家庭: 78-93)		沢口 許子 (家庭: 79-80)	
細田 満代 (家庭: 80)	*高須 澄子 (事務: 82; 理科: 83)		松野 力 (特別嘱託員: 88-91)	

《20周年記念事業実行委員会》

実行委員長	宮村喜志男	(前育友会会長)
副委員長	若林和博	(同窓会会長)
	田中勝	(育友会会長)
	松村正勝	(PTA会長)
書記	福森美代子	(前PTA副会長)
	木村好孝	(総務部長)
会計員	福田貴穂	(事務長)
	神田豊澄	(育友会副会長)
	長谷川一郎	(前PTA副会長)
	池本義雄	(前PTA副会長)
	池田勝彦	(同窓会副会長)
	稲垣勝	(同窓会副会長)
	田中浩	(同窓会副会長)
	中元和子	(PTA副会長)
	大崎武史	(PTA副会長)
	中島茂夫	(PTA副会長)
	杉岡俊男	(教頭)
	寺本勉	(同窓会顧問)
顧問	油上良蔵	(校長)
	原尾毅一郎	(元育友会会長)

《創立20周年記念事業に関する総務委員会(教職員)》

校長	油上良蔵		
教頭	杉岡俊男		
事務長	福田貴穂		
総務部長	木村好孝		
同窓会代表顧問	寺本勉		
記念式典係	小西顕治	吉田正博	
記念誌係	岡田正雄	田中健一	
記念特別事業係	長実	香川義憲	
記念祝賀会係	三輪昌孝	山口湧三	

《表紙題字》杉田真規子

《遠望図(21頁)》寺本 勉

発行日	1993年(平成5年)11月6日
発行	大阪府立藤井寺高等学校
	〒583 大阪府藤井寺市津堂3丁目516
	電話 0729-39-7750
編集者	創立20周年記念事業に関する総務委員会 記念誌係
印刷所	株式会社 ひかり工房
	〒556 大阪市浪速区恵美須東1-10-2
	電話 06-641-6011



